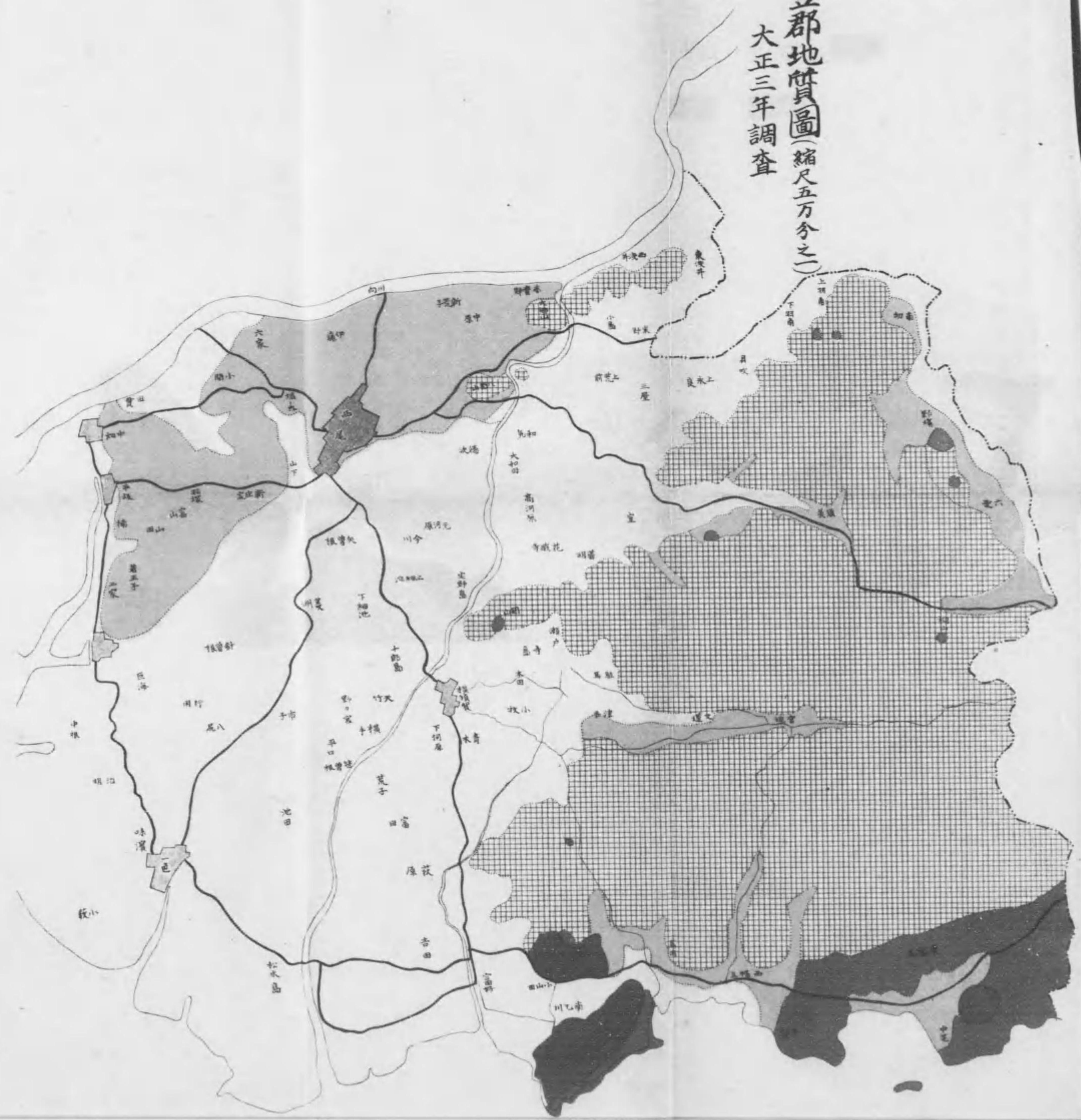
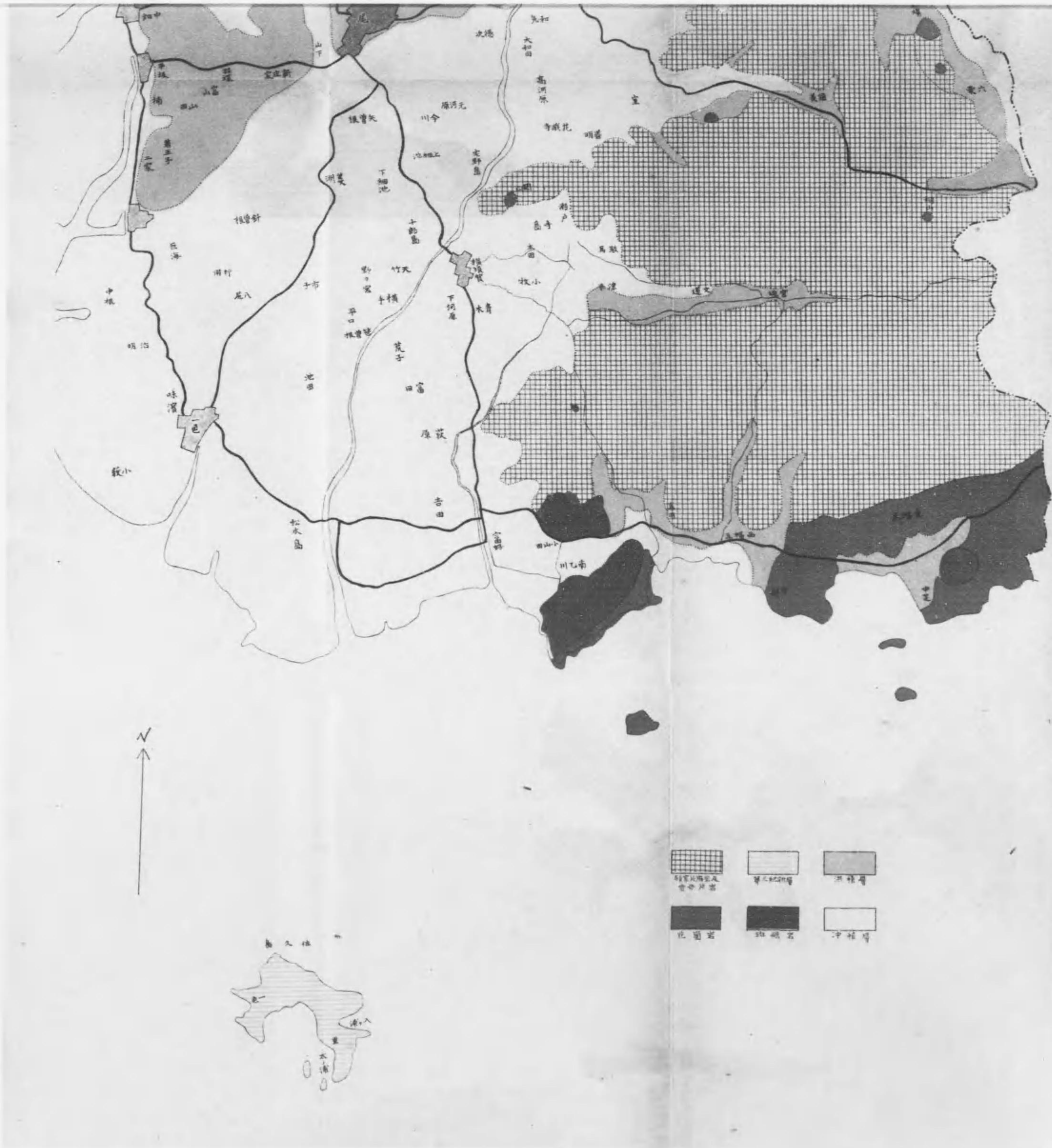
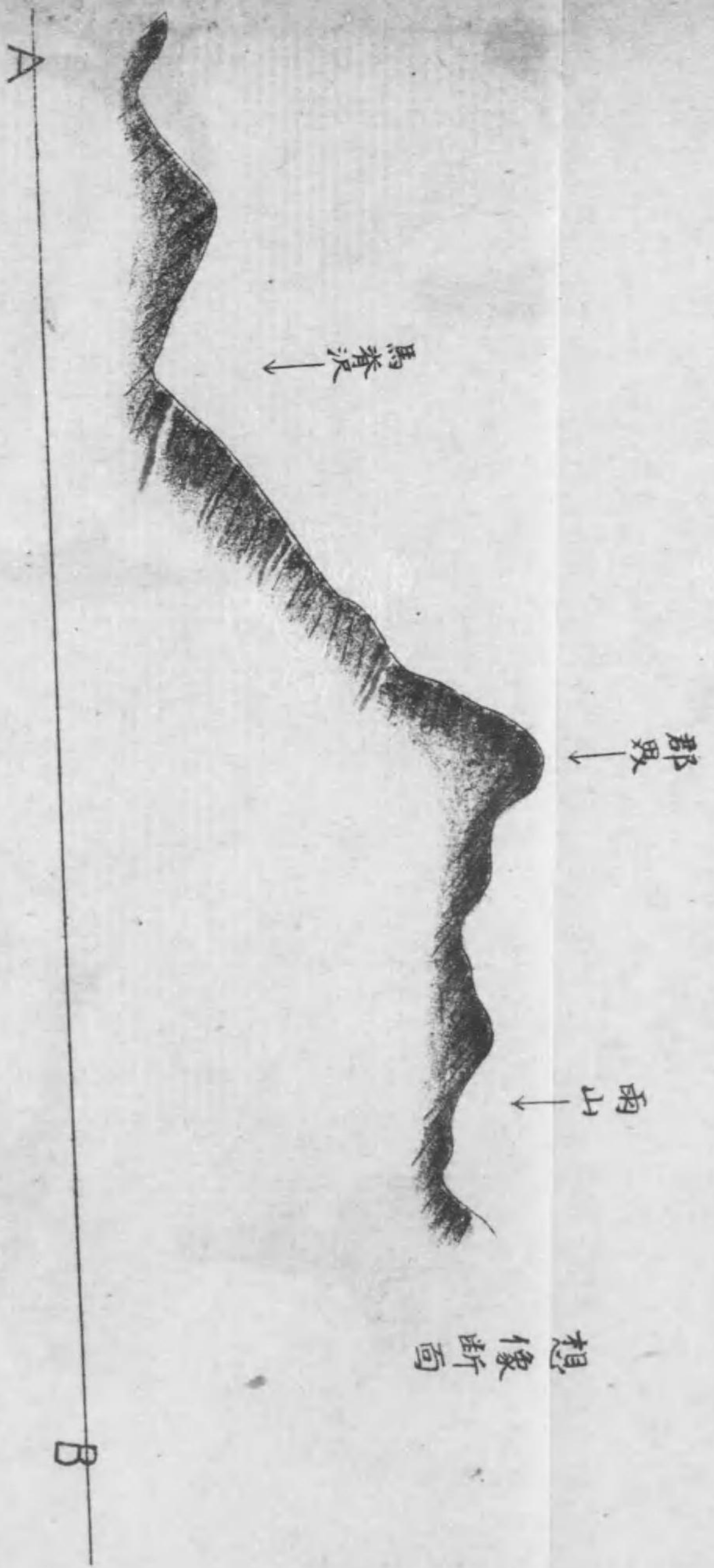
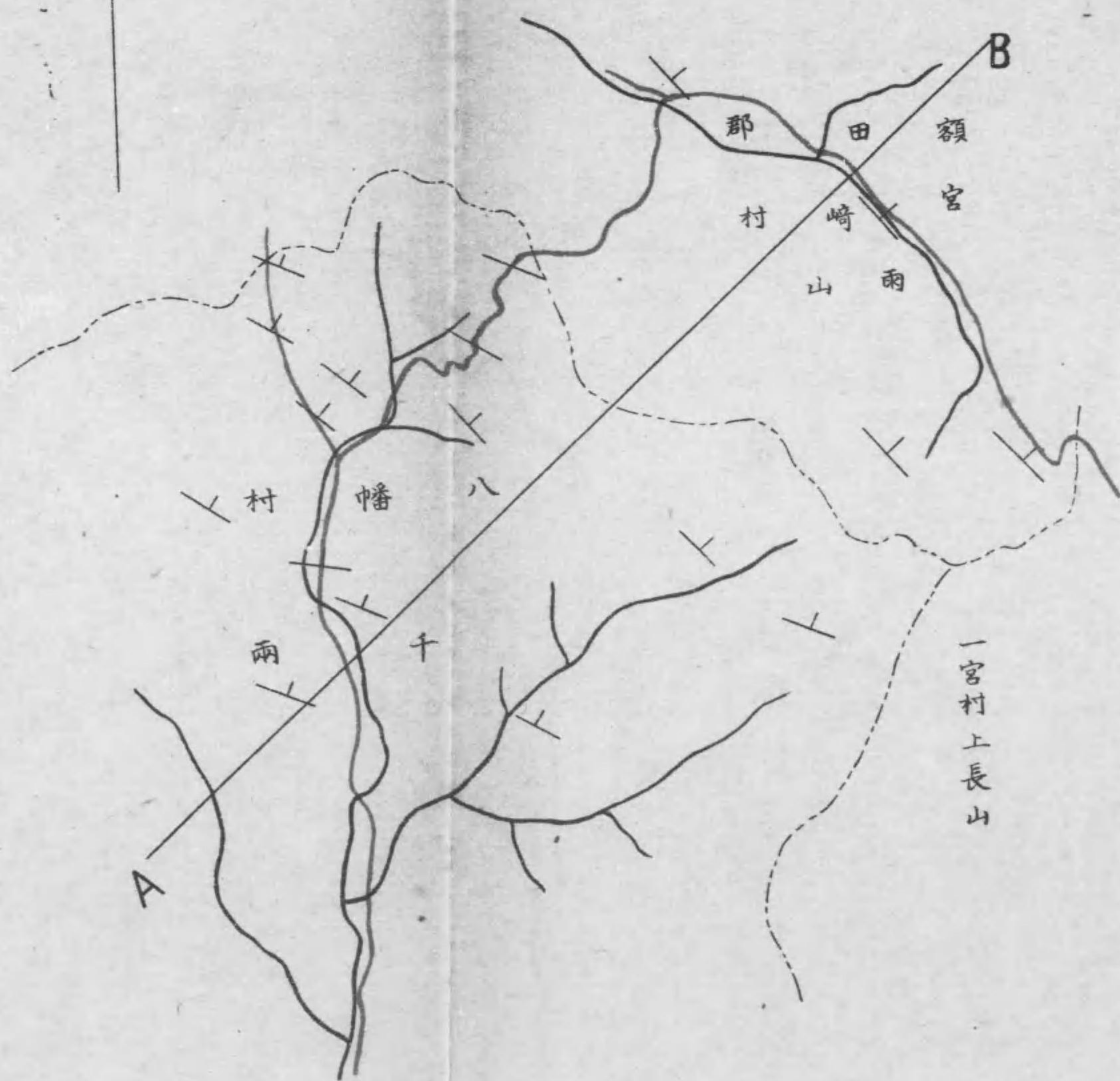


幡豆郡地質圖(縮尺五万分之)
大正三年調査





千兩兩山附近岩層傾斜走向圖



- 岩片狀砂岩
- 岩片母雲
- 岩片花

寶飯郡八幡村ハ北方ニ木曾山系ノ一部ヲ以テ繞ラシ南ハ豊川流域ニ近ク平野開ク大字千兩ハ其山岳部ニ接シ馬春澤ノ溪谷ハ其中央ヲ流ル、ヲ以テ山岳ハ此溪谷ニ向テ二十度ヨリ三十度内外ニ至ルノ傾斜ヲナス

地質

八幡村ノ山岳部ハ全部片麻岩系ノ領家片麻岩及雲母片岩ニシテ平坦部ハ洪積層ナリ故ニ大字千兩ノ山岳部ハ領家片麻岩及雲母片岩ニシテ各所ニ黒雲母花崗岩ノ脈狀ヲナシテ露出スルモノアリ黒雲母花崗岩ハ極メテ小ナル露出ヲナシ屢々美ナル柘榴石ノ結晶ヲ伴フ

岩石ノ傾斜

大字千兩ノ山岳部ニ於ケル岩石ノ走向ハ北四十度西ノ走向ヲ有スルモノ十ヶ所北四十度乃至七十度西ノ走向ヲ有スルモノ八ヶ所北二十度乃至四十度西ノ走向ヲ有スルモノ三ヶ所傾斜ハ悉皆東北方ニシテ角度ハ二十度ヨリ三十度ノ間ニアリ稀ニ四十度ニ達スルモノアリ要之大字千兩ニ於テハ岩層ハ宮崎村大字雨山ニ向テ傾斜セルモノナリ

千兩ニ隣接スルノ關係

千兩ニ隣接スル一宮村大字上長山及額田郡宮崎村大字雨山ニ於テハ地質ハ同ジク片麻岩系ニシテ其走向傾斜ハ大体ニ於テ北四十度西ニシテ東北方ニ傾斜ス同ジク千兩ノ西隣ナル萩村ニ於テハ地質ハ千兩ト同様ニシテ岩石ノ走向ハ北四十度西若クハ東西ノ間ニアリテハ傾斜ハ東北若クハ北方ニシテ二十度ヨリ四十度ノ間ニアリ

大字千兩ニ於ケル成層狀況ヲ見ルニ下部領家片麻岩アリテ最上層ニ雲母片岩アリ黒雲母花崗岩ハ緩キ力ヲ以テ迸發シタルモノ、如ク地殻ニ甚ダシキ變動ヲ與フルコトナク片麻岩層ノ間ニ岩床狀ニ嵌入セリ故ニ領家片麻岩ハ同ジキ走向ニ於テモ傾斜ノ度ヲ異ニセリ從テ層面ニ直角ニ無數ノ裂罅ヲ有セリ而シテ領家片麻岩ハ三河ニ於ケル特徴トシテ石英ヲ多量ニ有スル部分ト雲母ヲ多量ニ有スル部分トアリ雲母ヲ多

量ニ有スル場合ハ雲母片岩ニ遷移ス然レドモ此遷移ノ狀況ニ於テハ甚ダ不規則ニシテ極メテ短距離ニ於テ又厚層ニ於テ遷移スルヲ常トスレドモ大字千雨ニ於テハ其下層ニ於テ領家片麻岩及石英多量ノ領家片麻岩ノ累層間ニ極メテ僅カニ雲母片岩介在シ稀ニ黒雲母花崗岩ノ侵入セルアルモノヲ見ル上層ニ至ルニ從ヒ雲母片岩層ノ量多ク堅キ領家片麻岩層基ダ少ナシ

凡ソ領家片麻岩ノ土壤化スルニ都合ヨキハ主成分中ノ長石多量ナル場合ニアリ石英多量ナルトキハ容易ニ土壤化スルコトナシ雲母片岩ニアリテハ極メテ容易ニ土壤化ス而シテ領家片麻岩ノ土壤ハ壤土若クハ砂質壤土ヲナス雲母片岩ニアリテハ一般ニ壤土ニシテ多少ノ植物質ヲ混ズルコトアリ砂質壤土ハ壤土ヨリモ水分ニ保有スルノ力少ナシ

千雨ニ於ケル領家片麻岩ノ山岳地ハ地質トノ關係上土層甚ダ淺薄ニシテ屢々石英多量ノ領家片麻岩ノ累層ヲ見ルコトアリ是レニ反シテ其傾斜面ニ屬スル宮崎村雨山ニ於テハ其基盤ハ容易ニ土壤ヲ構成スル雲母片岩ヲ主トスルヲ以テ土層十數尺ニ及ベル處多シ

結論

八幡村大字千雨ニ於テ山林ヲ伐採スレバ水量豊カニシテ植林スレバ水源乾涸スト云ヘル俗説ハ蓋シ千雨ノ山地ハ前述シタルガ如ク各所ニ岩石ノ露出ヲ見ル如ク土層淺薄ニシテ且ツ地勢急峻ナルヲ以テ一旦降雨アレバ淺キ土層中ニ含まレタル以外ノ水ハ一ツハ岩石ノ傾斜面ヲ傳フテ地下水トナリ一ツハ表土面ヲ流レ又土層ヲ滲透シテ現今ノ水源ヲナス然カモ前記ノ地下水ハ殆ド千雨方面ニ流出スルモノハ僅少ニ屬スルモノ、如シ是レ山林ヲ伐採シタル時ノ水量ト其流出トノ想像ニシテ立木存在ノ場合ニアリテハ雨水ハ立木ニ支ヘラレ地上ニ達シ前記ノ次第二ヨリ水源トシテ流出スル迄ニハ或ル時間ヲ要ス此或ル徐々ナル時間ハ却テ岩層ノ傾斜面ニ滲透セシムルニ便ニシテ水源ノ水量ヲ減ゼシムルノ恐レアルモノ、如シ前記ノ俗説ハ蓋シ是レニ歸因セズンバアラズ而シテ現今ニ於テ千雨ト岩石ノ走向傾斜相似且ツ又山勢モ稍同一方面ニ向ヒタル近隣ノ各河水ノ水量ハ平時ニ於テ千雨ニ比スレバ稍多量ノ水量ヲ有セリ是レ其水源

ニ森林ヲ有スルニヨレバナリ故ニ曰ク大字千雨ノ如ク平時ニ於テモ水量少ナキ地方ニ於テハ假令俗説ノ如ク植林シタルガ爲メニ水源水ヲ乾涸スルアルモ是レ必ズシモ永久ノ憂ニアラザルヲ以テ急カニ水源地ニ森林ヲ造營シテ土壤ノ作成ヲ催シ不斷ノ水量ヲ貯蓄セシムルノ方法ヲ講ズルニ非ラザレバ淺薄ナル土層ハ次第ニ流失シテ岩石ノ斷口面ハ愈々露出シ雨水ヲ保留スルノ力ヲ失ヒ雨水ヲシテ其傾斜面ニ滲透セシメテ終ニハ一水源ヲ失フニ到ル水源地ヲ失フタル場合其下流ニ於ケル田圃ニ及ボス結果ハ茲ニ喋々ヲ要セザルナリ

追記

余ガ明治四十三年發行本誌第七號第五章愛知縣下ニ於ケル地質ト林業ニ就キテノ第五結論ニ於テ前略「直角ナル場合ニアリテハ前者ノ如キ場合寧ロ少ナク林地トシテ適當ト認ムルモノアリ」ト記載セリ然ルニ千雨ノ調査ニ於テ山岳ノ傾斜面ニ直角若シクハ直角ニ近キ地層ヲ有スル場合ニ於テ其岩石ノ性質ガ容易ニ土壤化シ能ハザル成分ヲ有スル時ハ山岳ノ傾斜方向ニヨリテハ水分ノ保有力少ナク從テ乾燥シ易ク林地トシテ適當ト認ムル能ハザルモノアリノ數行ヲ追記スルノ要ヲ認メタリ

大阪府濱寺公園調査復命書

愛知縣技手 小柳津佐名義

一、濱寺公園ノ位置及地勢

濱寺ハ大阪市ノ南九哩ノ所ニアリ大阪府下泉北郡濱寺、高石兩村ニ跨リ大字船尾、下村、今在家等ノ諸部落ヲ含ミ南北約二十町東西三町面積實測四十九町二畝十三步アリ大坂灣ニ面セル一帯ノ松林ニシテ西ハ幅一町許リノ砂地アリ陸軍省所轄地トス東ハ紀州街道ヲ隔テ、田圃ニ接ス

二、往古ノ濱寺

濱寺ハ往古高石ノ濱(高師ノ濱、高志ノ濱トモ云フ)ト稱セシ地ニシテ此ノ地名ハ何レノ時代ニ起リシヤ而シテ如何ナル因縁ニヨリテ名ヅケシカラ詳カナラザルモ此ノ附近一帶ノ海濱ハ往古ヨリ白砂青松相映シ風景絶佳ヲ以テ天下ニ知ラレ詩歌ニ詠マレシコト少カラズ
後醍醐帝ノ元亨年中僧覺明ナルモノ三光國師ノ號ヲ賜ハリ勅ヲ奉シテ之ノ地ニ大雄寺ヲ建立セリ境内廣潤方二町ニ及ビ堂塔伽藍ノ美ヲ極メシカバ人呼ンデ「高石ノ濱寺」ト稱セリ之レヨリ濱寺ノ稱起レリ
降リテ武臣專制ノ世トナリ士風功名ヲ競ヒ王朝ノ詞華風藻ヲ樂シムモノナリ漸次荒涼ニ歸スルニ至リ大雄寺ノ跡ナルモノ今ヤ求メテ得ベカラズ然レドモ老松依然トシテ繁茂シ天下ノ名勝ヲ保持セリ

三、徳川時代ニ於ケル濱寺

徳川時代ニ於ケル濱寺ハ田安藩ノ治下ニ屬シタリシカ寶永年間紀州街道以東ノ松ヲ伐採シテ開墾セシメ街道以西ニハ松ヲ増植シテ防風護田ノ用ニ供シ後寶曆年間雜樹ヲ植エ其ノ收利ヲ以テ松林ヲ培植スルノ資ニ充テタリ爾來松ヲ保護シ防風並ニ飛砂シ防備トナセリ

四、明治ノ初年ニ於ケル濱寺

明治元年田安藩松ヲ伐採シテ田圃トナサントシタリシニ地元村民之レヲ聞キカ、ル千古ノ老松ヲ伐採セシカ獨リ地方ノ風光ヲ損スルノミナラズ海風ノ襲來潮風ノ害ヲ防グ能ハズ田圃農作ノ損害少カラサルヲ思ヒ村民連署シテ其ノ松樹ヲ伐採セザランコトヲ哀願辛フシテ藩議ヲ驩スコトヲ得タリ
然ルニ翌二年藩又前議ヲ起シ伐採セントスルニ當リ村民復タ歎願セシモ到底藩議ノ回スベカラザルヲ察シ遂ニ地元タル大字船尾村外四ヶ村ニテ松林ノ拂下ヲ請願シタリシニ藩ニ於テハ他ニ之レヲ賣却セントスルノ說アリシカバ前記五ヶ村民ハ再ビ伐木ノ不可ナルコトヲ稟述シ樹木ノ存立セル個所ハ存置シ其他ノ場所ハ之レヲ開墾センコトヲ申立テタリシカバ藩止ムコトヲ得ズ之レヲ納レ金貳千五百圓ヲ以テ拂下ヲナセリ

當時濱寺ノ松林ハ濱寺村大字船尾ヨリ高石村大字今在家ニ至ル間老松鬱蒼トシテ繁茂シツ、アリシガ惜ムベシ前記五ヶ村ノ拂下ゲヲ受クルヤ各村ニ分割シ其領分ノ面積ニ應ジテ其代金ヲ上納セリ而シテ其拂下ゲタル松樹ノ一部分ヲ伐採シテ拂下代金ヲ償ハントシ船尾、今在家ノ二村ハ直チニ伐採ニ着手セシモ他ノ三ヶ村ハ引續キ伐採ニ着手セリ明治三年一月廢藩治縣ノ舉アリ此地ハ堺縣ノ治下ニ屬セリ

五、堺縣治下ニ於ケル濱寺

以上記述セシ如ク古來風光絶佳ノ地モ今ヤ世ノ變遷ニ遇ヒ再ビ高石ノ濱タル餘影ヲモ見ル能ハザル危機一髪ノ間ニ於テ堺縣ノ設置トナリ縣令小河彌右衛門氏ハ之ノ松林ヲ伐採ノコトヲ聞キ大ニ驚キ田安藩ニ嚴談シ買請金ヲ村民ニ拂戻サシメ三年二月令ヲ下シテ伐採ヲ嚴禁セリ其ノ命令左ノ如シ
濱寺ト唱ヘ候濱ニ生立有之候松木先達以來伐拂居候處今度當廳支配ニ相成候上ハ猥リニ伐取候義堅ク可爲停止候事

午 二 月

堺 縣

然ルニ東下村、西下村、山内下村ノ三村民ハ拂下及準備ニ多少ノ資金ヲ抛テタルヲ以テ今ニ至リ伐採ヲ禁ゼラレシカバ損失ヲ招クコト少カラズト左ノ願書ヲ提出シ伐採ノ許可ヲ得ンコトヲ哀願セリ
乍恐以書御歎願奉申上候

當 支 配 所
三 下 村

私共村々御林者田安藩ニテ御買請ニ相成候處今般當御縣御支配ニ相成候上ハ松林伐拂御差留被仰付候ニ付其後御廻村ノ御役人様へ歎願書併ニ仕法書ヲ以テ御願奉申上候處當月十二日御林御檢分ニ相成候上何分舊來ヨリノ松林ニ付此後伐取不相成旨有御達空地ノ場所開發ノ義願出候へバ差免シニ相成候様被仰聞候へ共其場御答不申出早速小前一同へ右趣申聞シ候處一同申立候義ハ何分被仰聞候通舊來ノ松木故伐倒候義ハ不相好候共既ニ船尾村今在家村ニ於テハ大抵仕法通り伐拂致シ三下村ノ義

ハ伐拂ニ相掛リ無間伐取不相成様被仰開則此ノ一條ニ付テハ昨年中ヨリ彼是致シ多分ノ入費相懸リ此後御差止ニ相成候テハ甚ダ難澁ニ落入リ連モ入費ノ儀ハ難出來候ニ付何卒仕法書ノ通り伐拂御願申上吳候様一同相款キ候ニ付乍恐再願奉申上候何卒右御開濟被爲成下候ハ御慈悲難有仕合奉存候

堺 縣 御 役 所

小河知事ハ直チニ三村ノ人々ヲ召喚シ時ノ大參事清原真弓氏ト列席ノ上厚ク説諭シ之レヲ思止ラシメタリ其後小河氏去ツテ稅所篤氏縣令トナルヤ明治五年士族授産ノ爲メ復タ該地ヲ人民ニ拂下ゲ再ビ伐木ニ着手シ殘木二千六百三十九本ノ内千七百九十一本ヲ伐リ僅カニ八百四十八本ノ殘存セシ折柄明治六年七月偶々内務卿大久保利通公此地ニ來ラレ濫伐ノ狀ヲ目撃シテ大ニ歎息セラル左ノ和歌一首ヲ詠ジテ稅所縣令ニ示シ歸京ノ上相當ノ處置スベキニヨリ即時伐採ヲ停止スベキ旨ヲ命セリ

おごに聞く高石の濱のはままつも

世のあだ波はのかれざりけり

コ、ニ於テ稅所縣令ハ直チニ其ノ伐採ヲ停メ元船尾村ノ庄屋古藤土岐太郎等ヲ召喚シ公園設置ニ付キ取調ベヲナシ全年十一月九日左ノ願書ヲ太政官ニ出セリ

當縣下大島郡船尾村外四ヶ村ニ盤亘セシ舊官林字濱寺ノ地所ニ付キ古今變遷ノ景況ヲ國史舊記ニ照ラシテ審査スルニ昔元亨年中僧三光覺明ナル者アリ後醍醐帝ノ寵眷ヲ蒙リ國師ノ號ヲ賜ハリ勅シテ同村北高石村ノ地ニ一寺ヲ開創シ寺號ヲ大雄寺ト名ヅク堂宇巍然封境廣大ナリシ由相見ヘ其後繼過存亡ノ年曆未詳ト雖ドモ今其寺跡ナルハ船尾村ノ部内濱寺ノ地ニ殘存シ此地ノ字ヲ濱寺ト稱スルモノハ則古ノ大雄寺ニ起ル所以ナリ地景ハ海濱ニシテ西ハ淡路島ニ面シ北ハ播磨ノ連山ヲ望ミ南ハ紀海阿波ヲ遠眺シ其地味真砂ニシテ數千ノ古松蒼々森々形容千狀萬態宛モ播磨舞子濱ニ等シク風景所々佳絶ナリ全地ヲ測量スルニ東西平均八町南北千二百九十間(二十一町半)此景外ニ全地接續ノ沙漠アリ海濱ニシテ直チニ波際ニ至ル此ノ濱ノ總名ヲ高石ノ濱ト云フ持統帝ノ御宇以降古歌頗ル多ク人

口ニ膾炙スル所ナリ是茲ニ贅セズト雖ドモ多クハ松濃詠語ニ依レバ往昔ヨリ松樹存在セシコト明カニシテ今ノ濱寺ノ古松之レナリ如斯古來ヨリ聲アリ世人賞翫ノ地ナルガ故ニ其ノ儘ニ保全スベキハ勿論ノ處只官林拂下ノ命令ニ拘泥シテ已ニ一般投票ヲ施シ先般御拂下濟相成買主類リニ伐採ニ着手致シ彼ノ古松總數二千六百三十九本ノ内千七百九十一本ヲ伐木シ漸ク八百四十八本殘木有之暫時ニシテ悉皆伐盡スニ至リ實ニ愛觀ノ地景乍ケ眇々ノ荒漠ト變ジ衆人ノ望ヲ失スル必然ニシテ慨嘆ノ事情ニ有之候處既ニ當七月荒蕪地並ニ官林御拂下停止ノ命令有之然ルニ是迄處置濟ノ分マデモ差留候義ニ無之ト雖ドモ未ダ伐木中ノ事ニ有之殊ニ地所年賦代金モ收入不相濟義ニ付旁々既往ニ遡リ停止ノ命令ニ基キ是迄ノ伐木ハ度外ニ置キ殘木ヲ存全セバ古ニハ劣ルト雖ドモ全ク地景ヲ失フニアラザルコトナレバ買主ヲシテ先ツ伐木ヲ止メ置キ候條願クハ殘木ノ價金六百六圓八拾錢ヲ買主ニ還與相成地所代年賦金四百五拾壹圓五拾錢ヲ斷然御取消ヲ以テ公園トナシ人民遊覽ノ地トナシテ永ク存全セハ衆人ノ望ミヲ失ハシメザルノミナラズ名所古蹟ヲ愛護スルノ情實モ貫キ可申何卒情願ノ通り御開濟ニ相成度則別紙買還ノ代價取調書及繪圖相添ヘ此段相伺申上候 以上

明治六年十一月九日

(買還代價取調書及繪圖省略)

全年十二月二十四日願意ヲ許可セラレ始メテ濱寺公園ト稱スルニ至ル

爾後吏員ヲ置キ公園ノ監督修補ニ從ハシメタリ殊ニ伐採ノ地域ヲ始メトシテ其他ノ地点ニ稚樹ヲ増植セリ

六、大阪府治下ニ於ケル濱寺

前述ノ如ク堺縣時代ニ於テ小河知事ナク後亦大久保内務卿ナカリセバ千歳ノ名勝ヲシテ空シク砂原ト化セシメ高石ノ濱ノ名濱寺ノ勝景ノ跡ヲ止メザルベシ幸ニ二氏アリテ此ノ濱寺ノ名聲ヲ全フセシモノト云フベシ

明治十四年堺縣ヲ廢シ大阪府ニ合併セラル、ニ至リ全府ノ管理スル所トナレリ當時尙ホ電車流車ノ便ナ

交通不便ニシテ四時來遊スルモノ年ト共ニ増加スルト雖ドモ公園内僅カニ二三ノ茶亭ヲ見ルニ過ギズシテ口ニ古人ノ詠歌ヲ吟ジテ古ノ高石ノ濱ノ何處ナルヤヲ知ラズ杖ヲ引クモノ少カリシガ明治二十一年時ノ大坂府知事建野郷三氏濱寺公園開發ニ心ヲ用ヒ松ヲ増植シ海水浴ノ便ヲ謀リ猪飼史朗等ヲシテ海濱院ヲ設ケシメ一方ニ自家ノ別墅ノ如ク一方ニハ知已來遊ノ便ヲ謀ルニ及ベリ

明治二十四年大坂府書記官高崎親孝氏高石ノ濱ノ松樹殘存シテ今ノ勝景ヲ見ルヲ得ルハ一ツニ故大久保公ノ卓見ニ因ルモノトナシ碑ヲ立テ、其ノ事ヲ録シ後ニ傳ヘントシタルモ未ダナラズシテ他ニ轉ゼリ

明治三十年南海鐵道ノ開通ト共ニ交通便利トナリ四時ノ遊客頓ニ増加セリ

明治三十二年元ノ大坂府知事西村拾三氏高崎親孝氏ノ志ヲ繼承シ大坂ノ富豪松本重太郎等ト相謀リ濱寺ノ松アルハ大久保公卓見ノ賜トナシ全年十一月碑ヲ立テ表面ニ當時ノ和歌ヲ鐫シ裏面ニハ稅所篤氏ノ文ヲ刻ミタリ左ノ如シ之レヲ惜松ノ碑ト云フ

こはいにし明治六とせの夏の夕つかた大久保利通の君と高砂の濱見んとてやどりを出で、はまの石に腰うちかは四方のけしきみ渡すほど松林のなかば伐りたるを見て如何なる故にかといはるゝに近き頃士族授産の爲めにとて拂下げたるなりと答へればそはけしきなることかなかゝる名所の松の數百歳經たらんをこゝろく伐り拂はんはまことになさけなきわざなりこの司ともあるもの心なしとや云はんさてたゞ紙どりで、書かれたる歌なりおのれもとりあへず

いかにせん高嶺おろしの烈しさに
なみたふるひしをのゝえをこれ

といらへしてければ何はとまれ明日よりこの事やめさせてよ京にかへらんのもちもかうもすべしとあるにやがてそをさめたりき今残りたるはまたくかの君のたまものといひつべしこのよし石にして後世に傳へんとて一言しるしてよとすゝむる人のあるにまかせつたなき右のかへしのことの葉さへありのまゝかきしるせるはさきにこの縣に令たりしちなみあればなり

明治三十一年十月

子爵 稅所 篤

明治三十二年菊地侃二氏ノ大坂府知事トシテ來任セラル、ヤ濱寺ノ勝景ヲ愛シ世人ノ徒ラニ遠ク須磨舞子ヲ賞シテ眼前ニ之ノ好風景アルヲ知ラサルヲ嘆ジ三十三年府會ノ議ヲ容レ公園ノ由來ヲ録セル碑ヲ園ノ中央ニ建立シテ其ノ美ヲ天下ニ鳴ラセリ

爾來紳士富豪ノ別莊ヲ設クルモノ或ハ夏期來リテ避暑スルモノ年ト共ニ増加スルニ至レリ
思フニ濱寺ノ今日アルハ嚮キニ事理ニ明カナル村民アリ中頃小河縣令、大久保公ノ卓見アリ而シテ後ニハ菊地氏ノ推獎アリテ茲ニ松樹ノ保存ヲ得其名亦世ニ傳フルニ及ベリ

明治三十八年日露戰爭ノ際捕虜收容所ヲ園ノ一部ニ建立シタリシ爲メ園ノ樹木ヲ損傷シタリシモ後栽植シテ今ハ舊態ニ復スルヲ得タリ

七、現時ニ於ケル濱寺

明治六年公園設置以來松樹ノ増植料亭旅館ノ設備道路ノ設定休憩所ノ設備等専ラ公園ノ開發ニツトメ一方ニ於テ交通機關ノ發達アリテ濱寺公園ノ名天下ニ知ラル、ニ至リ大坂府ハ住吉、箕面ト共ニ特別會計トシテ公園ノ經營ヲセリ

而シテ公園内地區期間ヲ定メテ希望ノモノニハ土地ヲ貸付ケ料亭旅館或ハ別莊等ノ建設ヲ許可セリ最初貸與期間ヲ十年トセシモ近來之レヲ五年ニ短縮セリ目下貸付坪數四万一千八百九十五坪一合ニシテ内ニ料理兼旅館八軒旅館四軒茶店六軒ビヤホール一軒別莊(住宅)百二十五軒アリ而シテ府ハ自營ノ傍ラ公衆ノ便利ヲ計ルベキ茶店料亭等建設ニ要スヘキ宅地ハ第一種トナシ他別莊住宅等ハ専ラ個人ノ使用ニ供スルモノ第二種トシ場所ノ良否ニヨリテ等級ヲ附シ左ノ如ク使用料ヲ定メテ貸與セリ其ノ一ヶ年ノ使用合計金貳萬壹千八百九拾圓トス

- 第一種 (料理店、旅館、茶店ノ設備ヲナスモノ)
- 一 等 (坪一年) 四 拾 錢

實 飯	渥 美	八 名	豐 橋	三河計	全管合計
—	500	—	—	1,090	5,930
—	—	—	—	6	38
—	—	15,155	—	17,655	17,655
—	—	—	—	2	10
—	—	—	—	1,475	7,355
—	—	—	—	4	17
—	—	—	2,600	2,600	15,650
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	450	1,450
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	2
—	—	15,155	2,650	17,805	48,000
—	500	—	—	—	—
—	—	—	—	—	69

杉赤枯病ノ狀況

本縣下ニ於ケル杉赤枯病ニ就キテハ一般ニ其被害ノ激甚ナルニ驚キ被害苗ノ燒却又ハ藥液撒布等ニヨリ之ヲ處理シ又丹羽中島幡豆等各郡ニアル營業苗圃ハ前年度來杉苗ノ培養著シク減少シ殆ド皆無ナル地方モアリ、從テ林地新植ニハ多ク扁柏ヲ代用シ又ハ杉造林地ノ更新ヲ數年繰延ベタル地方多シ、北設樂東加茂郡等ノ山間ニ所在スル苗圃ニハ全ク無病健全ナル杉苗ヲ有シ新植地ハ好成绩ヲ擧ゲツ、アリ、而シテ其ノ驅除豫防ハ山林局ノ印刷配布セル左ノ方法ヲ採レリ

杉赤枯病ノ驅除豫防方法

一本病ノ特徴 本病ハ主トシテ杉ノ苗木ニ發生スルモノニシテ、苗木ノ一二年生ノモノ最モ激烈ニ胃

サレ、三四年生ノモノ之ニ次ギ、其以上ノモノハ被害ノ程度大ナラザルヲ常トス。

本病ハ苗木ノ下部ノ枝葉、即チ常ニ土壤ノ濕氣ヲ直接ニ受ケ、又空氣ノ流通モ不充分ニシテ、日光ヲ受ケルコトモ少キ部分ニ多ク發生スルモノナリ

本病ハ最初先ヅ葉ノ臺部或ハ軟キ小枝ノ分岐點附近ニ顯レ、其ノ部分ヲ初メハ赤褐色ニ、後ニハ黒褐色ヲナスモノナリ、即チ本病ハ初メ此ノ部分ニ一種ノ菌發生シテ、其ノ菌ガ苗木ノ皮ノ中ヘマデ蔓延シ、爲メニ苗木ノ生育ヲ害シ、其ノ害漸次大ナルニ從ヒ、葉及ビ軟キ小枝ノ皮ニ含メル綠色ノモノガ遂ニ黃褐色ニ變ズルガ爲メ、枝葉ガ赤褐色トナリ、暫時ニシテ又黒褐色ニ變ジ、次ヅ葉ハ枯レ萎ミ、且ツ乾燥シテ遂ニ脆クナリテ脱落スルモノナリ

本病ハ地上ニ一尺以下ノ所ニアル枝葉ヲ胃シ、其以上ノ高サニ及ブコトハ稀ナルガ故、五六年生以上ニ及ビタル杉樹ハ本病ニ胃サル、モ、上部ノ枝葉ヲ健全ニ保タバ、其ノ樹ノ枯死ハ遂ニ免ル、コトヲ得ルナリ

曾テ奈良縣吉野地方ノ杉林ニ蔓延シタル「ベスタロチア」菌病ハ、六十年以上ノ大樹ノ枝葉ニモ生ジテ之ヲ害シタルガ、此ノ病ハ大樹ノ上部ヲモ胃スモノナルヲ以テ、主トシテ幼樹ノ下部ヲ胃ス所ノ赤枯病トハ一見相異ルコトヲ知り得ベシ、即チ本病ハ「ベスタロチア」菌病トハ全ク異リタル新規ノ病害ニシテ、極メテ傳播蔓延ノ虞アルモノナルガ故、之レガ驅除豫防ニハ充分ニ力ヲ竭サルベカラズ、尤モ本病ニ罹リタル苗木ノ葉ノ上ニハ、往々ニシテ「ベスタロチア」菌ノ着キタルモノアルモ、此ノ菌ハ本病ノ主因ニ非ザルナリ

本病ハ苗木ノ根部ニハ存ゼザルモ、床替、輸送等ノ際ニ根ヲ乾燥セシメ、或ハ根ヲ傷ツクルカ、其ノ他苗木ノ營養不良ナル場合等ニハ、之ガ原因トナリテ本病菌ノ繁殖ヲ見ルニ至ルモノナレバ、此ノ點ハ大ニ注意ヲ要スルナリ

一驅除豫防方法 本病ノ驅除豫防ニハ「ボルドー」合劑ヲ用ユルヲ最モ適當トス、本劑ノ製法ハ左ノ如

シ、此ノ藥品分量及ビ製法等ヲ誤ラバ其ノ効少キガ故、調製ニハ最モ注意ヲ要ス

第一、硫酸銅百二十匁、水一斗五升ノ割合ニテ製シタル液ヲ作ルコト

硫酸銅ヲ水ニ溶解スルニハ長キ時間ヲ要スルガ故、先ヅ三升許ノ熱湯ヲ容器ニ盛り、硫酸銅ヲ布片ニテ包ムカ、或ハ箆ニ入レ、之ヲ湯ノ中ニ吊ルシ、硫酸銅ノ全部ガ溶解シタル後全量一斗五升トナルマデ冷水ヲ注加スベシ

第二、生石灰百二十匁、水一斗五升ノ割合ニテ製シタル液ヲ作ルコト

生石灰ヲ桶ニ入レ、少シヅ、熱湯ヲ注ギ、充分ニ粉碎スルヲ待チテ、全量一斗五升トナルマデ冷水ヲ注加スベシ、但シ渣滓アルトキハ適宜濾過スルヲ要ス

以上二種ノ液ヲ徐々ニ混和シ調合スベシ、斯ク混和シタルモノヲ「ボルドー」合劑ト謂フ、此ノ二液混合ノ後赤色試験紙(藥種店ニアリ)ヲ浸シテ、其ノ紙ガ微ニ青ク變ズレバ可ナリ、若シ甚シク青變スルトキハ少シク第一ノ液ヲ注加スベシ、又青色試験紙(前同様)ヲ浸シテ其ノ紙ヲ赤變セシムルニハ少シク第二ノ液ヲ注加スベシ

以上ノ如ク硫酸銅、生石灰約百二十匁ニ對シテ水ノ全量ヲ三斗トシタルヲ三斗式ノ「ボルドー」液ト稱シ、水量ノ二斗或ハ三斗五升等ナルニ依リテ、二斗式或ハ三斗五升式ト謂フ

「ボルドー」合劑ハ必ズ以上ノ製法ニテ作ルベキモノニシテ、硫酸銅及ビ生石灰ヲ容器ニ盛り、之ニ全量ノ水ヲ注加スルガ如キコト、若クハ硫酸銅ヲ全量ノ水ニ溶カシ置キ然ル後之ニ生石灰ヲ投入スルガ如キコト、又ハ此ノ反對ニ混和スルガ如キ等ノコトヲ爲スベカラズ

本合劑ヲ若シ少量ヅ、用キントスル場合ニハ、先ヅ豫メ各二種ノ液ヲ多量ニ製シ、別々ニ容器ニ入レ置キ、其ノ使用ノ都度所用量丈ケテ混和シテ用ウベシ、決シテ全量ヲ初メヨリ混和シ置キテ貯藏スベカラズ、是レ本劑ハ久シキヲ經レバ効力ヲ減ズルガ故ナリ

一段歩ノ杉苗圃ニ用ユベキ本劑ノ分量ハ、苗木ノ年齢、疎密等ニ因リテ自カラ異ルモ合劑ヲシテ苗木ノ

全體ガ潤フ程度ニ之ヲ撒布スルヲ要ス、普通一段歩一年生ノ苗木ニ對シテ本劑三斗乃至一石、二年生以上ノ苗木ニハ一石乃至二石ノ割合ニ用意シ噴霧器ヲ用キテ班ナキヤウ撒布スベシ、若シ撒布後未ダ乾カザルニ強雨アリタル場合ハ再ビ撒布スルヲ要ス

未ダ赤枯病ノ被害ナキ杉苗圃ト雖、附近ニ本病發生セルトキ、若クバ之ガ蔓延ノ虞アルトキハ、豫防ノ爲メ四五月頃ニ一回、九月頃ニ一回本劑ヲ施スベシ、但シ此ノ場合ニハ三斗五升式ヲ使用シテ可ナリ

既ニ本病ニ罹レル苗圃ニシテ其ノ程度激シキキハ、春秋ノ候ニハ約二週間ヲ隔テ、各三回ヅ、三斗式ノ本劑ヲ撒布シ、他ノ時季ニ於テモ同ジク一二回ヅ、施用スベシ

「ボルドー」合劑原料ノ藥品相場ハ約左ノ如シ(大正元年十二月初旬調、東京市日本橋區本町二丁目い

し屋藥舖小賣相場)

硫酸銅 壹封度(凡百二十匁九五八餘)代金貳拾錢

生石灰 壹罐(凡四貫匁入)代金四拾五錢

之ニ依リテ算出スルトキハ本劑三斗式ニ對スル價格左ノ如シ

硫酸銅 百二十匁代 金拾九錢八厘

生石灰 百二十匁代 金壹錢四厘

合計 金貳拾壹錢貳厘

依テ一段歩ニ對シ一回壹石ノ本劑ヲ使用スルトセバ其ノ藥品代價左ノ如シ

硫酸銅 四百匁代 金六拾六錢壹厘

生石灰 四百匁代 金四錢五厘

合計 金七拾錢六厘

赤枯病ノ爲メ枯死シタル杉苗ハ速ニ拔キ取り燒キ棄ベツシ、若シ之ヲ放置スルトキハ普通ノ枯損苗木ト異リ、病菌ヲ傳播セシムルモノナルヲ以テ特ニ注意ヲ要ス、故ニ幾分タリトモ本病ノ被害アル地方ニア

リヲハ、各苗圃所有者ハ前記豫防驅除劑撒布ノ外此ノ點ニ就キ充分努メザルベカラズ。

東京大正博覽會ノ本縣林業出品

大正三年三月二十日ヨリ同年七月三十一日マデ東京市上野公園ニ於テ開催セル東京大正博覽會ノ本縣林業關係出品物ハ左ノ如シ

品名	出品人員	出品点数	出品價格	賣約点数	賣約價格	受賞數			出品人員ニ對スル受賞歩合	出品点数ニ對スル受賞歩合
						名譽大賞	金牌	銀牌銅牌褒狀計		
公有林管理方法	一	一	一	一	一	一	一	一	100.00	100.00
林業種子	二	一	一、七五	八	一	一	一	一	10.00	10.00
林業苗木	三	三〇	九三	七	一	一	一	一	三〇.〇〇	三〇.〇〇
林業器具	六	一〇	三、五〇	九	一	一	一	一	五〇.〇〇	五〇.〇〇
林業寫眞	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
貯木方法、附寫眞	二	一	一	一	一	一	一	一	五〇.〇〇	五〇.〇〇
木材	三	三	七、三三	三〇	一	一	一	一	六〇.〇〇	六〇.〇〇
ウエニアリシテ材	二	三	一、三〇	二	一	一	一	一	一〇.〇〇	一〇.〇〇
加工竹材	四	一〇	一、九五	一〇	一	一	一	一	五〇.〇〇	五〇.〇〇

又館外ニ特別建物トシテ名古屋築港ト同一形式ノ洋風四阿屋ニ、本縣砂防工事摸型及砂防工ニ關スル寫眞ヲ出陳セリ、又市内淺野木工場ハ合板製品ノ和洋兩様建築ニ適スルヲ示メスタ、建物ヲ工業館内ニ出品シ、家具類及茶箱等ヲ、板材ト共ニ陳列セリ、尙審査ノ結果七月十三日褒賞授與式ニ於テ褒賞セラレタルハ左ノ如シ

品名	出品人員	出品点数	出品價格	賣約点数	賣約價格	受賞數	出品人員ニ對スル受賞歩合	出品点数ニ對スル受賞歩合
木炭	一五	一六	一、二一〇	一六	一、二一〇	一	一	一
菌	八	九	一、一〇〇	五	六、〇〇〇	一	一	一
林産工業原料	八	八	二、四六五	三	一、七二	一	一	一
淺野式ベニヤ板及材料	△金 牌	名古屋市西區上島町	淺野吉次郎					
扁柏苗木	△銀 牌	丹羽郡古知野町	吉田常雄					
扁柏苗木	△銅 牌	丹羽郡古知野町	松井孫太郎					
同		名古屋市西區菊井町七丁目	平手鈴吉					
黒松苗木		幡豆郡福地村	神谷儀重					
貯木方法及設備		愛知郡八幡村	名古屋木材株式會社					
扁柏材		名古屋市西區木挽町	鈴木總兵衛					

南設樂郡林產物品評會

愛知縣山林會南設樂郡部會ハ同郡林產物品評會ヲ企劃シ同會第四回總會ヲ期トシ大正二年十月九日ヨリ三日間同郡役所ニ於テ開催セルガ林產物品評會トシテ獨立シテ諸產物ヲ一堂ニ集メタルハ今回ヲ以テ本縣ニ於ケル嚆矢トスルガ故ニ一般斯業者ハ勿論江湖ノ歡迎スルトコロトナリ山林會員及附近町村ヨリノ人出夥多ニシテ日々場ノ内外賑華ヲ極メ十日ノ如キハ入場者六千七百三十一名ニ及ベリ以テ盛況ヲ知ルニ足ルベシ審査員ハ次ノ如シ、審査長本縣技師三溝謹平、審査員本縣技師依田貞種、同關一馬、同黒田莊治郎ナリ

尙同郡役所ニ於テハ本縣商品陳列館ノ巡回陳列アリ又本縣測候所ノ氣象用器具類ノ陳列場アリ、本縣山林會ノ森林關係諸品ノ展覽場アリ。各係員出張一般觀覽者ニ對シ説明ヲ與ヘタレバ裨益甚大ナリシハ疑ヲ納レザルトコロナリ

審査ノ結果十月十日日本會第四回總會ノ會場ニ於テ褒賞授與式アリ今左ニ審査長ノ申告書ヲ掲グ

申告書

南設樂郡林產物品評會ノ開催ニ當テ不肖是ガ審査長ヲ命ゼラレ熱誠ナル審査員諸氏ノ補助ヲ得テ嚴正ニ出品ノ審査ヲ遂行シ茲ニ其成績ヲ申告シ且ツ褒賞ノ授與ヲ申請スルヲ得ルハ最モ光榮トスルトコロナリ今各出品ニ對シ之ガ概評ヲ述ブレバ左ノ如シ

木材出品中 丸材板類ハ品質製材共ニ佳良ナルモノナリト雖モ其他ハ概シテ珍奇ナル稀有品多キハ誠ニ遺憾トス是レ將來此種ノ出品ニ對シ當業者ノ注意ヲ煩ス

竹材ハ何レモ竹幹ノ長大ナルモノノミヲ選擇シアルト伐採年齡ノ若キモノアルハ遺憾ナリ而シテ竹材ハ其伐採年齡ノ適否ニヨリ之ガ用途及價格ニ影響ヲ及ホスモノナレバ特ニ當業者ノ注意ヲ要ス

木炭ハ比較的品質俵裝共ニ優良ナルモノアリト雖モ概シテ俵裝ハ不完全ナリ將來炭質ト共ニ之ガ改良ヲ要ス

樹皮ハ乾燥方法ニ一層ノ注意ヲ要スルモノ多シ

菌茸ノ出品ニアリテハ椎茸ノ良品ニ乏シキハ遺憾トスルトコロニシテ尙本郡ハ菌茸發生地多キヲ以テ將來之ガ採集乾燥貯藏等ニ就キ一層ノ注意ヲ拂ヒ林業副產物トシテ其改良發達ヲ計ルヲ要ス

樹實ハ播種用ノモノナク食用又ハ工業用品ノミニテ栗ハ其採收時季ノ稍早キタメ肉入ノ不良ナルト害虫ノ豫防不完全ニシテ既ニ侵害ヲ被リタルモノアルハ遺憾トス

苗木出品中杉苗ハ良品ニ乏シク且ツ極メテ長大ニ失シ特殊ノ外補植ニ適スル新植用ニハ不適トスベシ扁柏苗ハ稍良品アルモ杉苗ト同ジク長大ノ欠点アリ苗木養成ハ林業ノ基礎ヲナスモノニ付將來大ニ改良ヲ要スルハ言ヲ俟タザル所ナリ

加工用材ニ屬スル出品中燐寸箱用材及下駄材ハ稍見ルベキモノアリ本郡ハ桐材ノ産額多キヲ以テ下駄用材トシテ今後ハ其生産ニ意ヲ用フベキモノトス

木工品類ハ出品点數甚ダ多ク從ツテ見ルベキ製品ニ富メリ然レドモ之ヲ木材利用上ヨリ見レバ尙ホ幾多改良ベキ餘地ヲ存シ又意匠ノ上ニ就キテ云ヘバ概シテ高尚雅麗ノ趣味ニ乏シク多少ノ稚氣ヲ有スルモノ多キハ亦止ムヲ得ザル所ナリト云ヘドモ生硬ナル都會風洋式ノ意匠ヲ用ヒタル輕浮ノ工作

品ヲ見ザリシハ欣ブベキ事ナリ出品中特ニ注目スベキハ木箸類ニシテ從來製材ノ際廢物タリシ木材ノ木片ヲ利用シ簡易ナル手工ト勞力ヲ以テ有價ニシテ有用ノ途最モ廣キ木箸ノ製作ヲナセルハ森林

利用上注目スベキ事項ニシテ本郡ノ如キ針葉樹林ノ豐富ナル地方ニ於テ獎勵スベキ手工品ト云フベシ然レドモ其生産額未ダ多カラズ且ツ製法ニ幾多ノ改良スベキ点ヲ有スルニヨリ當業者ハ益々之ガ

發展ヲ企テ常ニ相警メテ粗製濫造ヲ防ギ地方ノ重要產物トシテ名聲ヲ博スルニ努ムベク之レガ爲メニハ組合ヲ設立スルガ如キ最モ適當ノ方法ト云フベシ

杉丸材	新	丸山彌右衛門	外九名
杉丸材	三	賞	
杉丸材	海	伊藤富三郎	外十九名
杉丸材	老	町	
杉丸材	賞	白井	萬吉 外百四名
杉丸材	千	郷	村

大正紀念植林競技會

近時植林ノ獎勵、愛林思想ノ普及ト共ニ本縣下ノ公有林ニシテ植林セラレタルモノ極メテ多シ、愛知縣山林會東加茂郡部會ハ此際、是等造林地ニ對シ造林ノ方法及ビ其後手入等ニツキ競技會ヲ催スハ大正紀念事業トシテ適當ナルハ勿論、植林事業ノ獎勵及ビ植林地ニ對スル注意ノ喚起上効果アルモノト認メコレヲ開催セリ審査長ハ吉田林業技師ニシテ審査員數名之レニ從事セリ
 競技會出品地ハ植栽後三年以上二十年以下ノ人工造林ニ限リ出品反別ハ一團地ニシテ二反歩以上トシ一人一ヶ所ト定メ七月中ヨリ審査ニ着手シ十一月二十二日其褒賞授與式ヲ行ヘリ
 審査長ノ申告書左ノ如シ

申告書

大正紀念東加茂郡山林部會第一回植林競技會ヲ開催セラレ、ニ當リ約三旬ニ渉ル日子ヲ費シ斯道ニ堪能ナル審査員諸氏ト共ニ最モ嚴正周密ナル審査ヲ遂ケ本日茲ニ褒賞授與ノ申告ヲナスハ本職ノ尤モ榮譽トスル所ナリ

今回ノ出品總點數ハ百二十六點ニシテ之ヲ細別スレバ足助町二點盛岡村十二點松平村三點下山村四十八點賀茂村二十二點旭村三十八點阿摺村一點ニシテ内一等賞三點二等賞九點三等賞十八點褒狀二

十點ノ查數擬賞ヲナシ既ニ閣下ノ裁定ヲ得タリ仰モ植林事業ハ地質ノ鑑定樹苗ノ良否保護手入ノ方法植付ノ疎密等施業ノ如何ニヨリ素ヨリ其成績ニ差異アルハ免カル可カラザルモ適種ヲ適所ニ植栽スルハ甚ダ肝要ナルモノニシテ斯業家ノ猛省セサル可カラサルモノトス

左ニ審査ノ概評ヲ試ミ參考ニ供セントス

一、樹苗撰定

今回ノ出品中林木成長ノ狀況ハ概シテ好良ノ狀態ニアリテ樹苗ノ撰定ニ於テモ近時大ニ注意ノ跡アルハ實ニ喜ブベキコト、ス唯惜ムラクハ植樹種ノ多クハ杉ニシテ扁柏ノ比較的少ナキハ非常ニ遺憾トスル所ナリ由來杉ハ其成長量ニ於テ扁柏ニ過キ爲メニ早ク利用シ得ラルベク林業經濟上有要ナル樹種タリト雖モ本郡ニ於ケル其好適地ノ割合ニ少ナキハ如何トモナシ能ハサル所ナリ從來本郡内ニ於ケル個人植栽ハ殆ンド大部分杉ニシテ稍々古キ森林ハ高低杉ナラザルハナク扁柏ニ至ツテハ僅カ点在ヲ見ルノミ然ルニ其成績ノ模様ニヨレバ概シテ扁柏ニ適應スルガ如キ個所ニ杉ノ植付アリテ樹種ノ撰定ヲ誤マレルノ觀アルモノ甚ダ多ク大ニ國家經濟上不利タルノミナラズ經營ノ勞モ何等ノ價値ナキニ終ラン希クハ將來其實驗ニ鑑ミ土地ニ適應スル樹種ニ注意スルヲ要ス

二、植栽ノ方法

出品中保存ハ大体ニ於テ完全ナルモノ多キハ甚ダ賞スベキモ往々原生林木ヲ其儘剝皮シ自然ノ腐朽ニ委ス所アリ之等ハ地培經費減ノ上ヨリ施業シタルモノナラント雖モ之カ腐朽朽頭倒スル場合ニ於テハ周圍ノ植木ノ多大ノ被害ヲ與フルノ虞ナシトセズ而シテ又植栽ノ多クハ疎植ニ失シ爲メニ將來本末同大ノ良種ヲ得難タカル可ク從テ利用率少ナキノ憾ミナシトセズ尤モ疎密ノ程度ニ就キテハ其地方ノ狀況ヲ斟酌スルハ勿論タリト雖モ本郡ニアリテハ通常六千本内外ヲ適當ト認ム

三、保護方法

手入刈ハ稍々行届キ居ルヲ認ムト雖モ多クハ其ノ季節ヲ誤リ已ニ晚秋後ニ行フモノアリ或ハ間々數

年放任の跡アルヲ見ルハ寔ニ悲マザルヲ得ズ之レ勞力分配ノ都合ニヨリ免ルベカラザルト雖モ勉
 三メテ一定期間ハ必ズ施行スベク之レ林木生育上重大ナル關係ヲ有シ早ク其成果ヲ得ルヲ資本タルコ
 トヲ忘ルベカラス又間伐年齢ニ達シタル個所ノ如キモ之カ施業シタルヲ見ズ
 枝打ノ如キ往々施行スルモノアリト雖モ之又季節ヲ論ゼス樹齡ノ如何ヲ問ハズ施行シ加フルニ其方
 法ヲ誤リ却テ林木ノ生育ヲ妨グルノ嫌ナシトセズ希クハ益々研究考究適切ナル施業アランコトヲ望
 ム補植ハ概シテ十分ナラザルモノ、如ク其成長ノ状態モ遅々タルガ如シ思フニ補植ニ要スル樹苗ハ
 相當年齢ノモノヲ撰定シ新植苗ヨリ強健長大ノモノヲラザル可カラズ然ルニ現況ニヨレバ二回若ク
 ハ三回目ノ補植ニ用ユルモノト雖モ殆ント新植苗木同大ノモノ多ク然ラサレバ頗ル長大ニ失シ却
 テ萎縮發育ヲ妨ゲラレ大ニ林相ノ不齊一ヲ來タシ遂ニ被壓木トナリテ徒勞ニ歸スベク實ニ考慮ヲ要
 スルモノニシテ少ナクモ二回以上ハ嚴ニ補植ヲ必施スルト共ニ所要ノ苗木ハ之レニ適應スルモノヲ
 撰ビ以テ百年ノ大計ヲ誤ラザル様深ク鑑ミサル可ラズ
 終リニ臨ミ本郡内個人植林ハ豫想外ノ盛況ニシテ今回出品点数ノ數十倍ニ達スベシ益々撫育保護ヲ
 怠ラザレハ將來ノ富源夫レ圖ルベカラザルモノアルベク尙植林ニ適當ナル山林ハ隨所ニアルヲ以テ
 進ンデ之カ開發經營ヲナスハ山林郷民ノ本領ニシテ自家ノ安固ヲ謀リ國家ノ福利ヲ増進スルノ大寶
 庫タリ當業者ハ益々三省奮勵セラレンコトヲ此ニ謹ンデ授賞アランコトヲ申請ス

大正二年十一月二十二日

大正紀念第一回植林競技會 審査長 愛知縣林業技師 吉田 又造

保安林標柱建設

明治四十四年四月農商務省訓令第七號標柱建設規程ニ依リ大正二年度ニ於テ縣下保安林ニ建設セシ標柱
 左ノ如シ

年 度	郡 市 郡	町 村	箇 所	本 數
大正二年度	渥 美 郡	高 豐 村	三	九八
同	同	赤 羽 根 村	七	七四
同	同	伊 良 湖 岬 村	二	二
同	同	福 江 町	四	四
同	同	泉 村	二	二
同	同	野 田 村	二	五
同	同	田 原 町	八	八
同	同	神 戶 村	三	四
同	同	杉 山 村	三	四
同	同	二 川 町	一三	一三
同	同	老 津 村	三	三

同	同	同	同	計
高師村	牟呂吉田村	豐橋市	額田郡	
二六	八	一二	男川村	二
二九	八	一二		一四一
				四〇八

本縣林野取締狀況

本縣ニ於テハ明治四十一年度ヨリ山林取締巡查ヲ設置シ砂防指定地及ビ森林地方ノ保護取締ヲ施行シツ、アルガ其ノ駐在個所左ノ如シ

勝川警察署 坂下村、篠岡村大字大草、同村大字大山

瀬戸警察署 瀬戸町第一、同町第二、同町第三、旭村大字新井、品野村大字品野、赤津村大字今阪、長久手村大字熊張、幡山村大字青戸、同村大字山口北、同村大字山口南

岡崎警察署 常磐村大字瀧

舉母警察署 舉母町大字宮口、三好村大字明知、同村大字福谷、藤岡村大字西山中

足助警察署 賀茂村大字御内藏連

愛知縣山林會ノ活動

○大正二年十月十日第四回總會ヲ南設樂郡新城町永住寺ニ於テ開催ス、有功章授與式ヲ舉ゲ午後講演アリ、出席者一千餘名、郡役所ニ於テ同郡林産物品評會アリ、又同所ニ本縣商品陳列館ノ協賛巡回陳列アリ、本縣測候所ノ測候器具出陳及説明アリ、頗ル盛會ヲ極ム

○會報ヲ發刊シ會員ニ頒布セリ

○郡部會ハ總會及講習會ヲ開キ又視察員ノ派遣ヲナシ活動スル所アリタリ

林業講話講習會ノ開催

本縣林業講話規程ニ由リ本年度縣下各地ニ於テ開催セラレタル林業講話講習會ハ左ノ如シ

郡	町村	場所	日時	期間	聽講生數	開催主	講師	備考
丹羽	布袋町	郡役所	大正二年十一月二日	一日	五〇	種苗組合	依田貞種	杉赤枯病ニ就テ
知多	横須賀町	尋常小學校	同 三年十一月廿九日	一日	六五	知多郡第二部教育會	林業技手 柿原明十	林業及地質ノ大意
同	同	同	同 年十二月二十日	一日	四五	同	同	地質學大意
額田	幸田村	村役場	同 年二月廿五日	一日	五〇	村農會	林業技手 坂本治	竹林栽培
西加茂	舉母町	探養院	同 年二月廿四日	一日	三〇	舉母町	同	同
同	同	同	同 年三月十九日	一日	一六〇	西加茂郡	技手 小柳津佐名義	森林ノ荒廢並ニ荒廢地ノ前後策
同	石野村	廣澤寺	同 年二月廿五日	一日	四三	石野村	關手 馬	森林保護法大意

區域ヲ定メ賣拂又ハ讓與シタル林野中存置ヲ要スベキ立木アルトキ(目通)
 四、前項ノ外特ニ使用ヲ要スル場合ニハ總テ第三號ノ山印ヲ適用スベシ
 五、極印ハ總テ黒肉ヲ使用スベシ
 但誤打セシトキハ朱肉ヲ以テ同印ニテ消印スベシ

離形

第一號



第二號



第三號



徑一寸二分

告示第二百二十二號

保安林ノ伐採又ハ縣有財産ノ立木及木材ニ用ユル極印左記離形ノ通り定メ本年九月ヨリ使用ス
 大正二年七月十六日
 愛知縣知事 法學博士 松 井 茂

左記

離形ハ省略(訓令第十七號參照)

告示第十二號

樟樹苗木下付規程左ノ通定ム

大正三年一月六日

愛知縣知事

法學博士 松

井

茂

樟樹苗木下付規程

- 第一條 植樹獎勵ノ爲左ノ事項ニ該當スルモノハ樟樹苗木ノ下付ヲ受クルコトヲ得
 - 一、面積一反歩ノ圍地ニ三百本以上五百本以下植栽スルモノ
 - 二、社寺境内地、學校ノ敷地内又ハ運動場ノ周圍ニ植栽スルモノ
- 第二條 公有林野ニ植栽セントスルトキハ造林ニ要スル經費ノ收支豫算書ノ提出ヲ要ス
- 第三條 苗木ノ下付ヲ受ケントスルモノハ左記事項ヲ記載シタル書面ニ見取圖ヲ添ヘ大正三年一月三十日マデニ町村役場ヲ經由シ申請スヘシ
 - 一、植栽目的地ノ郡、市、町、村、大字、字、地番、林野ノ反別及下付苗木ノ本數
 - 二、公有林野又ハ社寺、學校、其他公共ニ屬スルモノハ其土地ノ名稱
- 第四條 苗木ノ下付ハ數量ニ限リアルニ付キ申請者ノ順位ニ依リ交付ス
- 造林ニ不適當ノ土地ト認メタルトキハ交付セザルコトアルベシ
- 第五條 苗木ノ下付ハ指定ノ場所ニ於テ引渡ヲ受ケ造林ニ關シ命令セラレタル條件ニ違背シタルトキハ苗木一千本ニ對シ金拾圓以内ノ割合ヲ以テ補償金ヲ納付セシムルコトアルベシ

縣令第五號

地方森林會議員旅費支給規定左ノ通定ム

大正三年一月二十一日

愛知縣知事

法學博士 松

井

茂

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四五ノ一	四一	四〇ノ三	四〇ノ二	四〇ノ一	三三九合 三六	三五	三四	三三	三一	三〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
〇一二二	〇一〇五	〇一二三	〇四三三	〇二二八	〇四〇三	〇五二二	〇一〇二	〇一〇七	〇一六六	〇三二六
武内孫右衛門	三谷町	同	竹内六治郎	三谷町	藤田彌三次郎	同	平野又左衛門	同	同	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	竹ヶ澤	同	同	同	同	同	同	同	同	上	同	同	同	同	同	同	同
二九	二八	二七	一八	五ノ一	四〇	三一	三〇	二九	二八	二三ノ三	二三ノ三	二二ノ三	二二ノ二	二〇ノ一	一一ノ一	一一ノ一	一一ノ一	一一ノ一	一一ノ一	一一ノ一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
〇一〇三	〇二一〇	〇六〇八	〇〇〇七	〇二〇〇	〇二〇六	〇一〇一	〇〇一六	〇二二二	〇三〇九	〇二二二	〇〇一三	〇〇二〇	〇二二四	〇二二一	〇八一九	〇〇〇二	〇〇〇二	〇〇〇二	〇〇〇二	〇〇〇二
藤田彌三次郎	同	武内孫右衛門	竹内利三郎	武内孫右衛門	小田太郎十	同	同	同	大野禮藏	同	竹内利三郎	武内重次郎	同	竹内重五郎	武内重次郎	藤田惣作	藤田惣作	藤田惣作	藤田惣作	藤田惣作

新編 皇古眼藻 (六)

目次

社 頭 杉……………一九五頁

齋田ト杉樹……………二一八頁

御大典紀念事業ニ就キテ……………二二二頁

木曾流ノ伐木運材ニ就キテ……………二二八頁

町村ト森林トノ關係……………二三六頁

町村有林ノ經營ト種苗業者……………二五二頁

樹木ト圖案……………二五六頁

御即位紀念事業桐樹植栽……………二六〇頁

社 頭 杉

愛知縣技師 三 溝 謹 平

杉ハ本邦固有ノ樹木デア、歐羅巴、亞米利加等ニハ是ニ類シタルモノハナイ、支那ニテ杉ト稱スルモ我國ノ杉トハ同ジデナイ廣葉杉即チ「オランダモミ」デアルト云フコトダ、左レバ杉ハ他ノ國ニナイ種類ト謂ハネバナラヌ本草綱目ニモ杉木和國ニ出ルモノヲ和木ト云フ、合璧事類ニハ杉木和國ニ出ルモノ最モ佳ナリトアル、而シテ日本書紀ニ

素盞鳴尊曰、韓郷之島、是有金銀、若使吾兒所御之國、不有浮寶者、未是佳也、及按鬪舞、之即成杉云々、杉及樟此兩樹、可以爲浮寶云々

トアル以テ杉ハ本邦特有ノ樹木ニシテ日本ノ名木タルヲ知ルベキデア、松村博士ノ普通植物ニハ「杉ハ之ヲ遠ク望メバ恰モ森ノ如ク亦鋒ノ如ク細ク尖リテ黒ク見ユレバ何人モ容易ニ其杉ナル事ヲ知リ得ベシ、抑モ杉トハ其幹長クシテ直ナルガ故ニ此名アリ、吾人ハ杉ノ形ヲ取リテ他ヲ形容スルコトアリ、森ノ如キ形シタルヲ杉ナリトモ云ヒ歌詞ニハ鉾杉トモ云ヘリ如何ナル樹木ニテモ各特有ノ形ヲナセド杉ノ如ク一定シタルハ他ニ其類ナシ實ニ直ナルコト杉ノ名ニ背カズト云フベシ」云々

十丈の杉六尺のすゝまかな
鉾杉の鎮守に注ぐ時雨哉
高々々杉ある坊の若葉かな

子規
三川
碧童

杉ハ真直デア、ル其枝其葉モ亦規則正シク真直デ其色ハ濃緑ニシテ黒ニ傾キ寧ロ強剛ヲ示シテ居ル、即チ森林美ヨリ論ズル時ハ全部直線的デ宏壯美ノ要素ヲ多ク含ンデ居ル故ニ之ヲ殿堂ニ配スル時ハ宏壯ニシテ崇嚴ヲ極メ知ラズ識ラズ崇高ノ心ヲ起サシメテ一層ノ信念ヲ増サシムルノデア

伊勢大廟ハ我國體ノ本源ニシテ其偉大ナル歴史ヲ偲ベバ誰カ涙ノ溢レザル者カアル去ナガラ其素木造ノ殿堂ト杉ノ老木ト相映ジ相映ツテ益宏壯美ヲ感ズルノデアル神社ニ杉、這ハ我國體ヨリ論ズルモ亦其美觀ヨリ論ズルモ離ル可カラザルモノニシテ社頭ノ杉ハ以テ神社ノ崇嚴ヲ増シ且古キ歴史ヲ物語ル唯一ノ標的デアル故ニ神社ノ境内ニハ成ルベク杉ヲ植ベク又古木ノ杉ニハ出來得ル限りノ手ヲ盡シテ之ガ保存法ヲ講ゼネバナラス

萬葉集

御幣取リ神ノ祝ヲ鎮齋ふ杉原薪木伐リ殆々しく手拵取らえぬ

社頭杉

ちはやふるかどひの宮のあや杉は神のみそきにたふるなりけり

子規

みたまの杉の林のかけに咲く老い朽ちさくら花のさほしき

杉ふかしかたしけなさに袖の露

神垣や老杉ふかく風かほる

神々を送る天狗や杉の月

里神樂白矢をまつる杉の宮

晦日月千歳の杉を抱く嵐

灯のともる東照宮や杉の雪

鹿の子や拜殿ふかき杉並木

神境に夏尙寒き杉木立

禾 玉 子 芭 風 玉 孤 有

杉ハ和名類聚ニ須木續日本紀三代實錄ニハ梧ニ作延喜式ニハ梧ニ作ル梧ハ梧ノ誤リナリト云フ合義解ニハ梧字ヲ用フ、古事記ニモ二股梧ナドアリ

日本書紀ニ梧茲ニ須擬ト云フコトアリ、本草和名ニハ須木之木ト訓シ和名集ニハ須岐ト訓シ新選字鏡ニハ須木乃木ト見ユ、萬葉集ニ香久山之銚梧トアリ其他古書ニ散見スル所多シ
學名クリブトメリア。ジヤポニカ (Cryptomeria japonica) ト稱ス松柏科 (Coniferales) 中松樅族 (Pinoideae) ニ屬スル針葉常緑ノ喬木デ樹幹最モ能ク直立シ其生長ハ產地ニ據ツテ大ニ不同ガアル例ヘバ羽後ノ秋田地方ノ天然林ノ如キハ幹圍僅ニ三尺許リニシテ二百餘年ヲ經タルモノガアル、又九州地方ノ人造林ノ如キハ凡ソ三十年ヲ經過シテ其幹圍三尺ニ及ンデ居ルノモアル

奎堂

蒼翠相依鬱作蔭。 歲寒初見後凋心。
此心若比凡桃李。 高拔其群更幾尋。

讀人不知

初瀬川古川の邊に二本ある杉年を経てまたも逢ひ見む二本の杉

三輪社

今つくる三輪のはふりか杉社過にしこは問はずさしよし

杉暗く鴉なくなりあきの雨

古郷に高い杉ありはつしくれ

寒月や石塔の影杉のかけ

冬の月杉を澄するあらし哉

鴨啼くや大河の岸の二本杉

水 白 子 荆 子 規 口 規 雄 巴

温帯ニ生ズル樹木ナレドモ日本全國殆ンド到ル所ニ栽植セラレテ大森林ヲナシ、就中秋田杉、吉野杉、屋久杉等ハ其名最モ高イ、佐藤信淵氏云ヘルアリ「世ニ良材多シト云ヘドモ杉、扁柏ニ勝レル木ナシ、雜木ヲバ除キ去ツテ努メテ此二木ヲ植ウベシ數多植ヘテ成長肥大セシムルニ至ツテハ眞ニ國家ノ寶ナリ」ト實ニ杉、扁柏ニ優ル林木ハナイノデアル、杉ハ本邦森林植物中最上位ヲ占ルモノデ杉ニ適スルガアラバ之ヲ植栽養護シテ國ノ寶ヲ増殖シ以テ國力ノ充實ニ資スルノ途ヲ講ズルハ國民ノ本分デアル殊ニ

杉ノ木ノ我國ニ於ケル遠ク神代ノ昔ヨリ既ニ其樹名ニハ著ルシキモノアリテ村落アレバ必ズ神社アリ神

社アレバ杉アリト云フ有様ニテ我國体トノ縁由ハ淺カラヌノデア

ル

古郷の杉の板屋のひまあらぬゆきあはてのみの年の経ぬらん

季 經

まきはふる三上の山の杉、や八百よつた代のしるしなるらん

讀人不知

我庵は三輪の山本戀しくは訪らひ來ませ杉立てる門

時雨る、や後架の窓に谷の杉

野の杉に往來叩くや下駄の雪

家二軒杉二本冬の鴉さふ

杉の雪一町奥に仁玉門

杉山を後に花の小村かな

煤掃は杉の一木のあらし哉

杉時雨暮れよま鐘の響くなり

射 香 子 子 鳴 芭 鱧

石 村 規 規 雪 蕉 江

之ヲ消極的ニ云フモ尙且人ヲシテ崇高ノ念ヲ發揮セシメ祖先ノ遺徳ヲ追慕セシムルト共ニ益皇室ニ對スル欽仰ノ念ヲ深カラシムル性質ヲ有シテ居ル、之ヲ積極的ニ解スル時ハ其樹ノ効用極メテ多ク植栽ノ利益ヲ以テ家産ヲ増殖シ國富ヲ増加スルニ足ルコトハ蓋シ他樹ノ及バザルコト遠シ、今年「社頭杉」ノ御題ヲ拜シテ吾々ハ敬虔ノ意ヲ表スルノデア

一、杉ノ幹

幹ハ眞直デ其形ハ正シキ圓錐形ヲナシ表皮ハ赤褐色ニシテ重皮層々厚キコト四五分縱裂アリ成長ハ速カニシテ發生ノ當年既ニ三四寸ノ長サニ達シ翌年七八寸三年目ニハ一尺四五寸ヨリ二尺ニ至リ爾後年々二三尺餘ノ生長ヲナシ五十年目ニ至レバ高サ十餘間周圍四尺ニ達スルヲ普通トシ其老タルハ高サ百二十尺

周圍凡ソ二十五尺ニ及ブモノガアル、而シテ幹ハ其性質上疎開シテ陽光ノ直射ヲ受ル時ハ側枝ナキ所ニテモ葉枝ヲ萌出スルユエ疎林ニアツテハ地上ヲ去ル遠カラザル所ヨリ多少ノ枝ヲ生ズルヲ常トセリ、加之ラズ幼時ノ生長速カナルガ故ニ最モ貴重ナル心材ハ海綿狀ノ如キ年輪ヨリ成リ即チ材質氣孔多ク纖維粗ニシテ且割レ安ク爲ニ品質ヲ損シ大ニ其材ノ價值ヲ減ズルモノデア

購略ぐや夕日の残る杉のむら

杉高く秋の夕日の茶店かな

大木のすつくま高し冬の門

目覺の幹より知る、木芽かな

靜かなる杉に身を寄す雨の處

也 有 規 規 衣

赤 子 子 赤 子 赤 子

葉 衣 衣 衣 衣 衣

二、杉ノ枝葉

枝ハ其ノ發生スルコト整齊ニシテ頗ル稠密デア

爾側枝ノ生長方向ハ其主幹ニ對シ鈍角(殆ド平)ヲナシ四方ニ突出シ大枝ノ上ニハ多數ノ小枝ヲ互生ス

下枝ノ成長ハ他部ノモノヨリモ大ナリト云ヘドモ隣接樹冠ト接觸シ互ニ重積スルニ從ヒテ受光ノ度ハ減却シ遂ニ枯死スルニ至ル然ルニ若シ之ヲ疎植スル時ハ或ハ一定期ノ間ハ枝葉著ルシク繁茂シ密植シタルモノニ比スル時ハ凡ソ二倍ノ生枝ト三倍ノ枯枝ヲ有スルカラ自然幹材ノ品質ヲ損スルハ餘儀ナイコトデア

秋の空尾上の杉を離れたり

霜庭や小さき杉の風かゝる

其 角 水

葉ハ針葉ニシテ尖リ長サ三分乃至五分小枝ノ全面ニ附着シテ居ル表裏及左右ニ一個宛ノ高マリタル縱線アリテ横斷面ハ四角ヲナシ表裏ノ幅左右ノ幅ヨリ廣ク各側面ヲ仔細ニ檢スル時ハ白線アルヲ見ル、而シテ此針葉ハ新シキモノヨリ古キモノ、長大ナリト雖モ尙一層老フレバ衰ヘテ短縮ス故ニ彼ノ枝葉伸長シテ四時綠色ヲ減ゼザルハ樹性ノ健強ナルモノデア

ル、尤モ幼時ニアリテハ冬間ハ寒氣ノ爲ニ葉色赤色ニ

變ジ春ニ至ツテ再ビ青色トナルヲ常トシ其青色ナルハ却ツテ寒氣ノ爲ニ傷害シタル證據デア

木に置て見たより多き落葉哉
松杉の落葉沈むや神の池
待人の足音遠き落葉哉
風や杉葉吹き散る能舞臺
崩れたる山のなだれの落葉哉

若シ夫レ助長主義ヲ以テ安リニ枝打ヲナス時ハ其樹ノ生長ハ却テ不良トナル、其材ハ必ズ損傷ガ多クアル、又枝葉ハ婆娑トシテ梢頭ニ集マリ種子ヲ結ビ贅枝ハ切痕ヲ圍繞シテ盛ニ萌蘖シ林相ハ衰弱ノ態ヲ呈スルニ至ルモノデア

三、杉ノ根

杉ハ播種後二週間ヲ經レバ先ヅ根ヲ地下ニ下シテ三四週間ニシテ芽ヲ出スヲ普通トシテ居ル、一年生ノ根ハ四寸乃至八寸ニ至リ直根ハ分岐シテ大ナラズ非常ニ多數ノ側根ヲ生ズルモノデア、而シテ側根及ビ直根ノ相倚リテ網狀ヲナシ其網狀根ノ占領スル區域ハ悉ク其根ヲ以テ纏繞シ五年生ニテ六尺四方ヲ占領スル狀況デア、然レドモ松ニ比較スレバ其ノ根ハ稍淺クシテ風ノ爲ニ倒ル、トイフ害ニ罹リ易イカラ此邊ハ注意シナクテハナラヌ斯ク直根ノ分岐シテ長大ナル側根ヲ四方ニ張ルノデア、カラ杉樹ハ其根ノ深入シ得ベキ深キ土地ヲ好ムノミナラズ又多量ノ水分ヲ要スルヲ以テ俗ニ杉ハ水ヲ呼ブトサヘ云フノデア、故ニ根ノ構造ヨリ其適地ヲ選擇スレバ次ノ如クデア

- (イ) 杉ハ清水ノ新陳交替スル地ヲ好ム古期層ニハ割目多クシテ水能ク交替ス此樹ハ汚水ヲ好マザルガ故ニ停水セル沼澤等ノ傍ニ植栽スル時ハ必ズ枯死スルノデア
- (ロ) 杉ハ傾斜セル地ヲ好メリ古期層ハ日光ノ等シキ照射ヲ受クル地形多シ
- (ハ) 杉ハ陰地ヲ好ミ日光ノ劇射ナク又土地ノ乾燥セザル地ニ適ス、古期層ハ溪谷多クシテ傾斜峻急ナルガ故ニ此ノ形ヲ備フ多シ

四、杉ノ花實

杉ノ花ハ吾人ノ賞翫スル梅櫻ノ如キ花トハ性質全ク異ナツテ居ル、第一雄花ト雌花トハ同一デナイ、一木中ニ雄花ト雌花ト二様ノ花ヲ開クモノデ其雄花ハ卵形ニシテ枝頭又ハ葉ノ腋ニ聚生シテ米粒位ノ大サデ俗ニ杉ノ米ト稱シテ兒女等ノ弄ブノガ即チ夫デア、雌花ハ單生又ハ雙生シ或ハ聚生シテ圓形デ莖ノ頂端ニ附着シテ居ル、此花ハ雌雄共ニ前年ノ秋ニ既ニ其形ヲナシ、開花ノ準備ヲシテ翌年三月中旬ニ至ツテ開綻スルモノデア

手をあけて待日は落の木實哉
鳥啼て笠にこぼる、何の實ぞ
何の鳥ぞ木の實啣てすいと飛ぶ

鳥啼くや木の實の熟する裏の山	格	堂
杉の實を採る聲あり百舌の鳴	拈	華
夕ぐれや木の實が笠を宇都の山	露	月
	一	茶

種子ノ大小ハ一定シテ居ラス、即チ同一鱗果中ニアリテ大小アリ又母樹ノ老若ニ依テ差別モアル若イ樹ニ結實セルモノハ大形ニシテ老樹ノハ小ナイ、而シテ種子ノ大ナルモノハ發育生長悪シク又小ナルモノモ良クナイ、種子一合ノ量ハ余輩ノ實驗ニ依レバ十八匁乃至十九匁五厘デ乾燥ノ度ニ依テ差ガアル、粒數ハ一合ニ付二萬二百粒乃至二萬五百粒(是ハ精選ノ良否ニ依ル)アリテ一粒選ニナシタルモノ千粒ノ量目ハ九分乃至一匁以下ナリ

リ其鱗果ノ熟シテ少シ色附キタルヲ枝ト共ニ剪截シ之ヲ束トシテ堆積シ或ハ筵席ニ據テ日光ニ曝スコト二三週間、鱗片ノ開口スルニ至リ棍棒ヲ以テ亂打シ篩ニテ塵埃ヲ去リテ次ニ箕唐箕ニテ精選シ二三週間日光ニ乾シテ後貯藏シ翌春ノ播種用ニ供ス或人ノ説ニ依レバ種子ハ同一樹ノ内ニテモ其上部ニ結ビシモノハ中部ニ結ビシモノヨリ性質劣等ナリト又種子ハ毎年結實スレドモ三年毎ニ殊ニ多量ノ結實ヲナシ多キハ一本ノ樹ヨリ五六升ヲ收穫スルト云フコトデア

(イ) 種子ニ重ク厚ク實入ノ宜シキト輕ク薄ク實入ノ惡シキトアリ後者ハ孱弱ナル胚珠ヲ保テ丈夫ナル苗木トナル能ハザレバ前者ヲ選用スルヲ要ス此區別ニハ冷水ニ種子ヲ浸シ浮ビタルモノヲ去テ沈ミタルヲ取ノデア

ル苗木トナル能ハザレバ前者ヲ選用スルヲ要ス此區別ニハ冷水ニ種子ヲ浸シ浮ビタルモノヲ去テ沈ミタルヲ取ノデアル猶良種ヲ得ンニハ塩水選ヲスベシ、一升ノ冷水ニ食鹽二三合ヲ投ジ其中ニ種子ヲ浸シテ沈ムモノヲ執リ清水ニテ洗ヒ後三四日間乾カシテ貯フルニアリ

(ロ) 種子ヲ播種スルニハ必ス其新古莠實等即チ種子ノ良否ヲ檢タメネバナラス、他ヨリ種子ヲ購入スル時ハ先ヅ其荷造リセル囊中ニ手ヲ押入レ種子ニ溫度ヲ有スレバ即チ鬱蒸セル證據デ乾燥ノ不足ナノデア

ル時ハ先ヅ其荷造リセル囊中ニ手ヲ押入レ種子ニ溫度ヲ有スレバ即チ鬱蒸セル證據デ乾燥ノ不足ナノデア、其種子ヲ取出シテ割テ臭ヲ嗅ギ臭味アルコト多キモノハ播種ヲセネガ宜イ、手ヲ入レテ冷タキモノハ十分ニ乾燥シテ居ルノデア

メザルニアリト故ニ若シ遠方ニ之ヲ輸送セントスレバ布袋ニ入レテ其儘送致スルヲ可トスト曰テ居

五、杉ノ効用

杉材ノ用途ハ極メテ廣イ、材ノ最モ長大ナルモノハ帆柱トナシ其他家屋ノ建築橋梁桶材船材電柱等ニシテ一般ニ使用スルコトハ頗ル大ナルモノデア

材ノ種類ハ普通杉、屋久杉、神代杉アリ又白ト赤味ノ著ルシキモノヲ源平ト云ヒ、鏡戸等ニ賞用シテ居ル、而シテ伊勢ノ御山杉、鳳來寺山杉ノ如キ老木ハ柱目ガ極細密デ光澤ガアルカラ大ナルハ天井板及ビ長押等ニ用ヒ小ナルハ短冊掛トカ柱掛或ハ菓子器、茶器ヲ作ルノニ用ヒテ居ル今主ナル杉材ノ產地ヲ舉レバ

- (イ) 紀州ノ新宮ハ角物、板、スキ等ヲ産出ス
- (ロ) 武州カラハ青海角材ト稱シテ尺角以下ノモノヲ産出スル、先ヅ八寸角ヲ最大トシ七寸カラ四寸其ノ他ニ三五分四五分ト稱スルノモアル之ヲ「クヒラ」ト云ツテ長サハ一丈三尺五寸トシテアル
- (ハ) 亦武州カラ丸太ヲ産スル之ハ四谷丸太ト云ツテ足場用ニスル
- (ニ) 水戸カラハ常陸角ト云フガ出ル
- (ホ) 三州カラハ板、スキ、屋根板ガ出ル
- (ヘ) 遠州カラハ角物板ト電柱ヲ出シテ居ル
- (ト) 大和吉野カラハ角物板ヲ産出スル醸造用桶材トシテ上等デア
- (チ) 京都葛野郡カラハ北山丸太ヲ産出スル磨キ丸太トシテ上等ノ建築ニ用キラレテアル、又桑田郡カラハ角物ヲ産出シテ居ル

(リ) 朽木縣日光カラ産出スルモノヲ俗ニ日光ト稱シテ居ルガ之ハ材質ガ劣等デア
 (ヌ) 秋田地方カラハ角材板ヲ産出スル折箱ヤ箸等ニスルニハ此地方産ニ限ル
 世ニ屋久杉ト稱スルハ大隅ノ屋久島カラ出ルモノデ老樹又ハ土中ニ埋没シタモノハ紋理ガ美麗デ黒褐色
 ナルヲ以テ天井板等飾材トシテ珍重セラレタル、然レト脂氣ノ多イノデ簞笥等ヲ造ルニハ宜シクナイ、
 神代杉ハ相州箱根ノ湖中ヤ丹後若狹等ノ海濱カラ出ル、水中又ハ溪澗等ニ埋没シテ年ヲ經タモノデ其色
 ハ鼠色ト茶色トアツテ雅美ナルガ爲ニ大ニ賞讃セラレテ居ル此材ニハ脂氣ガナイカラ用途ハ極メテ廣イ
 普通杉材ハ尺角物一本デ八十貫トシテアルガ良材ト稱スルモノハ七十五貫内外デア、適地ニ産スルモ
 ノハ邊材ガ少クテ心材部ガ多イ、色ニ赤ト黒トアルガ其ノ黒イノハ日光ニ強ク照射セラレ、トキハ破裂
 シ易イカラ其ノ直段ハ赤色ニ比較サレヌ、赤色デモ俗ニ「ベニカ」ト云フ色ヲ以テ最良トシテアル脂氣
 ノ多イモノハ木香ト稱シテ近年之ヲ以テ各種ノ流動物ヲ製シ又清酒ニ香氣ヲ付ルノニ利用シテ居ル
 樹ノ皮ハ屋根葺用又ハ下見板ノ代用トシテ耐久力ハ板ニ讓ラナイ、皮ニ春剝秋剝トアルガ春剝ハ虫害ニ
 罹リ易イノデ、秋剝ガ一圓ナラ春剝ハ七拾錢ト云フヤウナ割合ニナツテ居ル、夫デ樹皮ハ二十四年乃至
 五十年生ノガ最モ良好トシテアル其以上ハ皮ハ厚クテモ質ガ良クナイ、又杉ノ皮ハ藥用トシテ金創出血
 火傷等ヲ治スノ効ガアル葉ハ線香、抹香、香油等ニ作ラレテ賣レテ往ク其ノ他葉ニ變化多ク奇形ヲナス
 爲生垣トナリ又庭園樹又ハ盆栽ニ用ヒラレルノモ少クナイ

杉垣ニ海棠咲くや上根幹
 杉垣ニ山茶花散るや野の小家
 杉垣の上や掃はぬ栗の花
 ほそくさ垣の杉穂や宿の月

杉ハイロノト酒造ニ縁故ヲ以テ居ルガ爲酒ヲ賣ル家ノ軒端ニ杉ノ葉ヲ丸ク把ネテ吊シテ酒賣家ノ標ト
 シテアル

新酒とやしるしの杉の葉も青き
 片時雨杉の葉掛たる軒暗し

六、杉ノ種類

何所ニ往テモ杉ニハ數種アル然レド是レ皆變種デア、吾邦ニハ唯一種アルノミ、九州デハ花杉、實杉、
 紅杉、イヌ杉、黒杉杯ト稱シテ區別シテ居ル、花杉ハ花ヲ開イテモ實ヲ結バズ、實杉ハ實ヲ結ンデモ花
 ヲ開カヌ故此名アリト云フガ夫ハ眞ニ憶想デ兩樹共ニ雌雄ノ両花ヲ開ク、紅杉ハ材心ガ淡紅色ヲ帶デ材
 質モ最良デ稍花杉ニ似テ居ル、本杉ハ實杉ニ髮髯タルモノデ「イヌ」杉ハ成長ガ極メテ速カデア、隨ツ
 テ年輪疎濶デ其質ハ軟柔デア、ルカラ大キナ用ニハ耐ヌ、黒杉ハ材心必ズ黒褐色ヲ帶ビ易クテ材トシテハ
 最下等品デア、ル又枝葉ノ形狀モ「イヌ」杉ハ枝葉ガ揚起ンテ之ヲ望ムト正シク圓錐形ヲシテ居ルガ實杉ハ
 夫レニ反シテ葉針ガ短小デ四時共ニ褐色ヲ帶ビテ居ル之ヲ望メバ枝葉娑婆トシテ疲瘦ノ態ガアル、其他
 ハ兩材ニ伯仲シテ居ル唯「イヌ」杉ハ小材ヲ造ルニ適シ、本杉ハ屋根板ヲ造ルニ宜イ、酒桶ハ花杉ヲ良
 シテ居ル、豊前耶馬溪ノ森林ハ概ネ花杉ヲ植エテアル斯ク九州地方デ杉ノ性質ヲ變化サシタノハ地味ト
 地形ニモ因ルコトハ勿論デア、ルガ其主因ハ擾條ニアルト思ハレル、尙林業上若クハ園藝上カラ杉ノ變種
 トシテ主ナルモノヲ列舉スルト次ノ如クアル

(イ) 唐杉ハ支那カラノ舶來デ杉ノ葉長ク稍下垂シ針ト針トノ間ガ杉ヨリ遠ク又針ガ柔軟デ手ヲ刺ヌ
 故ニ杉又ハ姫杉ト稱シテ居ル

(ロ) 猿猴杉ハ枝ガ非常ニ長ク一枝ノ上ニ長イ針ト短イ針ト互生シテアル之ハ庭園ニ植フ

(ハ) 祈杉又ハ振レ杉、鳳凰杉トモ稱サレテアル其葉ハ振レテ螺旋狀ヲシテアル

(ニ) 矮杉ハ極メテ小木ニシテ枝モ細ク小サク常ニ刈込シ如キ状態デア、ルカラ矮杉ト云フ庭園ニ植フ

(ホ) 叡山杉ハ葉短ク針端ニ曲リタル刺ヲ有セリ庭園用ナリ

(ヘ) 絲杉ハ枝條ガ柔軟デ細ク下垂シテ居ル

(ト) 仙人杉ハ一名ヲ老人杉トモ云ツテ庭園用デア

盆栽トシテ見ル杉デモ直立繁茂シテ恰モ天ヲ衝ノ風致アルハ實ニ愛スベク又趣味深キモノデア盆栽家ハ其種類ヲ白杉、赤杉、猿猴杉、接杉ト區別シテ居ル、夫デ杉ヲ盆中ニ植附ルニハ豫メ鉢ノ底ニ木炭ヲ入レ置キテ時々水ヲ施シテ常ニ盆土ニ濕潤ヲ保タシメ冬期ニ至リテ油糟ト米糟ヲ肥料トシテ施シ一二年ヲ經テ發芽スル時其芽ヲ摘ンデ置クバ樹身ヲ太クシテ左ノミ伸長ハセス斯ノ如ク行フコト四五年ニ及ベバ老大樹ノ如キ觀ヲシテ來ルデア

白紙を飛ばせば涼し杉に行く
松杉や枯野中の不動堂
野は枯れて杉二三本の社かな

子 子 子
規 規 規

九、杉ノ蕃殖法

杉ノ栽培ニハ實蒔法ト挿條法トニツガアル普通實蒔法ニ依ルモノハ其苗圃ハ肥沃ナルモ朽土ノ多キ土地ハ宜シカラズ所謂砂質ノ壤土ヲ選ビ蒔付ヲナスノ前冬季ニ耕鋤シテ晒シ置キ翌春ノ三月下旬ニ之ヲ耕耘シテ雜草ヤ小石ヲ取除ケ又土塊ハ能ク細碎シテ南北三四尺東西ニ適宜ノ長サニ區劃シ高サ二寸位ノ畦ヲ作り其上ヲ平坦ニシテ稀薄ナル人糞尿等ヲ施シ三月下旬ヨリ四月上旬ノ間ニ於テ播種スルナリ其種子ノ分量ハ種子發芽力ノ歩合ニ依テ差異アルモ一坪ニ付二合内外トセリ

種蒔や夜小雨のよい加減
種蒔の秘傳を語る翁哉
種蒔や山懐ろの一孤村
種を蒔く我を妻子の笑ひ覺

國 芝
牛 茶
子 鳥
花 叟

又蒔キ付タ種子ハ十分濕氣ヲ帶ルヤウニスベシ殊ニ乾燥ノ種子ニハ最モ必要デア故ニ播種ノ前水ニ浸スガ利益デア、即チ清水又ハ白灰水、鹽酸水等ニ浸スルデア、但シ濕潤セル種子ハ撒布シ難イノデア、ルカラ乾イタ砂土ト混合シテ下種スルガ宜イ、而シテ蒔タ上ニハ細イ土ヲ見エ隠レニ篩ヒ掛テ藁カ筵

デ覆ウテ風ヤ雨デ種子ノ露出シ又ハ鳥爪ノ啄マヌヤウニスル、然スル時ハ種子一升デ大抵七八萬本位發芽生育スルデア

發芽ハ下種シテカラ凡ソ三週間位デ甲柝ハ三本アリ種皮ヲ負フテ發生スルガ二三日ヲ經テカラ其種皮ハ落チ夫カラ一週間位デ心芽ヲ出シ其年ノ土用マデハ一本デ生長シ其後枝ヲ生ジテ多少南ノ方ヘ傾ムク、梅雨ノ候ニハ雜草ヲ拔キ取り夏期ニハ日覆ヲ冬期ニハ霜除ヲナシ翌年三月頃ニ床替ヲセルヲ普通トシテアル

新野や雄子の隠る、杉の苗
植込に春行んとす何の花

子 子
規 規

床替ノ目的ハ言フマデモナク其根ト枝ノ伸長ヲシテ四方ニシテ階段ヲナシテ生長セシムル爲デア、其方法ハ播種ノ前ニ風ノ吹カザル曇天ノ日ヲ選ンデ苗床ニアル苗木ヲ掘リ取り其ノ大小ニ依ツテ之ヲ二段又ハ三段ニ分チ又採取ノ時ニ疵ノ付タノヤ長イ根ハ之ヲ截斷シテ後苗床ノ様ニ作ツタ地盤ニ苗木ノ大小ニ依テ大低四寸乃至五寸距チテ規則正シウ植ルデア、若シ其距離ガ狹隘ナ時ハ唯ニ幼苗ノ成長ヲ害スルノミデナク枝根ノ伸張ヲ害シ又廣キニ過ル時ハ土地ヲ無益ニ使用スルノ損失トナルデア

床替ノ翌春ニハ苗木ハ滿二年生トナリ其高サ八九寸トナル、夫ヲ掘取ツテ第二回ノ床替ヲナスデア、其方法ハ第一回ト同ジデア、苗木間隔ハ七八寸ニスルデア、而シテ一年ヲ經過スルト苗ハ一尺五寸内外ニナル即チ之ヲ山出苗トスルデア、併シ其内生長ノ悪クテ一尺以下ノモノハ尙一年間床替シテ滿四年ノ春ニ山出シ苗トスルデア、若シ市中ニテ生垣用ニ供スルニハ四五寸ノ距離ニ植付ク二三週間後ノ雨天カ曇天ノ日ニ薄イ肥ヲ施シテ遣レバ繁茂スルコトモ早ク苗木ノ長サハ三尺ニモ達スル、之ヲ垣根苗ト云フデア、東京附近ノ苗木屋デハ苗木發生ノ翌春彼岸ニハ採掘シテ假植シ一週間ノ後二本宛三寸四方ニ植ニ又其翌春ノ彼岸ニ掘リ尺棒デ以テ之ヲ三段ニ區別シ下等ノ分ハ前年ノ如ク植ニ上等苗

ハ一段歩ニ一萬五千本、中等苗ハ二萬本ノ割合デ植付ル九州地方デハ杉ハ種子デ育ツモノデナイ、挿條
デ繁茂スルモノダト信ジテ居ルガ查山杉高良山等ハ皆挿條法ニ據ツテ居ル、紀州山城地方デモ挿條法ヲ
行フ所ガ尠クナク其ノ方法ハ十年乃至二十年生ノ成長盛シナ木ノ枝ヲ截テ二年目ノ部分ヲ加ヘテ長サ一
尺四五寸トシ其下部ヲ銳利ノ刀ヲ以テ斜メ若クハ楔形ニ截テ夫ヲ挿穂ト稱シテ居ル

ついたかき兒の扱て見るまじ水哉 舟 泉
忘れたるまじ木見出しぬ草の中 鳴 雪

挿穂ヲ挿ニハ鐵棒ヲ以テ地中ヲ稍斜ニ穴ヲ穿テ之ニ六七寸ノ深サニ挿入シ其二年目ノ境ヲ一寸許リ地中
ニ入テ其周圍ヲ足デ踏附テ置クノデアル此ノ時特ニ注意スベキハ葉ノ表裏ヲ能ク正スコトデアアル若シ裏
面ヲ陽光ニ向ハシタラ決シテ生育スルモノデナイ、穴ヲ穿ツニ用ユル鐵棒ハ長サ一尺五寸許リ之ニ木ノ
柄ヲ付ケ或ハ堅木デ棒ヲ作ルモアリ、京都邊デハ竹ノ篋ヲ用ヒ居レリ挿穂ハ數日間水ニ浸シ置クナリ其
久シキ程根付ハ良好ナリ

京都府葛野郡ニテハ枝端ヲ伐リテ三角形トシ粘土ヲ以テ包ミ床ニ挿入シ一坪ニ四五本トシ四年目ニハ之
ヲ山ニ植付クルコト、セリ

薩隅ノ二國ニテハ十年乃至十四五年ヲ經タル壯木ノ枝ヲ二年前ノ芽ヨリ截リ長サ一尺四五寸トシ直ニ挿
入スルモアリ或ハ數日間水ニ浸シテ置クノモアル

日向ノ臼杵郡デハ仲春ノ候「ハナスギ」ノ梢ヲ切斷スレバ其後ハ横枝専ラ生長シ二三年ヲ經テ仲春ノ候ニ
二年前ノ芽ヨリ横枝ヲ截テ直ニ林地ニ挿條シテ居ル

挿條ノ法

數箇有レ繋之柳、欲レ挿ニ於公之園、來請ニ一枝、疾速命レ僅、折ニ兩枝ニ附レ、陽和將レ動之候、眞宜ニ挿任一也、但任レ之法、不レ可レ不
レ謹、其上梢剪レ之斜、欲其不レ腐ニ於雨一也、其下根亦剪レ之斜欲ニ其穿レ土深入而皮不レ掲也、何時見テ其淺々攪レ天點ニ公書案ニ
布中公階砌上也

挿條ノ法ハ何所ノ地モ大同小異ナリ、此法ハ多ク暖地ニ適スルモ寒地ニ適セズ开ハ挿條シタモノモ直ニ

根ヲ生ゼヌ、暖地ニテハ早ク横根ヲ生ジテ切口ヲ閉塞スルモ寒地デハ否ヌ、壯年ニシテ木ノ心ハ腐朽シ
テ了フ或人ノ説ニハ挿條ノ害トシテ左ノ數項ガアル

- (イ) 挿木ノ始メ五六年ハ太サモ長サモ共ニ均シク生長スルモ爾後伸長ハスルモ太サノ増スニ及ボシ
テ遲シ
- (ロ) 伸長力盛ナル故ニ細幹竹ノ如シ
- (ハ) 心材早ク黒褐色ヲ呈シ隨ツテ腐朽ヲ來タスナリ
- (ニ) 實蔭ノモノニ比スレバ成長停止スルコト速カナリ

八、杉ノ適地

杉ハ繁殖力ガ頗ル強イ、又生長ガ速カデアアル夫デ本州ハ勿論四國九州ノ各地ニモ到ル所トシテ殆ド植栽
セラレヌ所ハナイ、本州ノ海岸ニテハ五千呎ノ高サマデ生育スル、三尺ノ童子尙杉ヲ知ラヌモノハナイ
併シ其内ニモ亦自然ノ適地ガアル即チ温帶南部ノ郷土ハ最モ適當トスルノデアアル(本多博士ノ植物帶論)
而シテ自然生ハ相模ノ古期層、越中ノ花崗岩及ビ班岩、羽後秋田ノ火山岩及ビ第三期層、土佐丹波ノ古
期層、大隅屋久島ノ花崗岩等デアアル人造林トシテハ大和吉野ヲ始メ其他各所ニ在ル、適地トシテハ凹窪
セル土地ト東北ニ傾斜セル濕地ニシテ上層ガ墟土デ下層ニ砂礫ヲ混ズル地ヲ可トサレテアル高燥デ南面
ノ土地ハ其生長宜シクナイ、開ク越前阿谷田ノ諸山ハ傾斜度平均十度カラ二十五度デアアルガ北面ノ方デ
ハ五十年ニシテ周圍四五尺トナルモ南面ノ地デハ三尺ニ過ギヌト云フコトデアアル、又日向那珂郡ノ山岳
ハ傾度凡ソ十四度ヨリ三十度ニ及ンデ居ルガ同ジク北面ノ杉ハ四十年デ六尺以上ニナルモ南面テハ僅々
二尺ニ越エナイ殊ニ周圍ノ隣地樹木ノナイ土地デハ一尺五寸トナルモノガ極メテ尠ナイト云フコトデア
ル、俗諺ニ裸樺ニ杉布子ト云フ如ク杉ハ性質ガ平地ニ孤立スルヲ喜バヌノデアアル衆木ト互ニ依持シテ成
長スルヲ好ムモノデアアル

夏山ヤ杉に夕日の一里鐘

芭蕉

風に岩吹き突る杉間哉

總テ杉ハ西日ノ強ハ地方デハ其葉ガ褐色トナツテ生長モ甚ダ宜シクナイ、又風當リノ烈シイ地ニ生長セ
ルモノハ其材質ガ良カラヌノデアアル、故ニ其樹形ニ依テ土地ノ適否ヲ判定スルコトガ出來ル

(イ) 濕氣多キ溪間ニアルモノハ成長速ニシテ四時共ニ綠色玲瓏且梢頭ガ秀デ、居ル

(ロ) 濕氣ニ乏シク溪間ノ緩除ナル地ニ生ズルモノハ生長速カナラズ冬時ニハ葉褐色ヲ帶ビ梢頭モ銳
カラズ

(ハ) 乾燥ノ地ニアルモノハ生長遲緩ニシテ梢頭鈍ク且春夏ノ候ト雖モ葉モ點々褐色ヲ帶ブ

(ニ) 平野ノ卑濕地又ハ不適當ノ地ニアルモノハ樹冠不正ニシテ杓子ヲ倒立テニシタルガ如クナリ

九、杉ノ山地植栽

前ニモ述タルガ如ク床替ヲシテ其成長ノ良好ナルモノハ目的ノ林地ニ植付クルノヲ必要トスルノデアリ
而シテ之ガ植栽ヲスルニハ先ヅ林地ノ掃除ト整理ヲシテ苗木ノ距離四尺平方許リヲ度トシテ唐鍬デ可也
大キイ穴ヲ堀ツテ其中ニ苗木ヲ入レ、根ヲ能ク擴ゲテ土地ニ密接セシメタ後ニ細土ヲ根ニ與ヘテ土ヲ覆
ヒ根際ヲ踏ミ付ケルノデアアル、然シ餘リ堅ク踏ミ付ケタリ、又深く植テハ否ヌノデアアル、堅カツタリ深
カツタリスルト、古根ハ腐敗シタ上ニ新シイ根ノ發生力ヲ弱クスルノデアアル、普通ノ床替ニハ根ヲ切レ
ガ山植ニハ決シテ根ヲ切斷シテハ否ヌ、乾燥セル風ノ強ク當リ太陽ノ射射ガ強ク當ルヤウナ處ニ植付ケ
ルニハ根ヲ泥水ニ涵スルノデアアル、吉野地方デハ苗木ノ長イ根ヲ適當ニ剪リ去ツテ水ヲ洗ヒ雌生エト唱
ヘテ三角形ニ土質ノ肥瘠ニ關セズ一町歩ニ一萬本ヲ植栽スルノデアアル、一日ニ三百本カラ五百本ヲ植ル
ヲ一人ノ仕事トシテアル、種樹秘訣ニ

杉ノ植エ様ハ繁ク植レバ生長甚ダ速カニシテ其性モ善シ疏ラン間遠ニ植ル時ハ成長遅ク其性モ亦惡
シ、須ラク其ノ間ヲ近ク四五尺ニ植付ベシ其ノ成長肥大スルニ從ヒ或ハ舟棹或ハ荷棒小柱等ニ伐採
リテ間ヲ透シテ太ラシメ其中ノ性ノ善キモノヲ遺シ大木トナスベシ

杉の風圃の眼白聲悲し
木鬼や杉の園より杉の音
梢の火や杉間をありく夜迷鳥
杉叢と杉叢と長き稻城哉
松にしぐれ杉に鳴鳴夕日哉

法師
鳴鐘
不換樓
樓塊子
子規

山地ニ植付タル年ニハ僅ニ二三寸ノ生長ヲナシ其翌年ニハ一二尺三年目ヨリハ毎年三尺内外ノ生長ヲナ
セリ

治國如栽樹 兼 道

動きたきやまご鳥根の常盤木も園をおさめし神や植けん

讀人不知

古の人の植けん杉が枝にかすみ棚引く春は來ぬらし

故子爵 品川彌二郎

も、こせの後を計りて植る樹は園の爲なり家の爲なり

苗木ハ其長サ大低一尺五六寸位デ枝張ノ完全ナル根ハ鬚根ノ多クテ房々シテ居ヲモノヲ善良トシテ在ル
併シ餘リニ白根ノ多イ又枝葉ノ綠色ガ濃イノハ肥料ヲ遺リ過タ地デ生長シタモノデアアルカラ是等ハ山地
ノ植栽トシテハ不適當デアアル、奸商輩ハ肥料ヲ施シテ二年苗ヲ三年苗ダト偽ツテ賣付ルコトガアルガ斯
ル時ニハ苗木ノ根際ヲ視ルト直グニ判ル、三年苗ノ根際ハ表皮ガ粗雜ニナツテ黒イ色ニナツテ居ル

東臺の松杉青き氷かな
夜泊りや山氣身に沁む杉の中

子規
快雨

其所デ苗木ヲ林地ニ搬ブノハ春秋ガ宜イ、其ノ方法ハ苔カ土塊デ根ヲ包シテ其上ノ方ノ幹ハ藁蓆デ包
ムノデアアル、最モ大切ニシヤウト云フノハ苗木ヲ十本位デ一束トシ恰好ノ箱ヲ作ツテ一束ヅ、次第ニ積
入レテ根ノ方ニ程能ク潤ツテ水苔或ハ土ヲ詰込シテ幹ノ方ニハ麥稈ノヤウナモノヲ詰合セ、而シテ釘デ
蓋ヲスルノデアアル尤モ此場合ニハ蒸蒸ヲ防グ爲ニ幹ノ方ニナツテ居ル箱ノ四方ニ小孔ヲ穿テ空氣ノ流通

ヲ計ツテヤラネバナラス、又遠方カラ到着シタ苗木ハ成ベク早ク荷造リヲ解キ放シテ一本毎ニ能ク調べ根末ヤ枝幹ニテ既ニ萎縮シテ居ルモノハ剪切シテ程良ク取揃ヘ風ノ當ラヌ日受ノ地ニ假植ヲシテ夫ニ日除ヲナシ根元ヘハ適宜ニ水ヲ灌イデ遣ルノデアアル若シ寒氣ニ弱ツタモノハ温イ所ニ移シテ水ヲ灌ギ手當ヲシテ遣ラネバナラス

十、杉ノ林

杉ノ林ニハ人造林ト天然林トガアル、天然林ノ美麗ナルモノハ秋田地方ニ於ケルモノデ人造林ノ美麗ナルモノハ大和吉野ノ森林デアアル、秋田ノ天然林ノ美ハ實ニ天下ニ冠タル處デ鬱鬱タル杉ノ純林ガ三十平方里ニ亘リ到ル所殆ド雜木ヲ交ヘズシテ蟲々トシテ密林ヲナシ多キハ一町歩ノ材積ガ四千尺ベラ下ラスノデアアル、樹齡ハ概ネ百年乃至三百年ニシテ大ナルモノハ目通り直徑四尺長サ三十間ニ達スルモノモ尠カラヌト云フコトデアアル

杉山の雪なだれたる一さ平
杉山や泉啼いて月ひくき
山は杉里も新酒に一つかな
日は峰に夕立杉の木間哉
癖三醉
夢先
也
有
雪

吉野ノ人造林ハ文治建久ノ頃鎌倉ノ御用材奉行戸田數馬ノ命ニ依ツテ薩摩國屋久島カラ苗木ヲ得タニ濫觴シテ徳川氏ノ時ニ至ツテ土民ノ嘆願ヲ納レテ口役銀ト稱スル運上取立テノ特許ヲ得タヨリ切リ畑ノ業ハ廢滅シテ造林ノ事業ハ盛ニ勃興シタト云フコトデアアル、而シテ多クハ杉ト扁柏ノ混交林デ大低杉七分ニ扁柏三分ト云フ割合デ混植シ、較ヤ杉ニ不適當ナル土地ニハ扁柏ノ割合ヲ多クシテ一町歩ニ凡ソ一萬本ヲ植付ルヲ普通トシタ、之ヲ植付タ時ハ年々下刈枝打等ノ手入レヲシテ十五年目ニ至ツテ初伐ト稱シテ本數ノ十分ノ一乃至十分ノ一、五ノ劣ツタ木カラ間伐シ爾後五年置キ或ハ十年置キ間伐ヲ行ツテ百十年目ノ後ニ至ツテ一町歩ニ付四百七十本ノ皆伐ヲスルノデアアル其割合ハ次ノ如クデアアル

間伐	年度	本數	高サ	目通周圍
第一回	十五年	千本	二間餘	五寸
第二回	十七年	千本	三間餘	七寸
第三回	二十年	千二百本	四間半	九寸
第四回	二十四年	千本	五間	一尺
第五回	三十年	千本	六間半	一尺三寸
第六回	三十五年	八百本	七間半	一尺五寸
第七回	四十年	六百五十本	八間	一尺六寸
第八回	四十五年	五百本	九間	一尺八寸
第九回	五十二年	四百十本	十一間	二尺
第十回	六十年	三百三十本	十二間	二尺五寸
第十一回	七十年	三百六十本	十三間半	二尺六寸
第十二回	八十五年	二百十本	十四間	三尺
第十三回	百年	百七十本	十五間	三尺五寸
皆伐	百十年	四百七十本	十六間	四尺一寸

斯ウ云フ風デ結局一千本ハ枯損スルモノト見テ九千本ヲ全ウ伐採サルノデアアル、或ル人ノ調査ニ依ルト吉野森林デハ斯ノ如ク連年作業ヲ施ス時ハ年々一町歩カラ貳拾九圓九拾貳錢ノ純收入ヲ得ラル、ノデアアル然ルニ該地ノ農業ハ年々一町歩デ僅ニ參圓九拾錢ノ純收入ニシカナラス之ヲ比較スレバ林業ノ純收入ハ農業ノ七倍半餘ニ當ル其資本ニ對スル割合ハ林業ハ九分八厘デ農業ハ二分一厘ニ相當スルト云フコトデアアル

伐木をすべからず雪の谷間かな
星
陵

亦四谷丸太ヲ伐リ出ス森林ノアル所ハ武藏國多摩川ト荒川ノ間、豊多摩郡及ビ住原郡等デ高燥ナル沃野
 デアル此地ハ平坦肥沃ノミデオク大都會ニ接近シテ居ル土地デアラカラ林トスルヨリハ畑トシテ農業產
 物ヲ作り出ス方ガ其收益多キヤウナレドモ現今猶森林ヲ仕立テル方ガ收益ハ農産物ニ優ツテ居ル、尤モ
 此地方デ杉林ノ栽培保護ヲスルノハ普通杉林ノ方法ト異ツテ屢次枝打ヲスルト聞伐ヲスルノガ少イメト
 伐木ノ年限ガ短イノトハ四ツ谷丸太ヲ作り出ス一種ノ方法デアラ、即チ一町歩ニ六千本乃至八千八百本
 ヲ植付ケテ後十年乃至十二年目カラ凡ソ五年目毎ニ間伐ヲ行ツテ第七回目ノ四十年目ニ至ツテ止ムノデ
 アル、當初一町歩ニ八千八百本ヲ植エタモノヲ一回ノ間伐ニ五百本宛伐ツテ第七回目マデニ二千五百本
 ヲ伐ルモ四十年目ニハ尙五千三百本ノ樹ヲ殘存シテ居ル譯デアラ

時鳥啼くや湖畔の杉木立

老鶯や氷室を開く杉の奥

老鶯の啼くや大杉の山の雨

格 巨 雷 無 爲 坊

京都ノ北山丸太ハ山城國葛野郡及ビ丹波國桑田郡カラ作り出ス杉丸太デ此杉林ハ挿條法ニ依ツテ成立ス
 ルモノデ第二回目ニハ本幹ノ地上二尺乃至五尺ノ所カラ伐採シ其臺株ニ殘ツタ枝ヲ生長セシメテ新林ノ
 形作ルノデ此法ハ俗ニ臺杉、檜杉、萌杉ト稱シテ萌芽造林法ト云フデアラ、而シテ伐材ノ度數ヲ重ス
 ルニ從ツテ臺株ハ大キクナリ又萌芽ノ數モ多クナツテ一株カラ七八本ノ丸太ヲ得ルコトモアル、斯ウ云
 フ風デ出來タ丸太ハ生長ハ甚ダ遅イデアラクレドモ年輪ハ密ニナツテ上等ノ磨キ丸太トナルノデア
 ル

日は峰に夕立つ杉の木間哉

花桐や杉山裾の一ま林

鳴 雪 碧 童

十一、杉ノ混交林

杉ハ天然林ニ於テハ潤葉樹ト詳生シテ混交シ人工デハ扁柏、花柏ト混交シテ良林ヲナスノデアラガ、天

然ニハ陰樹ト混交林ヲスルコトガ出來ヌ、是ハ杉ノ性質ガ陽樹ナノデアラカラ密ナル陰樹ノ枝ノ下ニハ
 生育スルコトガ出來ヌノデアラ、故ニ木會ノ森林ハ其杉ニ適スル郷土デ以テ人工杉林ハ成立セルモ天然
 ニハ一ツモ杉林ヲ見ルコト出來ヌノデアラ、三河ノ北設樂郡地方デハ杉ヲ擇ンデ伐リ其内ハ杉苗ヲ植付
 ケルノヲ見ルコトガアルガ其生長ハ良好デナイ、彼ノ臺灣ニ生ズル杉ノ如キモ陰樹ナル花柏トノミ混交
 スルコトナク必ズ其間ニハ潤葉樹ヲ混ジテ居ルト云フ、紀伊大和地方ニテハ植樹又ハ挿條ニ依テ杉ト扁
 柏ノ混交林ヲ造ツテキル、而シテ此混交林ハ最初ハ杉ハ生長ガ扁柏ヨリモ速カデアラカラ扁柏ハ杉ニ保
 護セラレ朽ハ又扁柏ノ爲ニ鬱閉ヲ保タレルノデ能ク地方ヲ維持シテ無節ノ良材ガ出來ル凡ソ杉ハ純林ト
 シテ五六十一年以上ニナルト其林相ハ疎ニナリテ有節ノ不良材ヲ生ズルニ至リ一方ニハ林下ニ雜草ヲ生ジ
 テ地方ヲ害スルモノデアラガ扁柏ト混交シテ植ユル時ハ此ノ憂ヒハナイノデアラ

木の音を底に聞かず茂りかな

思 情 西 行

きかずとも此所をせにせん郭公山田が原の杉のむら立

十二、杉林ノ手入

杉ハ陽樹デアアルカラ自然疎ナル掩ヲ以テ生長スルガ故ニ亦下草ヲ生ズルコトモ多イ而シテ此下草ハ太陽
 ノ光線ヲ遮リ空氣ノ流通ヲ悪クシ又土地ノ養分ヲモ奪ヒ去ルカラ水分ノ量ニ變異ヲ來タシテ地温ヲ低ク
 シ土地ノ分解ヲモ悪クシ苗木ノ成長ヲ害スルカラ之ヲ刈リ拂ハネバナラヌ、夫デ植付後ノ三年間ハ年々
 二度ヅ、下草ヲ刈リ其後七年目マデハ年ニ一回宛刈ルノデアラ、是ハ言フマデモナク苗木ノ成長ニ從ツ
 テ下草ノ生ズルコトガ少ナクナリ且苗木ノ方ガ草ヨリ長クナルカラ其害モ尠クナルノデアラ、又吉野ノ
 森林デハ植付後八九年目カラ二十三年目頃マデハ生枝古枝ノ別ナク樹木ノ優劣ニ應ジテ下枝ヲ伐リ取
 ルヲ常トシテ居ル、杉ヲ伐リ取ルハ鉈デ枝ノ下ノ方カラ一鉈打チ付テ置イテ上カラ落スノデアラガ學理
 上デハ枝卸ノ目的ニ二ツアル

(一) 風通リノ悪イ時ニ小枝ヲ伐採ス
(二) 樹幹ヲ延長セシムル爲ニ伐採ス
併シナガラ枝卸ハ多少トモ樹木ノ生長ヲ害スルノデアアルカラ成ベク之ヲ切取ラヌガ宜イノデアアルケレドモ枝葉ノ密叢スル時ハ止ムヲ得ヌコトデアアルカラ當業者ハ十分ニ注意セネバナラヌ

そむき見れば木葉曇の林哉
林中に漲る水やかせかほる
夏草や最う一度刈らば虫の聲
白 雄
蝶 衣
也 有

十三、杉林ノ保護

鹿トイフ奴ハ其角ノ生エル際ニハ大低軟弱ナル若樹ニ集マリ來ツテ頭ヲ觸レルノデアアルカラ其幹ヲ害スルコトモ甚ダシイ、併シ十年以上ヲ經タモノハ餘リ害ヲ受ケルコトモナイ、夫デ吉野地方デハ鹿ノ害ヲ防グガ爲ニ山地ニ植付タ翌年ニ扁柏ノ皮ノ粗マカナ所ヲ切去ツテ四十五日間モ水ニ浸シテ置イテ更ニ日光ニ晒ラシ長サノ三四尺程ニ切斷シタノヲ以テ幹ノ根際カラ卷附テ居ル歐羅巴デハ鹿ノ害ヲ防グ爲ニ柵ヲ造ツテ幼林ヲ圍セ所々ニ林ノ中カラ梯子ノヤウナ昇リ段ヲ造ツテ柵ノ内ニ這入ツタモノハ自由ニ逃レテ出ルコトガ出來ヌヤウニナツテ居ルト云フコトダ

鹿出で、木々の皮食む深雪哉
師 子

夫カラ兎ト云フ奴ハ新芽ヲ嚙ミ切タリ又幼イ幹ヲ喰切ルコトガアル、此害ヲ防グニハ各苗木ニ人間ノ髪ノ毛ヲ卷付ルカ或ハ亦髪ノ毛ヲ燻ベタモノヲ撒布シテ置イテ其臭氣デ防グノヲ常トシテ居ル、又牛馬ノ爪ヤ其他動物質ノモノヲ燒テソレヲ撒布シテ置テモ宜イ「タール」ヲ苗木ニ塗り付テ置テモ効ガアルト云フコトダ夫カラ杉林ニハ最モ恐ル、モノハ山火事ダ、殊ニ二三十年生ニ至ルマデハ格別此害ニ罹リ易イ、故ニ若シ造林地ガ原野ニ接シテ居ル時ハ五間乃至十間幅ノ防火線ヲ設ケテ秋期ニ必ズ雜草ヲ刈取ツテ燃燒物ヲ除クヤウニスルノデアアル、亦場所ニ依ツテハ防火線ニ常綠ノ潤葉樹カ又ハ銀杏樹ヲ植付ケ

テ防火用トスルガ宜イ

十四、杉ノ並樹

林ヲ並樹トシテ植付ケテ現今美麗ヲ呈シテ居ルノハ下野宇都宮及ビ同鹿沼カラ日光ニ往ク街道デアアル、此ノ並樹ハ日光廟ノ造營ノ時ニ普請奉行デアツタ三河吉田(今ノ豊橋)藩主松平正綱ガ獻植ヲシタモノデ日光廟ノ壯麗ナノト杉ノ並樹ト相埃テ一層宏壯美ヲ發揚シテ居ル獨逸人ノ「マイヤー」氏ハ「杉ノ郷土ヲ記載セントセバ二百年生ノ鬱蒼タル杉木立ノ影ニ日本將軍家康公ノ靈廟アルコトヲ忘ル可カラズ」ト言テ居ル以テ日光廟ヲ杉ガ如何ニ美クシウ裝飾シテ居ルカラ知ルコトガ出來ル

家康の魂ひや、かに杉木立
子 規

其他杉ノ並樹トシテ見ルベキモノハ肥後ノ新町ヨリ熊本ニ至ルノ街道及ビ長門ノ長府カラ下關ニ至ルノ街道ニモ往々杉並樹ノ存セラレテアルノヲ見ルノデアアル夫デ以テ杉ノ並樹トシテ價値アルコトハ言フマデモナイコトデアアル

十五、杉ノ水源涵養

杉ハ土地ノ濕氣ト空氣中ノ濕氣トヲ要スルノデアアルカラ其他ノ水分ノ多少ニ依ツテ頗ル其成長ニ異ヒガアル、又濕氣ヲ有スルノ地ニアツテハ必ズシモ植土ノ厚イノヲ要シナイガ乾燥セル土地デハ其深サモ厚サモ膨鬆デナケレバナラヌ、而シテ朽土ノ厚イノハ水分ヲ含有スル量モ多イカラ自然貯水池ノ効ヲモナスノデアアル

川澄むや落葉の上の水五寸
絶壁の巖をしほる清水哉
目洗へは眼明かに清水哉
太 紙
子 規
虚 子

現ニ愛知縣デ盛ニ經營シツ、アル水源地治水事業即チ砂防工事ノ如キハ水源涵養ノ前提ニシテ其經營方針ハ先ヅ相當ノ施設ヲシテ土砂ヲ扞止シ更ニ樹木ヲ植付クベク面積ヲ擴メテ、而シテ禿山ノ生育ニ最

モ堪へ得ル處ノ樹種、松、赤楊、山橙、ヤシヤ、合歡、アカシア、萩等ヲ植付テ土砂ヲ扞止スルト共ニ其地ヲ養ヒ第二期ニ至ツテハ純然タル水源涵養ニ適スル處ノ樹種即チ杉、扁柏等ヲ植付ルノデアル故ニ杉ハ昔ニ森林樹木トシテ第一位ヲ占ムルノミデナク治水上ニハ亦必要ノ樹木ト言ハネバナラヌ本年ノ御歌會始ニ「社頭杉」ナル御題ヲ降シ賜ヒシニ就テハ余輩林業ニ從事スル者ハ此際一層ニ奮勵努力シテ以テ杉樹ノ蕃殖ヲ計ラヌバナラヌ、殊ニ本年ノ秋季ニハ御即位ノ大典ヲモ御舉行アラセラル、ノデアルカラ我臣民タルモノハ奮ツテ此ノ國體ニ關係深キ杉ノ植栽ヲ以テ千載一遇ノ御大典記念トナスコトヲ忘レテハナラヌ、依テ茲ニ新年ノ所感トシテ杉ノ説明ヲシタノデアル (大正三年一月)

齋田と杉樹

愛知縣技師 三 溝 謹 平

允文允武ナル

今上陛下ハ今秋吉日ヲトシ萬世一系ノ皇位ヲ繼承セラレタルコトヲ皇祖皇宗ニ告ケ竝ニ一般臣民ニ知ラシメ給フ御即位ノ大禮ヲ行ハセラレ古例ニ由リ亦大嘗祭ヲ行ハセ給フ恭シク惟ミルニ大嘗祭トハ 天皇位ニ即カセラレタル後初メテ親ヲ新穀ヲ以テ天祖及天神地祇ヲ請饗セラレ且ツ自ラモ開シ食ス所ノ大祀ニシテ即位ノ禮ト同シク御一代ニ唯一度行ハセラル、ノ大典ナリ本居宜長翁ノ説ニ書紀ニハ新嘗トアル續紀ニハ大新嘗トアリ同ジコトニシテ何レモ當富爾閉ト訓スベシ爾閉ハ新嘗ヲ約シタルニテ新稻ヲ以テ饗スルヲ云名ナリトゾ古ハ大嘗或ハ新嘗トモイヒテ其區別ナカリト後世大嘗ハ御一代一度ノ大祀ト稱シ年々新稻ヲ供ヘテ神祇ヲ祭ラル、ヲ新嘗ト稱スルニ至レリ諸祭祀中大祀ト稱スルハ此祭ニ限リ其準備ノ鄭重ニシテ儀式ヲ盛大ナルコト其比ヲ見ザルヲ以テナリ云々故ニ

大嘗祭ハ古來特ニ大嘗宮即チ悠紀主基ノ御殿ヲ建設シテ行ハセラル、ヲ例トス本殿ハ黒木ノ鳥居小柴垣ニテ建設セラレ實ニ質素ヲ守リ給フ大御心ニテ恐レ多キコトニコソ而シテ悠紀殿ニ於テハ夕ノ儀ヲ行ハセラレ主基殿ニ於テハ曉ノ儀ヲ行ハセラレ古ハハ辰ノ日ヲ悠紀ノ節會己ノ日ヲ主基ノ節會ト申セシ由即チ大嘗祭ヲ行ハセラル、ニハ先ツ神饌供用ノ新穀ヲ奉納スル悠紀主基ノ兩齋國ヲト定メ登極令第八條ニ「大嘗祭ノ齋田ハ京都以東以南ヲ悠紀ノ地方トシ京都以西以北ヲ主基ノ地方トシテ其地方ハ之レヲ勅定ス古例ニ依レバ勅定後八月下旬ニ至レハ悠紀主基ノ菑穂使ヲト定シテ兩齋國ニ派シ所定ノ神田ニ就キテ當國司ト共ニ薦亨酒禮ノ料ニ稻穂ヲ採採セシム

悠紀ハ齋忘(此云臨既)主基ハ次(云須岐)昔紀ノ私記ニ師説次(齋忘)也ト云ヘルヨリ今ニ至ルマデ人皆此意トノミ心得タリ是レ天武紀ニ齋忘此云臨既一次此云須岐トアルニヨルナレド誤ナリ主基ハ禊ノ會岐ト同音ニシテ潔ト云フコトナリ「ミソキ」ト身潔ニテ「ソ、グ」ト同ジキヲ共ニ約メテ會岐トモ須岐トモ云ヘルモノニシテ悠紀ト同シク潔キ清メタル意ナリト云ヘリ是神聖ナル祭事ニ供スル新穀ヲ奉ル地方ナレハ孰レモ潔齋ノ意ヲ表スルニ外ナラス即チ悠紀主基ハ共ニ潔齋ノ義ニシテ通シテ之レヲ兩悠國ト稱セリ我愛知縣ハ今回悠紀ノ地方ニ勅定アラセラレ既ニ知事ハ登極令ノ示ス處ニヨリ悠紀田ヲ點定セラレタレバ當事者ハ勿論縣民ハ舉テ潔齋ノ意ヲ表シ奉仕セラルベカラズ

一、悠紀主基ノ語源

抑モ大嘗祭ノ悠紀主基トハ忌區志清區志ニテ專ラ酒ニヨレル名付ナルベシ酒ハ前漢書食貨志ノ酒百藥長ト云ヒ大倭詞ニ藥ヲ久須里ト唱フ藥即是酒々即是藥ナリ荒木由久老翁ノ酒ノ古名考ニ云フ藥ト云フ稱ハモト奇シキ意其体ニテ「タスリ」トハ云フナルベシ藥ハ上古ハ專ラ酒ヲ稱セシナラム古事記應神ノ大御歌ニ須々許理賀迦美斯美岐通和禮惠比邇祗理許登那具志惠具志爾和禮惠比邇祗理 此ノ許登那具志惠具志ハ言和藥笑藥ト云フ言ニテ即チ須々許理ガ醸シ酒ト云フナリ又出雲ノ國造ガ神壽詞ニ大穴持命乃申給久皇御孫命乃靜坐牟大倭國登申天已命乃和魂乎(此和魂ハ即幸魂奇魂ナリ即チ大名持ノ

神ノ御魂ノ徳用ヲ稱テ申奉ル事ハ八咫鏡爾取託天倭大物主櫛瓊玉命登名乎稱天大御和乃神奈備爾坐天云々ト見ヘタルコノ大物ト云ヘルハ御物ニシテ食物ヲ云フ古語瓊櫛玉ハ酒瓊手向ニテ(久志ハ酒ノ古名瓊ハ酒ヲ釀セル器ナリ)即チ食ト酒トヲ云フ稱、手向ハ天皇ニ奉リ給フト云フ意ナリ再言スレハ區須利ハモト酒ノ名其區須利ヲ約メテ區志ト云ヒ又區志ヲ約メテ紀ト云ヒ(紀ハ國ナリト云フ説アレトモ之レハ誤リナルベシ)其紀ヲ轉シテハ加トモ祁トモ云ヘリ延喜大嘗祭式ニ黒酒白酒トアルハ黒紀白紀ト讀ムベク其紀ハ區志ノ約紀也

萬葉ノ歌ノ中ニモ白酒讀テ「シロキ」ト云ヒ黒酒讀テ「クロキ」ト云フ以テ紀ハ區志ノ約酒ノ古名ナルコトヲ明ニシ得ベシ去レバ大嘗祭ノ悠紀ハ忌酒即黒紀ニテ精交リナルベク主基ハ清酒即チ白紀ニテ清クスマセタルヲ云フナルベシ貞大雜記ニ禁裏ニテ御代替リノ初メニ大嘗會ト云フ御神事アリ其時ニ神ニ黒紀白紀トテ二品ノ神酒ヲ奉リ給フトアレバ悠紀主基ハ神前ニ供スル酒ニ起因スルモノナルコト是レ又明カナリトス殊ニ崇神紀九月神嘗祭ノ祝詞ニ由貴ノ御酒トアルヲ以テ由貴ハ忌清マハリテ造レル酒ナルヲ知ルベク中臣壽詞ニ「悠紀主基乃黒木白木乃御酒遠大倭根子天皇我天都御膳止汁仁毛實仁毛赤丹乃穗仁所聞且豐明御坐豆」云々トアリ故ニ悠紀主基ノ兩齋國ハ神祇ニ供スル神酒ヲ釀スル新穀ヲ潔齋シテ耕作供納スル國ナルコトヲ知ルヲ得

二、造酒ノ起源

本邦釀酒事蹟最モ古ク素盞鳴尊ニ始マレルガ如シト雖今此釀造ノ法ヲ知ル能ハス神代下紀一書ニ云木華開耶姬以ニト定田一號曰狹名田以ニ其田稻一釀ニ天甜酒一嘗之ト是レハ米ヲ以テ釀造セシ始メナラン楮酒ハ專ラ大名持神少彥名神造リ始メ給ヒシヨリ二柱ノ神ヲ藥ノ神ト申奉ル崇神天皇八年紀ニ云フ夏四月庚子朔乙卯以ニ高橋邑人活日爲ニ大神之掌酒冬十二月丙申朔乙卯天皇以ニ大田田根子令祭火神是日活日自舉神酒獻天皇仍歌之曰「許能瀨積破和餓瀨積那羅備那磨等即殊於明望農之能介瀨之瀨積伊句臂佐如此歌之宴ニ于神宮即宴竟之諸大夫等歌之曰宇磨佐開瀨和能等能阿佐姪珥毛伊弟低由介那瀨和能等能渡嶋於茲 天皇歌之曰 宇磨佐階瀨和能等能阿佐姪珥毛於辭寐羅備瀨和能等能渡嶋即開ニ神宮門ニ而幸行之ト當時人造ノ酒ナレドモ祝シテ大物主ノ神釀ナル由ニ稱ヘタリ是ヨリ酒ヲ瀨輪ト云フ是コノ神ノ鎮リマス山ノ名ヲ「ニモロ」トモ「ミワ」トモ云フ「ミモロ」ハ未釀酒ノ名「ミ」ハ酒ノ實ヲ云ヒ「モロ」ハ諸共ノモロニテ交ノ意精交ノ酒ナリ尾張ノ國ニテハ酒ノ粕ヲ酒ノ實ト云フ和名抄ニ釀汁瀨ノ酒ナリトアルト同意「ミモロ」ハ今ノ醱釀ノ類ナリ「ミワ」ハ實涌ニテ涌トハ酒ノ熟スルヲ云フ今按スルニ醱ハ清酒ヨリモ其製古シ故ニ神祭ニハ必ズ之レヲ用フ拾介抄ニ載セタル宮嘗祭ノ祝詞ニ清酒ノ早ニ堅酒ノ堅ナトアル堅酒ハ即醱ナリ三輪モ三諸モ元來奇瓊玉命ノ鎮リマス山ニテ酒ヲモテ名ニオハセルヤ明カナリトス工藝志料云大物主神(一名大名持神)自己ノ奇魂ヲ大和ノ東山ニ祀リ爲メニ神社ヲ起ツ是ヲ美毛呂ト云フ東山ハ即チ三輪山ナリ其神社ノ形狀詳カナラスト云ヘトモ按スルニ杉樹ヲ植エテ神籬トナセシモノナルベシ萬葉集ニ味酒乎三輪之祝我忌杉云々又三弊取神之祝我鎮齋杉原云々、此等ノ忌杉ト杉原ト三輪山ノ比母呂岐ヲ指セルナリト云フ其ハ上古ハ出雲伊勢ナドヲ除キテハ宮殿ハナクシテ三輪山杯ノ如ク生ヒ茂レル森ノ即チ神ノ御社ナリツレハナリ然ラハ杉樹ハ即チ大物主神ノ神靈ノ憑鎮リ坐ル森ノ樹立ナリ故ニ今モ酒ヲ賣ル家ノ軒端ニ杉ノ葉ヲ丸ク把ネ吊シテ其商標トナスモ此緣由ナリト云フ杉ハ實ニ神靈ノ留リ給ヘル生諸木即チ神木ナリ加之和漢三才圖繪ニ云望子多東杉葉爲之葉形如鼓丸酒性喜杉用杉材作酒樽投杉柿於酒中之類亦然也云々又瓦礫雜考ニ杉ノ葉ヲ酒ニヒタスコトアリ又木香ト云ヒテヨキ杉ノ木ノ根ヲ削リタルヲ酒ノ中ニ入ル、コトアリ又酒ニ用ユル器物皆杉ニテ造ル云々トアリ杉ト酒其關係尠カラヌ去レバ悠紀主基亦杉ト離ルベカラザル緣由アリト云フベシ

三、杉樹ノ來歴

杉ハ日本固有ノ樹木ニシテ歐洲ノ森林ニ於テハ全ク其跡ヲ絶ツ日本書紀ニ素盞鳴尊曰、韓郷ノ島、是有金銀、若使吾兒所御之國、不有浮寶者未是佳也、乃拔鬚髯、之即成杉云々杉及櫟樟此兩樹可以浮寶云々、以テ杉ノ本邦特有ノ樹木ニシテ國運ノ發展ニ資スル所大ナルヲ知ルベシ

抑モ杉トハ其幹長クシテ直ナルガ故ニ此名アリト云フ説アレ共感ハ悠紀主基ニ縁由アルヲ以テ其神聖潔齋ノ意ニ依リ「須岐乃岐」ト命名セラレタルモノニアラザルカ、杉ハ真直ニシテ其枝葉モ亦規則正シク真直ニシテ其色ハ濃緑ニシテ黒ニ傾キ鞏口強剛ヲ表示セリ即チ森林美ヨリ論スルトキハ全部直線のニシテ宏壯美ノ要素ヲ含ム故ニ之レヲ殿堂ニ配スルトキハ宏壯ニシテ崇嚴ヲ極メ自然ニ崇高ノ心ヲ起サシメテ一層ノ信念ヲ増シム神社ニ杉、這ハ我國体ヨリ論スルモ亦其美觀ヨリ論スルモ離ルベカラザルモノニシテ森々トシテ莊嚴幽邃畫猶暗キ杉ノ木立ニヨリ神社ハ一層崇高ノ趣ヲ増シ神秘的作用ハ常ニ靜謐容ノ平和的表徴ヲ與フ故ニ神社境内ニハ可成杉ヲ植栽ス可ク又手ヲ盡シテコレガ保存法ヲ講セザルベカラズ殊ニ杉ハ既ニ述ブルガ如ク我國ニ於ケル遠ク神代ヨリ其樹名ニ著シキモノアリテ國体トノ縁由淺カラズ之レヲ消極的ニ云フモ尙且人ヲシテ崇高ノ念ヲ發揮セシメ祖先ノ遺德ヲ追慕セシムルト共ニ益々皇室ニ對スル欽仰ノ念ヲ深カラシムル性質ヲ有シ之レヲ積極的ニ解スルトキハ其樹ノ効用極メテ多ク植栽ノ利益ハ以テ家産ヲ増殖シ國富ヲ増加スルニ足ルコト蓋シ他樹ノ及バサルコト遠シ此理由ニヨリ悠紀地方勅定ノ榮華ヲ擔ヘル我愛知縣民ハ此縁由淺カラサル杉ノ樹ヲ神社佛閣ハ云クニ及バス庭園ニ山林ニ植ヘテ守リテ天日ト共ニ長ヘニ子孫ヲシテ其惠ニ浴セシムベシ是レ實ニ好箇ノ記念ト信ジテ茲ニ悠紀田ト杉樹ノ關係ヲ記述シテ勸誘スル所以ナリ着者諒焉。

御大典記念事業ニ就テ

三 溝 謹 平

今秋ノ御大典ノ朝野一致、萬民等シク慶賀スベキ事勿論ナレト特ニ我愛知縣下ハ今回悠紀田タルノ至幸ヲ擔ヒ猶京都御行幸ニ際シ當市ニ御駐蹕アラサラル此際御大典ヲ永遠ニ記念スベキ事業ヲ計畫遂行スルハ本縣民ノ將ニ務ムベキ處ニシテ又此ノ光榮ヲ有形的ニ子孫ニ遺ス責任ヲ有スルノテアル

倍記念事業トシテ如何ナル事ヲナスヘキカ其選擇最モ緊要ナル事テアル既ニ記念事業トシテ各方面ニ於テ種々適當ノ計畫モアルデアラウガ我々ハ林業止ノ企圖ガ之レニ恰適シテキルヤウニ思フソレハ左ノ点カラ云フソデアル

- 一、生産事業ナル事
- 二、事業ノ變更困難ナル事
- 三、植栽後數年ヲ經ハ經費ヲ要セサル事
- 四、少額ノ經費ヲ投シテ將來ノ收利多ナル事
- 五、細民ニ職ヲ與フル事
- 六、衛生水利等公益ノ意義ニ富ム事
- 七、作業平易ニシテ何人モ實行スルヲ得ル事
- 八、美觀ヲ有スル事

記念事業ハ永遠ノ性質ヲ帶フルモノニシテ若シ當初ニ於ケル計畫粗漏ナルトキハ決シテ完全ニ目的ヲ達シ得ルモノデナイ故ニ林業的記念事業モ當初ニ於テ充分ノ注意研究ヲナシ將來ニ違算ナカラン事ヲ期スル必要ガアル以下項ヲ改メ逐次要点ヲ述ヘヤウ

第一 記念樹ノ植栽

記念樹ヲ植栽シ之ガ適當ノ手入保護ヲ行ヒ以テ君ケ代ノ萬代不易ナル事ヲ祈ルハ適當ナル記念事業ト云ヒ得ルモノニテ其方法ノ如キハ地方ノ風土、人情ニ應シ決定スヘキモ一例ヲ舉レバ

- 一、社寺ノ境内、學校庭園ニ植栽スル事
 - 一、一ヶ村内ノ各戸何レモ同一種類ノ樹木ヲ植栽スル事
- ノ如シ其他種種々ノ方法ガアロウ今本縣下ニ成長シ記念樹トシテ適當ナルモノ數種ヲ舉クレバ
樟 我國体ト縁由ヲ有シ本邦樹種中最モ巨大ニ成長スルモノニシテ本縣下ニ於テモ熱田、蒲郡其他老樹

ニ乏シカラズ其落葉ハ樟腦ヲ製造スル事ヲ得
杉及扁柏 本邦産林木中効用最モ勝レ樹形整然トシテ幽邃ナリ且ツ我國体ト縁由アリ殊ニ杉ハ新春ノ御
題タリ記念木トシテ適當ナリト云ベシ
樺 土地深キ暖地ニ適シ宅地ノ東南境等ニ植栽スルモ適シ樹形雄大利用ノ途多ク材價貴シ
櫻 市街町村等ニ於テ之ガ植栽ヲナシ一ツノ遊園地ヲ設ケ毎春爛熳ノ候大典ヲ思ヒ出ツルノ資トナスモ
亦適當ナリ

梅 齡久シキニ耐エ樹形清雅、花モ亦美シク猶種類ニヨリテハ果實ニヨル收入ヲ得

第二並 木

市街並木ハ都市美觀上並ニ衛生上必要ニテ伯林ノ「ウンテル、テル、リンデン」街ノ如キ行道樹名ヲ以テ
市街名トシテキルナゾ雅趣アルモノデ名古屋新柳町モ此ノ美デアル春季ノ新緑夏季ノ綠蔭其他効用ヲ喋
々スルノ要ハナイテアル其具備スベキ要件ハ

- 一、風土ニ適シ大ナル苗ニテ活着ノ安全ナルモノ
- 二、傷口ノ癒合速ナルモノ
- 三、衛生上好適ニシテ惡臭刺針ヲ有セサルモノ
- 四、樹形風致ニ富ムモノ
- 五、強烈ノ香氣ヲ放タルモノ
- 六、樹葉大ニシテ一齋ニ落葉シ切込ニ耐ユルモノ
- 七、壽命ノ長キモノ

等ノ諸点ニシテ之ニ適スルモノヲ擧クレハ次ノ如クデアル

- 一、にせかちや刺針アルモ壯齡ニ至レハ下方自ラ脱シ樹葉密ニシテ樹形雅趣アリ
- 一、ふらたなす(すいかけのき)歐洲ニテハ市内内外共ニ多ク用ヒラレ葉ハ鮮色形整ヒ並木トシテ適

當ニテ苗木ハ插枝ニテ得ラレ滿三年生既ニ一間半ニ達スルモノ少クナイノテアル

- 一、公孫樹東洋特ニ日本、支那特有ノ樹種ニテ十年生二間長サ程ノ雄木ヲ使用スベシ
- 一、ちゆうりつぷ(はんでん木)苗木養成困難ナルト根元ヲ踏付ケル時ハ枯死スルノ欠点アルモ適當
ノ方法ヲ以テスルトキハ見事ナル並木ヲ得ベシ
- 一、白楊真直ニシテ枝葉繁茂シ一種ノ雅趣ヲ有ス
- 一、柳柳糸ノ嬌優ナル特ニ初春新緑ヲ装フノトキニ至リテハ云フベカラザル雅趣アリ
- 一、ごち、ほ、何レモ厚ク長情圓形ニシテ大形ノ樹葉ヲ有シ樹形モ亦可ナリ巴里市ハごちノ並木ニ
テ全市ヲ被フ四五月頃ノ巴里ハごちノ花ノ都ニ化スト云フ

- 一、梧桐、樹皮平滑ニシテ美シク其他市街並木トシテ適當ナリトス
- 一、梅、樅、歐洲等ニテモ各所ニ見ルモノニテ上品ナルモノナリト云フ

名古屋市モ笹島ヨリ千種ニ至ル榮町ヨリ熱田ニ至ル又御幸街道其他大街道ニ乏シカラス此際市街並木ノ
完成ハ絶好ノ時期ニシテ必要ナル事ハ識者ノ等シク感セラル、事ト信ズ若シ經費ノ支出困難ナル時ハ街
路沿ノ民家ヲシテ寄附セシムルハ容易ナル事ト思フ次第デアル

又市外街道ノ並木トシテ其要求ル樹種ハ殆ド市街並木ト異ナラズ只市外街道並木ハ經濟ノ意味ヲ増シ
樹形其他ノ束縛ヲ被ル事少イノデアル

街道ノ兩側ニ並列セル樹木ノ利用價ノ如キ極メテ輕微ナリト云ハンモ日光街道ノ並木ハ時價百萬圓ヲ超
ユト云フニヨレバ本縣下ヲ縦横シ恰モ道路網ヲナセル街道ニシテ總テ並木ヲ有スルニ至ラバ將來ノ利益
推シテ知ラル、ノデアアル而シ之等街道ニ並木ヲ造ラントセバ

- 公孫樹 やまならし
- ほ、のき あかまつ、くろまつ
- かへで す

ひのき まき

等ハ適當ナル樹種トス
又歐洲ニテハ果樹ヲ植付タル處アリ吾國ニ於テモ往古ハ果樹ノ並木ヲ有セシコト記録ニ明ニシテ水戸義公ノ如キ水戸太田間ニ梅樹ヲ植栽セルコトアリト云フ本縣ニ植栽スベキ果樹ハ柿、梅、栗、蜜柑、枇杷、無花果等ノ類デアル

第三 公園、遊園地、學校園ノ設置

都市ニ公園郊外ニ遊園地、學校ニ學園等ノ必要ナルコトハ都市ノ膨脹教育事業ノ進歩ト共ニ必要欠ク可カラザルモノデ是等ノ目的ヲ以テ花壇ヲ伴ヘル樹木園ヲ設計シ四季共ニ特有ノ趣ヲ與フルハ都會政策及教育上効果至大ニシテ猶公共的ノ色彩ヲ帶ヒ記念事業トシテ適當ナルモノト信ス即チ

春 櫻、梅、桃、櫻桃、躑躅、藤

夏 樟、ほぶら、ぶらたなす等の大なる潤葉樹

秋 果樹、はうちわかへて、やまもみち、ななかまど

冬 常綠樹即ち槲類、ユーカリ、樟、松、杉、扁柏、羅漢柏、金松の類

等ノ樹種ヲ適當ニ配置設計シ自然趣味ノ庭園ヲ造ルノデアル殊ニ本邦ノ公園ハ由來雅致ニ富ムモ鬱蒼タル綠陰ヲ欠クモノ多シ是レ大ナル欠點ナレバ注意ヲ要ス

第四 經濟林ノ造成

千古ノ大典ヲ祝賀スル爲メ合理的ニ經濟林ヲ造成スルハ將來ニ絶好ノ記念ヲ殘スモノデ私人ト町村トヲ問ハズ有利ナル方法ト信スルノデアル私有山林ニ適樹ヲ植栽スルハ子孫ニ其恩惠ヲ傳ヘ又郡市有林ノ經營並ニ公有林ノ整理等ハ林政上ノ大問題ヲ絶好ノ時期ニ完成シ從テ美果ヲ生スルノデアル其他森林保護施業組合ノ設立等何レモ該目的ヲ達スベキ好個ノ事項デアル
本縣ニ於テ經濟的ニ植栽シ得ベキ樹種ハ山間部ノ杉、扁柏、海岸暖地ニ於ケル樟、一般ニ地味瘠惡ナル

地方ノ松類等何レモ適當ナルベキモ此際猶左記ノ如キ特種林木ノ植栽ハ利益アル記念トシテ希望スルノデアル

一、漆、漆液ヲ採集シ得ルコト普ク知ル所ナルベシ

一、「アブラキリ」樹實ヨリ採取セル油ハ雨具製造等ニ用ヒ効用廣シ

一、楮及「ミツマタ」、何レモ製紙用ノ纖維ヲ得

一、竹林、名古屋ハ竹材ノ最モ高價ナル地方ニシテ其利用巧ニ其需要日ニ増加シツ、アルニヨリ竹林ノ造成ハ記念タルト同時ニ多大ノ收利アルベシ

一、コリヤナギ、柳行季ノ原料ナリ

一、桐、桐ハ家具箱類下駄其他需要極メテ廣ク高價ナリ生長速ニシテ暖地ニ適ス本縣ニ於テ己ニ獎シツ、アリ

第五 堤塘及荒廢地ノ整理

水利ニ關係セザル堤塘斜面ニ楮、コリヤナギ、ミツマタ、桑、漆等ヲ植栽スルモ有利ナルコトニ屬ス然レドモ其作業ハ充分ノ注意ヲ加フル必要アリ土地ノ生産力ヲ完全ニ利用スル能ハズシテ放置シタル荒廢地ト稱シ本縣下全部ニ渡リテハ多大ノ面積ヲ算スルノデアル

無立木地並ニ荒廢地ノ造林或ハ開墾ヲナシ荒廢地ヲ整理シ以テ御大典ヲ記念シ御聖恩ヲ荒蕪地ニマデ及ホスモ亦徒ラデハナイト信ズル次第デアル茲ニ縣下百萬餘人ノ人々ニ一日モ早ク此ノ容易ナル記念事業ニ着手セラレン事ヲ勸誘スル次第デアル

木曾流ノ伐木運材ニ就テ

林學士 磯山 廣居

前日來諸君ノ有益ナル御演說ヲ拜聽致シマシテ私モ何カ林業上ニ就キテ御參考ニナル事ヲ申上ゲタイト
 イフ考ヘデゴザイマススケレトモ極經驗ニ乏シイ方デゴザイマスルシ加フルニ淺學デ迎モ及バナイ話デゴ
 ザイマスカラ寧ロ學者及經驗アル實業家諸君ノ御集リヲ幸ヒニ後口ニ掲ケタ木曾流ノ伐木運材トイフ事
 ニ就キマシテ目下ノ狀況ヲ御話致シ將來ニ對スル措置上ニツイテ諸君ノ御思考ヲ乞ヒタイトイフ考ヘテ
 此演壇ニ上ホリマシタ次第デゴザイマスカラドウゾ其御積リデ暫時御聽取リアラシコトヲ希望イタシマ
 ス

デ現今專ラ行ハレツ、アリマスル所謂木曾流ノ伐木運材ノ方法組織ト云フモノハ何レノ時代カラ創始セ
 ラレタ者デアリマセウカ今日詳クハ之ヲ探究スル要ハゴザリマセスケレトモ兎ニ角徳川氏ノ覇府ヲ開キ
 マシタト同時ニ木曾谷全體ノ森林ヲ擧ゲテ尾州藩ニ於テ所領セラレ爾來續イテ此方法ニヨリテ行ハレツ
 、アツタト事フ處カラ推考ヲ下シマスルト少クトモ三百年以前ニ制定セラレタモノデアルトイフ事ハ疑
 ヲ容レヌノデゴザイマス此伐木運材ノ方法ニツイテ委シイ事ヲ申上ケルトイフ事ハ迎テモ短時間ニ
 盡サレルモノデゴザイマセシ御來會ノ諸君ニオキマシテモ既ニ御承知ノ事ト考ヘマスルシ殊ニ自分モ
 此方法ニツイテ委シイ説明ヲイタサウトイフ主旨デモゴザイマセスカラシテ總テ夫レハ省畧イタシマス
 ルガ茲ニ御注意ヲ乞ヒテ置キマスルハ既往ニ置キマシテ此方法ガ如何ニ重要視セラレタ法デアルカトイ
 フコトデアリマス今ヤ諸工業ノ著シク進歩イタシマシタ時世デ器械其他ノ應用ガ甚タ盛デアルニモ拘ラ
 ス林業ニオキマシテハ今日尙此方法ヲ費用シ居ルトイフ有様カラ考ヘマシテモ既往ニオキマシテハ如何
 ニ重要視セラレタカトイフ事ハ想像スルニ難カラシ次第今日木曾森林ガ日本ノ三大美林トシテ天下ニ

賞讃セラレツ、アリマスノモ素ヨリ林其物が美良テアル處ニ基ツイテ居マスニハ相違ゴザイマセスケレ
 ドモ殊ニ此伐木運材方法ノ與カツタ力アルトイフ事モ最モ多イ事ト私ハ考ヘマス萬一木曾ノ森林ニイタシ
 マシテ此運材伐木ノ方法ヲ欠イタトイタシマセウカ如何ニ廣漠タル面積ヲ占メ如何ニ美大ナル檜樅等ノ
 大樹ガ繁茂シテ居リマシテモ之ヲ伐採シ之ヲ造伐シ而シテ木曾川ヲ利用シテ之ヲ運伐スル處ノ方法ヲ知
 ラナカツタナラバ今日マデ美大ノ森林モ徒ラニ死藏セラレ其林木モ空シク腐朽スルニ委セラレテ毫モ世
 ヲ利スル事ナク從テ今日賞讃サレタルヤウナ價值ヲ與ヘラレナカツタニ相違ナイノデ木曾森林ノ今日
 アルトイフノモ偶然テナイト考ヘマス

此ノ如ク既往ニトリマシテハ誠一ノ方法テアツタニ相違ゴザイマセヌガ將來此方法ヲ其儘ニ費用シ
 テ行カル、ヤ否トイフ点ニ就テハ大ニ攻究ス可キ事ト考ヘル自分モ數年來御料局名古屋支廳ニ職ヲ奉ジ
 マシテ毎年木曾飛驒地方ニ於テ三ヶ所ゾ、此方法ニヨリマシテ伐木事業ヲ執行シツ、アリマスガ其間ニ
 多少經驗シタ處カラ考ヘマスルニ將來ハ無論ノ話シ現在ニオキマシテモ既ニ色々ノ差間、ノ生ジテ不都
 合ノ点カ多イノデアリマス今試ミニ其欠点ト思ヒマスカド、一ヲ申上ケテ見マスレバ隨分澤山ゴザイマ
 スガ時間ノ都合モゴザイマスカラ其内テ甚タ欠点ト考ヘマスル廉々極ク簡單ニ申上ケテ大体ノ局ヲ結
 フ考ヘデゴザイマス第一番ノ欠点ト考ヘマスルハ現在ノ伐木及運材ノ方法ハ勞力ヲ要スル事實ニ夥シ
 イノデ將來ニ於テハ此勞力ノ供給ニ大ナル不足ヲ告ケルデアラウト云フ点デアリマス

一度木曾谷ヲ御通過ニナリマシタ諸君ハ御承知ノ通り該地方ノ地形ハ恰度藥研形ノ形ヲ致シテ居ル土地
 テゴザイマシテ其底ニ當ル處ニ木曾川カ貫流シ此木曾川ニ沿ヒマシテ所謂中仙道ナル街道カ通ジテ居ル
 ノデゴザイマス此街道モ元來ガ峻峻ナ土地柄デゴザイマスカラ隨分凹凸起伏甚タシク維新前ニ在ツテハ
 駄馬ノ通行サイ出來得ナカツタ場所モ少クナカツタソウデス殊ニ此木曾谷カラ他ノ地方ヘ出ヤウト致シ
 テモ又他ノ地方カラ木曾谷ヘ入込マント欲シマシテモ何レノ方面カラシテモ一度ハ是非大キナ峠ヲ越ヘ
 ナケレバ出這入リスル事ガ出來ナイト云フ様ナ極交通不便ナ土地デゴザイマシテ從來ハ萬般ノ業務ガ一

向ニ發達イタシマセヌカラシテ此地方ニ生活ヲ營ムテ居ル人民ノ大半ト云フモノハ年中伐木若シクハ運材事業ニ従事スルノ外ハ他ニ生活ヲ營ム途ガナカツタノゴサイマス斯ウイフ時代ニアリマシテハ勞働夫ノ供給モ實ニ潤澤トゴサイマシテ業務ニ堪能ナル人夫ヲ撰擇シテ必要丈ノ人員ヲ充實サスルコトモ眞ニ容易デアツタノデス處カ維新後ニナリマシテカラ追々ト道路ノ改修ガ出來テ參リマシテサシモニ輸路トシテ世間ニ知レ渡ツテ居リマスル馬籠鳥居トイフ二ツノ峠モ新道開鑿ノ結果トイタシマシテ二ツナカラ取り去ラレテシマイマシタ其外段々ト修理カ行届キマシテ今日デハ殆ント改修シ終タト云フテ好イ有様テ從來ハ極輕イ荷物モ馬ノ脊デ運搬スル事サヘ容易デナカツタモノガ今日デハ最早車馬ノ通行ニ一向ニ差問ヘナイト云フ様ナ場合殊ニ今日デハ中止ノスガタニナツテ居リマスルガ御承知ノ甲州ノ八王寺ト尾州ノ名古屋ヲ連絡スベキ所謂中央鐵道モ近キ將來ヲ期シテ完成スル事ヲ思ヒマスレバ從來交通不便ヲ以テ嘆セラレテ居ツタ處ノ木曾谷全体モ全ク舊時ノ觀ヲ止メサルニ至ルノハ近ク數年ノ後デアラウト考ヘマスデ此ノ如ク交通機關ノ段々ト發達スルニ伴ヒマシテ人ヲ要スル處ノ事業カ勃興シテ參リマスノハ無論勢ノ然ラシムル處デゴサイマス殊ニ該地方ハ從來カラ豫テ養蠶事業ニハ多少經驗ガゴサイマスルノテ昨今ハ非常ニ進歩ヲ致シマシテ近キ長野縣ノ統計ニ依テ見マシテモ繭ノ産額ガ昨今デハ年々二百萬石ノ多キニナシトシ尙益々増加スル傾キニナツテ居ル且六七年前カラ繭ノ儘デ他ノ地方ヘ輸出スル事ハ甚タ不利益デアルトイフ事ヲ感シマシタ結果既ニ今日デハ木曾谷ノ内デ三十箇所以上ノ製糸場ガ出來尙其外ニ自宅製糸ヲ營ンデ居リマスル家モ甚ダ少クナイ從テ是等ノ仕事ニ従事スル勞働夫ノ數モ段々ト増加シテマキリマシタ時勢己ニ斯ノ如クデアリマスカラ從來唯一ノ仕事トシテ歡迎セラレテ居ツタ森林ノ伐木運材事業モ今日デハ最早努力ノ多キ割合ニ報酬ガ少ナイトイフ譯デ追々ニ嫌ハレテ參リマシテ何ウカ他ニ相應ノ仕事ガアラバ運材伐木ノ仕事ヲ止メテ其方ニ變リタイトイフ様ナ感念ヲ懷ク者ガ多クナリマシテ森林事業ニ従事スベキ人夫ノ供給ニハ追々ト不足ヲ告ケル事ニ成テマイリマシタ回顧スレハ明治七八年戰役後一時諸工業ノ非常ニ勃興スルニ伴ヒマシテ我森林ノ仕事モ頓ニ活氣ヲ帶ヒ駿遠地方ヲ始

トシテ各處盛ニ伐木事業ノ起ツタ事ガゴサイマス當時夫等ノ事業ニ従事シテ居ル人夫ノ出所ヲ尋ネタノニ過半否殆ト全部木曾谷若クハ飛驒地方カラ出稼シテ居ルモノミデアルト云テ宜敷位ナリキ此ノ如ク一方ニハ人夫ノ供給ニ不足ヲ告ケ一方ニハ頓ニ需用増加ヲ來タシマシタ爲ニ勢ヒ人夫ノ募集上競争ノ傾ヲ現ハシテ甲ノ事業主ガ一日幾何ノ日當テ雇入レヤウトイフ事ヲ申込ミマスルト乙ノ事業主ハ夫レヲ聞キ込ミ更ニ幾何々々増加スベシト強ヒ丙ハ更ニ進ンデ其上ニ往復ノ旅費小遣ヒ迄モ支給スベシト云フ有様デ殆ト停止スル處ガナカツタデアリマス事態斯ノ如クデ有リマシタカラ結局業務ニ不熟練ナル人夫ヲ非常ニ多額ノ賃錢ヲ以テ雇入レルノミナラス然モ尙此上必要丈ノ人數ヲ纏メル事ガ出來ナイトイフヤウナワケデ我名古屋支廳モ丁度此間ニ交リテ仕事ヲシタワケテゴサイマシタカラ去ル明治廿九年及三十年度ニ於テハ三箇所ノ伐木事業共等シク此影響ヲ蒙リ人夫募集上ニツキマシテ少カラサル困難ヲ感シマシタ私ハ斯ノ如キ極ク一時ノ出來事ヨリ起リマシタ一時ノ供給不足ヲ憂フル譯デハ有リマセヌガ併ナカラ熟ラシ我邦ノ交通機關全体ノ有様通觀シマスルニ今日鐵道ノ哩數モ既ニ官民ヲ合セテ三千哩近クニナリテ居リマス尙數年ヲ期シマシテ完成シヨウト云フ未成線ノ哩數ヲ台セマスルト實ニ七千哩以上ニ達シヤウト云フヤウナ有様テゴサイマス殊ニ國道デアルトカ縣道デアルトカ若ハ里道小徑ニ至ル迄年々修改若ハ新鑿ヲ加ヘラル、モノガ枚舉ニ暇アラステ此ノ如ク交通機關カ追々整備シヤウトイフ時代ニ際シマシテハ今日迄一方ニ偏在シテ更ニ價值ヲモツテ居ラナカツタ處ノ森林モ交通機關ノ整備ト伴ヒマシテ段々ト相當ノ價格ヲ生スルニ至ルノハ自然ノ勢ニシテ曾テ世人ノ留意シナカツタ森林ノ往々彼我ノ間ニ賣買セラレツ、アル事ハ今日實際ニ見開スル處デ此等ハ國家ノ爲メ誠ニ慶スベキ事テゴサイマスケレトモ森林ハ多クハ面積廣大ニシテ之ヲ伐採シ利用シヤウト欲スルニハ勢ヒ大仕掛ニ行ハザルヲ得ナイ大仕掛ノ事業ヲ施サウト欲スルニハ今日デハ勢ヒ木曾流ノ伐木運材ノ方法ニ據ラザルヲ得ズ木曾流ノ伐木運材ニ堪能ナル人夫ヲ募集スルニハ木曾若クハ飛驒ヘ行カナケレバ之ヲ雇ヒ入レル事ガ出來ナイトイフヤウナ次第デゴサイマシテ將來社會ノ進歩ニ伴ヒマシテ此等大森林ガ追々開發利用セララル、場合ニ際會

シマスルト人夫供給ニ益々不足ヲ告ケテ募集上ニハ愈々困難ヲ感スル事ヲ覺悟センケレバナラス事ト考ヘマス處テ現今木會飛驒地方ニ此仕事ニ従事スル勞働夫ノ人員ハ實際何レ位アルゴサイマセウカ極詳シイ調ベヲシタワケデハゴサイマセウカ概畧取調ベイタシマシタ處デハ此仕事ニ従事スル者ハ木會飛驒地方及東美濃邊ノ全体ヲ合セマシテ運材夫ガ先ツザツト三千人夫レカラ所謂伐採造材ニ従事スル材夫ノ數カ凡ソ千五六百人ゴザイマス此外一定ノ本業ノガ在テ其本業ノ閑散ナ時分所謂内職トシテ一時自分ノ居住地附近ニアル事業ニ備役セラル、人夫カゴザイマスケレハ之ハ彼等ノ都合ノヨイ時分ニ雇ハレテ出ルト云フ側デゴザイマスカラ大体ノ數ノ内ニハ勘定ヲイタシマセヌ此等モ併シ多少仕事ノ上ニ關係ヲ以テ居リマスワケデゴザイマスカラ運伐夫トシテ三千人材夫トシテ千五六百人トイフ數ガ先ツ當ラズト雖モ遠カラズトイフ處デアルト考ヘマス處デ一事業ニツイテハ大体何ノ位ノ人夫ヲ要スルカト申シマスト是ハ素ヨリ其造材ヲイタシマスカラ材積ノ多少ニモ關リマスカラ山ノ模様ニモヨリマス小谷狩大川狩ノ距離ノ遠近ニモ關係イタシマスカラ一様ニ申上ラレマセヌガ我々ノ實際ニヤツテ居リマスル側カラ積算ヲ立テマスノ先ツ年々木會飛驒ヲ合セマシテ三ヶ所事業ヲ營ムテ居リマスガ三ヶ所其略伐採材積カ同様デゴサイマス即チ事業ニツキマシテ造材積ガ三萬尺ハ小谷狩ノ距離モ大体平均シテ凡ソ三里大川狩ノ距離二十五里程デゴサイマス之ニ依テ計算イタシマストイフト實際一事業ニ對シ一日ニ付キ凡ソ二百五十人宛ノ運材夫ト百人宛ノ材夫ヲ要シマスカラツマリ三伐木事業ヲ合セマシテ造材九萬尺ハニ對シ一日ニ付七百五十人宛ノ運材夫ト三百人ノ材夫ヲ要スルワケテゴサイマス然シテ之ハ御料局ノ事業ニ對スル話デ此ノ外年々木會飛驒地方カラ材商其他ノ手ニヨリ伐木シテ運材セラル、處ノ材積モ實ニ少ナカラヌ高デゴサイマスガ夫レヲ茲ニ極内輪ニ積リマシテザツト年々十五萬尺ハト仮定シ之ヲ前ノ割合ニ依テ積算スレハ一日ニ付キ運材夫ガ千二百五十人材夫ガ五百人必要デアリマス結局官民ノ事業ヲ合併シテ材積二十四萬尺ハニ對シ丁度二千二人ノ運材夫ト八百人ノ材夫ヲ要スルワケテゴサイマス此ノ他年々遠州或ハ甲州デアルトカ其ノ他地方ニ出稼ラシテ居ル者カ隨分少ナカラサル數デゴサイマスカラ此等ヲ

積算シテ考ヘマスト曩ニ申述タ通り運材夫三千人ト材夫千五百人位ノモノデアラカラ何カ一ツ著シキ事業ガ突然或方面ニ起リマスルト直ニ人夫ノ供給ニ不足ヲ告ケマシテ相互ニ困難ヲスルトイフコトハ無論ノ話テ在テ將來此木會流ノ材木運材ノ方法ヲ其儘襲用シテ行カウト欲シマシタナラハ人夫ノ供給ニ不足ヲ告ケ場合ニ依テハ不足ノ爲メニ事業ヲ中止スルノ餘義ナキ場合モ生ジヤウト思ヒマス且又驛テ既往ト現今ノ賃金ヲ比較シテ見タノニ是レモ亦著シク騰貴ヲイタシテ居リマス今御料局名古屋支廳ニ於テ實行シタ結果ノ概要ヲ表示スレハ實ニ左ノ通りデ爾來今年ニ至ル迄少シ宛騰貴シツ、アルノミデ決シテ下落シテ居ルコトハナイノデアリマス

造材賃金表

年 度	木 種	長	末 徑	一 尺 賃 金	運材夫賃、金表	
					小 給 額	大 給 額
明治二十一年度	ヒノキ	二 間	五 寸 以 上	〇、〇四〇	〇、〇四〇	〇、〇七五
	サ 枺	同	同	〇、〇三八	〇、〇三八	〇、〇八二
	ヒノキ	同	四 寸 以 上	〇、〇八七	〇、〇八七	〇、〇八二
	サ 枺	同	同	〇、〇三八	〇、〇三八	〇、〇七五
明治二十二年 度	ヒノキ	二 間	五 寸 以 上	〇、〇四〇	〇、〇四〇	〇、〇七五
	サ 枺	同	同	〇、〇三八	〇、〇三八	〇、〇八二
	ヒノキ	同	四 寸 以 上	〇、〇八七	〇、〇八七	〇、〇八二
	サ 枺	同	同	〇、〇三八	〇、〇三八	〇、〇七五
明治二十二年 度	平均一人給額	同	同	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一六〇
明治二十二年 度	平均一人給額	同	同	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一六〇

0.1100

0.1200

0.1300

0.1400

0.1500

0.1600

0.1700

此表ニ依リテ見マズレバ甚シキハ倍額以上若クハ倍額ニ垂ントシテ居ル次第テ随分著シキ騰貴ト云ハサルヲ得ナイ然シ此等ハ兎ニ角一般社會ノ經濟上ニ伴ハレマシタ結果テゴサイマシテ之レニ伴フテ又生産物タル材木ノ價格モ相應ニ騰貴ヲシテ居ル以上ハ素ヨリ強ヒテ憂フルニ足ラヌ處デアリマスケレトモ前ニ申ス通り現今ノ方法トイフモノハ專ラ勞力ニヨツテヤツテ居ル仕事デコサイマスカラ何ウモ一方ニ木材カ騰貴シテ居ル以上ハ夫レデ構ハヌトイフテ等閑ニ附スルワケニハ參リマスマイ加之將來人夫募集上就キマシテハ追々競争ノ極自ラ過當ノ賃金ヲ拂ハヌケレバナラヌト云フヤウナ場合ニ立至テ居リマスカラシテ此人夫賃ノ上カラ考ヘマシテモ餘程攻究セネバナラヌ事ト思ヒマス

次ニ著シキ欠点ト考ヘマスノハ御承知ノ通り木會ノ運材法ハ搬出スベキ木材ヲ以テ色々ノ裝置ヲ構成イタシマスノデ此裝置モ毎年作ツテ毎年壞ハシテシマフノデ此等モ今日ノ時勢ニ對シテハ甚タ不利ナ点ト考ヘマス此運材裝置ニ色々アリマシテ例エバ「サデ」「シユラ」「ヒギ」「ウス」等夫々構造ヲ異ニシテ居リマス然シテ是等ニ使用スベキ木材ハ別ニ伐採スル譯テナイ畢竟運搬ス可キ木材其物ヲ其テ色々必要ナ裝置ヲ構成シテ行クトイフ事ニナツテ居リマス殊ニ又之ヲ構成スルノモ豫メ構成シテオクノハ是モ少ナイノデ多クハ運材スルニ從ツテ拵ラヘル言ヒ換ヘレバ拵ヘツ、運材シテ行ク譯テ御承知ノ通り木鼻ニ於テ類ニ苦心シテ運材裝置ヲ拵ヘテ居ルニ拘ラス木尻ニ於テハ切角苦心シテ拵ヘテ裝置ヲドクノ破壞シテ居ル如キ有様デアリマスカラ木材搬出ノ進行ニ從事シテ居ル運材夫ノ人員ノ割合ニ對シテハ甚タ區々タルモノテ畢竟現今ノ運材法ニ非常ナル勞力ト非常ナル日子ヲ要スルハ蓋シ其裝置ヲ改廢スルニ歸着スルノデアリマヌ勞力供給ニ餘リアリ且賃金低廉テアツタ時代ハ一向意トスルニ足ラヌ事ト考ヘマスカ將來此勞力ノ供給不足ヲ告ケヤウトスル憂ガアルノト從ツテ賃金カ昇騰シヤウトイフ時世ニ對シマシテハ最早利便ナル方法トハ云ヘナイ

次ニ現行法ノ欠点ハ木材ヲ費消スル事ガ甚タ多イ之ハ詳シク申述ヘルト長時間ヲ要シ御退屈ヲ買フコトニナリマスカラ簡單ニ次ノ項目丈ニ止メテ置キマス

一、造材上ニ於ケル消費

二、小谷狩中ニ於ケル消費

三、大川狩ニ於ケル消費

次ニ現行法ノ欠点ヲ考ヘマスノハ立木ヲ伐採シ造材シマシテ之ヲ市場ヘ搬出スル迄ニ大變ニ澤山ナ日子ヲ要スルワケデゴサイマシテ御承知ノ通り本年ノ三四月頃伐採ニ着手シテ現在市場タル名古屋ヘ持ツテ參リマスニハ漸ク翌年ノ二三月頃テナケレバ運搬シ來ル事ガ出來ナイ畢竟一年間カ、ツテ市場ニ着スルトイフヤウナ有様テゴサイマスカラ商機ニ投シテ伐採ヲ増減スル如キ機敏ナル處置カ出來マセヌト又或符束ノ爲メニ名古屋ニ發着スル處ノ時期ガ一定シテ居ルノデ該時機ニ至リ木材ノ輻輳スルト同時ニ市場ノ材價頓ニ低落スルノ不利カアリマス

以上ハ現行法ニ對スル重ナル欠点ト存シマスガ其外現行法ニ據テ木會川ヲ管流スルニハ關係地方廳ノ縣令ニ依テ其期節ヲ制限セラレテ居リ將來河川法ヲ敷カレ若クハ砂防法ニ據テ一定ノ行爲ヲ制限セラル、様ニ立至リマシタナラバ如何ナル不便不都合ヲ感スルニ至ルヤモ計ラレヌコトト存シマス

現今ノ伐木運材法ニ就テハ段々申述ヘタ通り今日已ニ諸多ノ不利不便アルニ拘ラス官民共ニ少シク大キナ伐木事業ヲ起サントスレバ一ニ木會流ノ伐木運材其モノヲ直チニ適用シテ事業ヲ計畫シヤウト云フ傾キガアリマスケレトモ先キニモ御話シタ通り殆ント三百年來其儘ノ方法ヲ一向ニ改メズシテ施行シヤウト云フノデアルガ甚タ無理ナ話テ其不利益テアルト云フコトハ能ク分テ居ルト考ヘル依テ現行法ノ不利益ナル廉々ハ出來得ル丈排除シマシテ何ウカ之ニ對スル相當ナル改良ノ考案ヲ立テ將來發達シタル林業ニ伴ヒマシタ伐木運材ノ方法ヲ案出スルコトハ我邦ノ林業ニ取リマシテ甚タ緊要ノ事ト信シマス自分モ此事ニ就テハ多少心配シテ何ウカ本谷間ノ運材裝置ハ可成固定ノモノニイタシ一方ニハ機械ノ應用ヲ

盛大ニシテ出來得ル限リ勞働夫人員ヲ節減スル等色々考ヘテハ居リマスルカ未タ攻究中テ一向ニ成案モ立マセズ要スルニ本會流ノ伐木運材法ハ既往ニ在リハ唯一ノ良法テ在リトモ疑ヒマセズカ將來ニ對シマシテハ何ノ方針ヲ定メテハシテモ相當ナ改良ヲ加ヘテ行キマセズト何時モ其儘ヲ襲踏シテ行クヨトハ到底望マレヌヨト考ヘマスカラ何卒夫等ノ点ニ就テ精々諸君ノ御考ヲ煩シ相當ナル御考按ヲ立テラレマシテ細大トナク御指教ヲ仰キタイノテアリマス (愛知縣開墾日本山林會第十五回總會議決)

町村ト森林トノ關係

(額田郡自治講習會ニ於テ講演セシモノナリ)

愛知縣技師 三 溝 謹 平

私ハ此處ニ掲ゲテアル所ノ町村ト森林トノ關係ト云フ事ニ就テ御話シタイト思ヒマス此農村ト森林トノ關係ト云フ事ヲ御話スルニハ豫メ御手許ニ廻ツテ居ルト思ヒマス茲ニ印刷物ニ就テ説明致シマス、併シ諸君ニ於キマシテ昨年御出デノ無カシタ方モ多クアルヤウニ考ヘマスカ先ヅ町村ト云フモノハ何ウ云フモノデアルカト云フ事ヲ一ツ御話シテ置キタイト思ヒマス、是ハ御承知ノ通り今日ノ町村ト云フモノハ國家ヲ形成シテ居ル所ノ最下級ノ自治團體デアル、デ物デ云フテ見レバ物體ヲ造ツテ居ル所ノ即チ一ツノ細胞デアルト斯フ云フテモ宜イノデアリマス、而シテ其町村ト云フハ何ウ云フ風テ全体成立ツテ居ルカト申シマス即チ人ト土地トデ成ツテ居ルト斯ウ云ハナケレバナラヌ、人バカリアツテモ町村ト云フ事ハ出來ナイ、土地バカリアツテモ町村トイフ事ハ出來ナイ、人ト土地ト二ツ集ツテ町村ト云フ事ガ出來ルノデアリマス、即チ多數ノ人ガ或ル區劃ニ集ツテ初メテ町村ト云フ事ガ出來ルノデアリマス、故ニ其要素ハ人ト土地ト區劃テアル、之レヲ森林ノ方テ説明シテ見マスルト、森林ト云フモノハ土地ト樹木テアル、或ル一定ノ區域内ニ樹木ガ生ユテ居ツテ初メテ森林ト云フ事ガ云ヘル

ノヲ、樹木ト土地ト相待ツテ之ヲ森林ト云フノデアル、森林ノ要素ト云フモノハ即チ樹木ト土地トテアリマス、町村ハ人ト土地テアル、森林ハ樹木ト土地テアル、テスカラ町村ヲ研究シヤウト思ヘバ唯人ノミヲ研究スルバカリテハイケナイノデアリマス、人ト土地ト相待ツテ町村ノ改良發達ト云フ事ヲ圖ル事ガ出來ルノデアリマス、恰モ森林ヲ研究シヤウトスルニハ樹木ト土地ト相待ツテ研究ガ出來ルト同ジデアル樹木ヲ研究スルノハ是ハ植物學者ノ遺ル事テアル一ノ樹木何ウシタナラバ大キクナルトカ病害トカ虫害トカト云フ事ヲ研究スルノハ植物學者ノ研究スルニキ事テアル。森林學者バ一事一物ヲ主トシテ研究スベキモノテハナイ、ソレト同ジク町村ヲ研究スルニハ個人々々ヲ離シテ研究スル事ハ出來ナイノデアリマス、町村トシテハ何ウシテモ人ト土地ト離シテ研究スルハ善クナイ事テアル、夫デ私ハ是カラ御話スル事ニ就テハ人ト土地ト區別シナイ一體トシテ御話イダシマス、又例ヘテ見レバ一ノ林ニ大木ガアツテ其樹木ハ貴重ナ樹木デアルトスレバ其大木ヲ保護シテ遣ラナケレバナラヌカト云フニ森林トシテハサウ云フ事ハ出來ナイノデアリマス、其大木ノ爲メニ外ノ樹木ハ害ヲ受ケテ成長スル事ガ出來ナイカラ森林全体ノ上カラ云フト不利益デアル、伐採シテ外ノ木ノ成長ヲ進メテ行カケレバナラヌ斯ウ云フ取扱ヲセズケレバナラノハ森林全体ノ上カラ止ムヲ得ヌノデアル、夫カラ尙森林取扱上間伐即チ拔伐ヲ行ヒ或ハ種々手ヲ盡シテ森林ヲ全然同ジ頭ニ揃ヘテ平均ニ樹木ガ育ツテ行クヤウニ苦心スルノハ森林所有者ノ希望デアル、町村テモ之ト同ジテ町村内ニ大キナ金持ガアル一人ヤ二人アツテモ其村ハ立派ナ金持ノ町村ト云フ事ハ出來ナイ町村殘ラズガ頭ヲ揃ヘテ進ンテ行ツテ初メテ立派ナ町村ヲ形造ル事ガ出來ルノデアル、大木ナラ伐ツテ仕舞ヘト云フ事ガアルケレドモ町村ハサウハ出來ナイ、茲ニ於テ町村ニハ公德ヲ養成スルノ必要ガアル、何ウシテモ町村ハ同ジヤウノ程度ニ進歩シテ行ク方針ヲトラナクテハナラヌト斷言シテ憚ラヌノデアル、例ヘバ某村ニ金持ガアツテ其町村費ノ殆ド七分ヲ出シテ居ツタノデアル、然ルニ或ル事情ノ爲メニ其村カラ他所ニ轉居シテ仕舞ツタ是迄ハ町村費ノ七分ハ其人ガ出シテ居ツタカラ非常ニ宜ツタガ其人ガ他所ニ越シテ仕舞ツテ町村費ヲ出シテ貰フ事ガ出來ナイト云フ事ニナツタノテ

其村ハ非常ニ困却シマシタ、夫テアルカラ一人ヤ二人ノ金持テ其町村ト云フモノハ發達スベキモノテ
 ナイ、町村ノ發達ヲ冀フトスルニハ同ジヤウノ人ガ澤山出來テ行カナケレバ到底發達スル事ガ出來ナイ
 町村ノ爲メニ同ジク力ヲ盡シテ行クト云フ人バカリテナケレバ町村ノ發達ヲ期スル事ハ出來ナイノテア
 ルト云フコトヲ御考ヘオキ願ヒタイノテアリマス、先ヅ町村ノ發達上ニ就テノ大体ノ御話ハ是テ措キマ
 シテ是カラ町村ト森林ノ關係ト云フ事ニ就テ御話シヤウト思ヒマス、既ニ皆サンモ御承知テアリマセウ
 ガ今ヨリ二百餘年前ニ熊澤蕃山ト云フ人ガアリマシタ、此人ガ云ハレタ言葉ニ「山川ハ天下ノ源ナリ山
 又川ノ本ナリ山林ハ國ノ本ナリ」ト云フノガアル、是ハ山ト川ト云フモノガ天下ノ本テアル山ト川ガ無
 クテハ天下ト云フモノハ太平ニ治マツテ行クモノテ無イ、山ト川トガ無ケレバ國ガ成立タヌノテアル、
 山ハ川ノ源テアルサウスルト云フト山カ一番天下ノ源テアル、斯ウナルト山ハ天下ノ源ナリト云フトモ
 宜イ山ガアツテ天下アリト云ヘルノテアル、即チ山林ハ國ノ本テアル山林ガ無ケレバ國ト云フモノハ成
 立タヌノテアル、何故成立タヌカ何故山ノミガ國ノ本テアルカ、山林ト云フモノハ何ウシテ經營シナケ
 レバナラヌカト云フ事ヲ一ツ御話シマウト思ヒマス、山川ハ天下ノ源ナリ山又川ノ本ナリト申シマスレ
 バ山ハ即チ町村ノ本テアルト云フト宜イノテアル、故ニ其山ノ荒廢ハ町村ノ盛衰ニ關係スル事ハ大ナル
 モノテアル、本ガ萎レテ末ノ治マルモノハ無イノテアルカラ、山林ガ荒レテ仕舞ヘバ自然町村ガ治マラ
 ス様ニナルノテアリマス、西洋ノ或ル經濟學者ハ「森林ノ荒廢ハ邦家ノ患疾ナリ」ト云フト居ル、前ノ山
 川ハ所謂天下ノ源テアル森林ノ荒廢ハ國家ノ盛衰ニ關係スルト云フ事ト同一様ノ見解テアリマス、之ヲ
 人ニ喩ヘテ見ルト人ノ病氣ノヤウナモノテアル、人トシテ體ガ壯健テアレバ働ク事ガ出來ルケレドモ不
 幸ニシテ病氣ニ罹ツタ時ニハ休ンテ働ク事ガ出來ナイ充分ノ働キガ出來ナケレバ充分ノ生活ヲ爲ス事ガ
 出來ナクナリ爲メニ衣食住ニ困ツテ途ニ其人ト云フモノハ倒レテ仕舞フト云フヤウナ結果ヲ來スノテア
 リマス、町村ニテモ其所屬ノ山ガ荒廢シテ仕舞ツタナラバ其町村トイフモノハ成立ツ事ハ出來ナイ、是
 ハ明カナ事實テアル、夫テ森林ノ荒廢ト云フ事ニ就テ獨リ森林學者ガ彼是云フノデハ無ク經濟學者及政

事家モ森林ノ荒廢ニ就テ心配シ種々注意シテ居リマス、佛蘭西國ノ宰相デアリマシタ「コルペール」氏ノ
 云ヘルニ佛國ヲ亡ボスモノハ敵國デナクテ森林ノ荒廢ナリト、佛蘭西ノ國ハ金力モアリ兵力モアリ非常
 ニ強イ國デ他ノ國ノ爲メニ攻メ落サレルヤウナ事ハナイノデアル、去リナガラ山林ガ荒レハツル時ニ於
 テハ遂ニ其ノ爲メニ國ガ滅亡スルヨリ外ハナイト云フタノデアリマス、佛蘭西ハ以前革命ノ起ツタ時ニ
 非常ニ山林ヲ伐採シタル爲メニ風害水害ガ屢々襲來シ爲メニ其山林ノ整理ニ就テ大ニ苦キ經驗ヲ甜メタ
 ノデアアル、夫デアアルカラ佛國ヲ亡ボスモノハ敵國テ無クシテ森林ノ荒廢デアアルト云ハレタノデアリマス、
 森林ガアルト無イト云フ事ハ人ノ家ニ屋根ガアルト無イト同ジヤウナモノデアアル、人ノ家ニ屋根ガ無カ
 ツタナラバ雨ガドン／＼降り込ム日モ照リ込ムノデアアル、廻リノ壁バカリ幾ラ立派テモ其内ニ住ム事ハ
 出來ナイノテアル、丁度山ノアル所ニ木ガ無イノハ家ニ屋根ガ無イノト同ジテ山ニ木ノ無イ其下ニ家ニ
 造ツタリ田畑ヲ造ツテモ其爲メニ害ヲ受ケテ充分ナル作物ガ穫レナイバカリテナク危険テタマラスト云
 フ事ニナル、干魘ガ續イテハ充分ナル收穫ヲ得ル事ガ出來ナイト云フヤウナ有様ニナル如何ニ骨ヲ折ッ
 テモ骨折リ甲斐ガナイ骨折リ甲斐ガナケレバ其處ニ住ンデ居ル事ガ出來ナイ、又雨ガ長ク續イテ洪水ガ
 アツタ爲メニ他ニ移住シタト云フ例ガ幾ラモアル、北海道トカ或ハ朝鮮支那又ハ亞米利加トカニ出稼ニ
 行ク者ガ澤山アル東北ノ或地方デハ水害ノ爲メニ一村舉ツテサウ云フ事ニナツタ所ガアルノデアリマス
 シテ見ルト森林ノ荒廢ハ其儘ニシテ置ク事ハ出來ナイ、又西洋人ノ云フタ言葉ニ「森林ハ百貨ノ府庫ニシ
 テ農業ノ父母ナリ」ト云フガアル、是ハ今日ハ自分々々ニ色々ナル議論ガアリマスガサウ云フ議論ハ避ケ
 テ昔ノ聖人ノ云ハレタ事ヲ茲ニ一々舉ゲテ説明イタシテ諸君ニ御承知置キテ願ヒタイト考ヘルノデアリ
 マス森林ハ百貨ノ府庫ニシテ農業ノ父母ナリト云フテ居ル、西哲ノ云フテ居ル森林ト云フモノハ一番寶
 ノ本デ倉庫ミタヤウナモノデアアル、農業ニ對シテハ父母ノヤウナモノデアアル、之ハ能ク考ヘテ見レバサウ
 デアル森林ハ百貨ノ府庫デアアル森林ガアツテ初テ多クノ寶ガ出來テ來ル、何デモ山林カラ出來ルノデア
 ルト云フ事ハ考ヘテ見テモ直グ判ル、此机ハ矢張り山林カラ出來ル又此處ニ原稿ガアル此紙モ亦森林カ

ラ出来タモノデアル、元ハ樹木デアル縦或ハ「ドロヤナギ」、楮、三又ノ皮デ出来テ居ル皆森林ノ産物デアル、又此土瓶尾モ森林ノ賜デアル元ハ山中ノ土ヲ採ツテ来テ木デ焼キテ造ツタモノデアル、一番モトハ森林デアル見ル物聴ク物皆森林ノ賜デアル、市中ノ商賣人ハ皆森林ノ産物ヲ賣ツテ居ルノデアル、菓子屋、箱屋、建具屋等皆森林ノ産物ヲ賣ツテ居ル、夫カラ又運送屋ヲ見ルト森林ノ爲メニ働イテ居ル、炭、薪、木材十中ノ八九ハ皆森林ノ産物デアル斯ウ云フヤウニ何レノ物ヲ見テモ森林ノ生産デナイ物ハナイノデアル、百貨ノ府庫農業ニ於テハ父母デアル農業ニ於テハ父母デアルト云フ事ニ就テ詳シク御話スルト云フト西洋人ノ云フ事ニ斯ウ云フ事ガアル「樹木アツテ水ヲ湛エ水アツテ菵稜ヲ生ジ菵稜アツテ牧畜ヲ養ヒ牧畜ヲ養ツテ肥料ヲ生ジ肥料アツテ麥ヲ生ズ」、西洋ノ農業ハ麥ガ主デアル、日本デハ米麥デアル、西洋デハ水田ト云ノモノハ無イカラ麥ヲ作ツテ居ル、樹木ガアツテ水ヲ湛エ水ガアルカラシテ初メテ草ガ生エル水ガ無ケレバ草ト云フモノハ生ユナイモノデアル、西洋ノハ養草森林家ト云フガアリマス、即チ山ニ水ヲ掛ケテ草ヲ作ツテ居ル、水ヲ掛クナイ山デ一町歩ニ付キ一千貫穫レルナラバ水ヲ掛ケタ山ハ其四倍以上即チ四千貫目乃至五千貫目穫レルノデアル、水ヲ掛ケルト掛クナイノデスウ云フ差ガアルノデアル水ガナケレバ草ヲ作ル事ハ出来ナイト云フテモ宜シイノデアリマス、長野縣ノ諏訪郡ニテハ水ヲ掛ケテ草ヲ作ツテ居ル所ガアル、此草ノ出来ル所ノ山ノ價ハ田畑ノ價ト餘リ變ツテ居ナイ事ニ依レバ山ノ方ガ田ヨリモ高イ所ガアル二三百圓シテ居ル所ガアル、此處ハ水ヲ山腹迄曳イテ来テサラサラノト水ヲ一面ニ斯ウ下ニ流シテ居ルサウ云フヤウニシテ草ト云フ者ガ出来ルノデアル、水ガ無ケレバ草ト云フモノハ成長スル事ガ出来ナイ、獨リ草ノミデ無ク樹木等モ矢張り水ガ無ケレバ成長スル事ガ出来ナイ、即チ根カラ養分ヲ吸收シテ幹ヲ傳ツテ葉ニ至ツテ葉デ以テ日光及空氣ノ作用ヲ受ケテ人間デ云ヘバ消化即チ同化シタモノガマタ葉カラ段々ト幹ノ方ヘ下ツテ幹ヲ大キクシテ居ルノデアル、其處デ御承知デアリマセウガ木ニハ太イ根ト細イ根トガアリマス、細イ根デ水ヲ吸上ゲルノデアリマス、太イ根ニ動物ノヤウニ口デモ着イテ居レバ何シナ固イモノデアツテモ嘴ミ碎シテ吸收スル事ガ出来ルケレドモ

木ニハ口モナイ齒モナイカラ嘴ミ碎ス事ガ出来ナイ、水ニ溶ケタ物ヲ細イ根デ吸フヤウニナツテ居ルノデアアル、故ニ極ク細イ根ハ大切カモイデアアルカラ樹木ノ床替ヲスル場合ニハ細根ヲ切ル事ヲ忌ムノデアアル、細根ヲ切ルト根付ガ悪イ何故惡イカト云ヘデ水分ヲ吸收スル根ヲ切ツテ仕舞フカラ惡イノデアアル、植エ替フル時ニ根ヲ切ル時ハ矢張り枝葉ヲ切ツテ根トノ鈞合ヲ保タナケレバナラヌト云フ事ハ最も必要デアル、夫レカラ針葉樹即チ杉ヤ檜ハ切ル必要ハナイガ、潤葉樹即チ桐、檜類トイフヤウナモノハ根ヲ切ツタ時ニハ先ヲ切ツテ仕舞ハナケレバ枯レテ仕舞フ、夫レカラ西洋デハ又牧畜ガ盛ンデ肥料ヲ取作物ヲ作り、菵稜ガアツテ牛馬ヲ養フ事ガ出来、夫レカラ堆肥ガ出来ル牧畜ヲ養フテ初メテ米麥ヲ作ル事ガ出来ル、麥ヲ作ルニハ必ズ山林ガナケレバナラヌ、ガカラ西洋デハ樹木アツテ水ヲ湛エ水アツテ菵稜ヲ生ジ菵稜アツテ牧畜ヲ養ヒ牧畜ヲ養ツテ肥料ヲ生ジ肥料アツテ麥ヲ生ズ、ト斯ウ云フコトヲ云フタノデアリマス、日本デハ肥料ト云ヘバ糞ヲ本位トシテ農業ノ肥料トシテハ最も必要ナモノト申シテ居ル、西洋ノ肥料ト云ヘバ廐肥デアル、糞ト云フモノハ肥料ニシテ居ラヌノデアアル、此ノ廐肥ヲ造ルニハ牧畜ヲ養ツテ之レヲ造ルノデアリマス、斯ウ云フ風デアアルカラシテ、所謂森林ハ農業ノ父母デ、森林ガアツテ農業ガ生レテ来ルト云ハナケレバナラヌ、又支那人ノ諺ニ「十年ノ計ハ木ヲ植ウルニアリ、百年ノ計ハ德ヲ立ツルニアリ、一年ノ計ハ穀ヲ植ウルニアリ」ト云フ事ガアリマス、即チ樹木ヲ養成シ森林ヲ育ツル所ノ利益ト云フモノハ急ニ見ル事ハ出来ナイモノデアアル、穀物ハ其ノ年ニ利益ヲ見ル事ガ出来ルガ樹木ハ十數年ヲ置カナケレバ利益ヲ見ル事ガ出来ナイ、樹木ヲ植エルノハ丁度貯金ヲスルト同ジヤウナモノデアアル、樹木ヲ植ユレバ色々ナル点ニ利益ガアルノデアアル、人間ハ決シテ一年ヤ十年デ滅亡スルモノデナイ、十年百年子々孫々ニ迄永續シテ行クモノデアアル、一年ノ計十年ノ計百年ノ計ト云フモノヲ立テ、行カナケレバナラヌノデアアル、又西洋ノ諺ニ「林ヲ仕立ツレバ其ノ綠蔭ハ他日家屋ニ映ジテ美麗ナリ」ト云フ事ガアル、是レハ林ヲ造ツテ其ノ蔭ガ後々ニハ家ニ映リ非常ニ美シクナル木ノ綠蔭ガ非常ニ美シイ、只字ノ上カラ解釋スレバ斯ウ云フ事ニナツテ居ルガ、言葉ヲ換ヘテ簡單ニ云ヘバ林ヲ育ツ

レバ財産が殖エテ暮シ向ガ好クナツテ來ル、尙言ヲ換ヘテ云ヘバ人ノ家ニシロ其ノ村ニシロ、林ヲ育テ
 ルト金持ニナツタト同ジデアル、林ハ中々一寸デハ費ヘナイモノデアルガ、金持ガ金ガアルカラト云フ
 テモ其ノ金ハ費ヒ安イモノデアル、少シ心ヲ弛メレバ直ニ無クナツテ仕舞フ、金ガアルカラト云フテ其
 ノ家ハ永遠ニ立派ナ生活ヲシテ行クト云フ事ハ出來ナイノデアル、又農村ニシテモ同ジデ金ガアツタカ
 ラトテ永遠ニ經濟ヲ維持シテ行クト云フ事ハ出來ナイノデアル、夫ニ相當シタ所ノ確實ナ言葉ヲ以テ云
 ヘバ町村トシテ是非此不動ノ財産ヲ有タナケレバナラヌ、町村トシテ動カナイ所ノ財産ト云フト森林ガ
 一番確カデアル、人ニヨレバ公債ハ確實デアルト云フガ公債是亦何處ヘ持ツテ行ツテモ費フ事ガ出來ル
 ガ山林ナラバ一寸費フ事ガ出來ナイ又賣ル時期ニ依ツテハ價ニナラヌト云フ時期ガアル、山林トナルト
 木ヲドシ、伐ツテ消費シテ仕舞フト云フト何人ノ目ニモ着クノデアル、金ヤ公債ト云フモノニナルト
 陰シテ之ヲ賣リ或ハ使用スル事ガ出來ル、ダカラ此点カラシテモ財産トシテハ山林ヲ養フト云フ事ハ必
 要ナ事デアル、此頃ハ大分新聞ニ種々疑獄トカ何トカ云カ事ヲ見マスガ金ヤ公債ハ金庫トイフ丈夫ナモ
 ノガアツテ火事デモ燒ケズ他ノ人デモ開ケル事ガ出來ナイ、併シナガラ鍵ヲ持ツタ人が惡イ事ヲスレバ
 容易ク費フ事ガ出來ル、山林ハサウ云フ事ハ出來ナイカラ非常ニ安心デアル、又國トシテモ町村トシテ
 モ確實ノ財産ヲ貯フルト同時ニ所謂百貨ノ府庫農業ノ父母タル所ノ森林ト云フモノニ就テハ單ニ金錢ノ
 利ヲ得ルノミナラズ、種々ナル所ノ財産ヲ保護スル上ニ就テモ忽セニスル事ガ出來ナイノデアリマス、
 金サヘ貯メレバ宜イト云フ事ハ宜クナイ事デアル、將來サウ云フ考ヲ有ツ時ニハ其村其國、一個人デ云
 ヘバ一家ノ滅亡スル時期ヲ招ク素因ヲナスノデアル、茲ニ一寸面白イ話ガアル是ハ西洋ノ昔話デアルガ
 一人ノ軍人ガアツテ其軍人ガ好イ甲冑ヲ買ヒタイト苦心シテ飯モ碌々食ベズニ金ヲ費ハズ貯金シテ漸々
 自分ノ思フ通りノ甲冑ヲ買ツテ大ニ喜ンデ居ルト或ル時出陣ノ命ガ下ツタノデアル、是ハ占メタト喜ン
 テ其甲冑ヲ着ケテ出陣シタ、ケレドモ甲冑ヲ買ヒタイ爲メニ飯モ碌々食ハズニ居タカラ體ガ疲レテ遂ニ
 戦ハヌ中ニ先方ノ奴ニ射チ殺サレテ仕舞ツタト云フ、如何ニ立派ナ堅固ナル所ノ甲冑デモ着ル人間ノ体

力ガ夫ニ相當セヌ時ニハ奉公ノ働ラスル事ガ出來ヌノデアル、夫ト同ジク町村ニ於テモ如何ニ儉約シテ
 金ヲ貯メタ所ガ体力ノ本タル所ノ山林詰リ町村ノ土臺ガ若シモ疲弊シテ居ル時ニハ到底充分ナル發達ハ
 出來ナイ、前ノ兵士ト同ジヤウナ事ニナルノデアル、一方デハ金ヲ貯メタト喜ンデ居ルト一方デハ
 土地ガ瘦セテドン、破壊シテ遂ニ其町村ハ發達スル事ガ出來ナイノデアル、町村ノ進歩發達ハ何ウシ
 テモ矢張り此土地ニ向ツテ充分ナル骨ヲ折ツテ行カナケレバナラヌノデアル、言フマデモナク町村ハ山
 林ノミデナクシテ他ノ生産力ニモ骨ヲ折ラナケレバナラヌノデアル、町村ノ生産力ト云ヘバ何ウ云フモ
 ノデアルカ今日最モ改良ノ必要ナモノハ肥料ノ改良耕地整理或ハ開墾スベキ土地ノアル所ハ之ヲ開墾ス
 ル或ハ家畜即チ牛或ハ馬ヲ飼フト云フヤウナ事ヲシテ農村ノ生産力ヲ増サナケレバナラヌ、是ハ將來必
 要デアル、ケレドモ今ノ肥料ノ改良トカ或ハ耕地整理、田區ノ改正、排水或ハ土地開墾或ハ家畜ヲ飼養
 スルト云フ事ハ先刻御話シタ通り皆山林ノ盛衰ニ依ツテ支配セラル、モノデアルカラ山林ガ荒廢シテモ
 先ヅ之ヲ遺ルト云フコトハ大ニ考ヘナケレバナラヌ、更ニ本郡ニ於ケル處ノ産業ノ状態ハ何ウ云フ状態
 ニアルカト云フト本郡ノ山林ガ何ノ位禿頭病ニ罹ツテ居ルカラ調ベテ見マスルト額田郡ノ全面積二十五
 方里四分デアル、其處デ二十五方里四分ト云フモノヲ反別ニ直スト總反別ガ三萬九千五百二町一反歩デ
 アル、其内デ田ヤ畑ヤ宅地トカ其外ノ反別ヲズツト今統計ニ依ツテ調ベテ見ルト云フト九千町歩ノ少シ
 餘ニナツテ居ル、サレハ残りノ大部分ハ山林デアル、總反別三萬九千五百二町一反歩ノ中カラ九千町歩
 ヲ引イタ其他ノ反別殆ド三萬町歩ト云フモノハ山林ノ面積デアル、デ之レニ依ツテ見ルト云フト全面積
 ノ七割ハ山林ノ面積ト云フテモ宜イノデアル、此七割餘ノ山林ノ今日ノ現況ハ何ウデアルカト云ヘバ遺
 憾ナガラ整理シテ居ルト云フ事ハ云ヘナイノミナラズ、殆ド荒廢ノ極ニ達シテ居ルト云フテモ宜イノデ
 アル、七割以上ヲ占メテ居ル所ノ大面積ノ山林ガ殆ド荒廢ノ極ニ達シテ居ルト云フ事ニナツタナラバ將
 來額田郡ノ町村ガ何ウ云フヤウナ方面ニ進ムノデアアルカト云フ事ハ今迄御話シタ通りニ若シ森林ノ荒廢
 ガ邦家ノ患疾デアル、國ノ盛衰ニ關係スルト云フ事ニナルト本郡ノ將來ト云フモノハ疲弊困憊ノ状態ニ

至ルト云フテモ是ハ強テ過言デナイト思フ、或ハ將來斯ウ云フヤウナ状態ニナリハシナイカト實ニ憂慮ニ堪ヘヌノデアリマス、サウシテ見ルト何ウ云フヤウナ方法ヲ以テシタナラバ此山林ノ荒廢ノ極ニ達シタルモノヲ元ニ恢復シテサウシテ御互ニ山林ノ惠ヲ受ケル事ガ出來ルカ是ガ所謂地方改良講習會ノ研究スベキ唯一ノ大問題デアルト思フノデアリマス、借山林ノ改良進歩ヲ圖リ今日既ニ荒廢ノ極ニ達シテ居ル山林ヲ改良シ經營シテ普通リノ立派ナ樹木ヲ養成シヤウト云ウ事ニ就テハ先ヅ森林ノ荒廢ト云フモノハ何ウ云フ順序デ荒廢スルモノデアルカ荒廢ヲ恢復スル方法ト云フモノハ何ウ云フ事ニスルカト云フ事ヲ是カラ御話スル考デアリマス

森林荒廢ノ原因ト云フモノハ只人ノ慾心ノ爲メニ荒廢スル、斯ウ云フ事ニ止マルノデアアル、既ニ御承知ノ通り土地ト云フモノハズツト昔ニ遡ツテ考ヘテ見ルト樹木デ獲ハレテ居ツタ時代ガアルノデアリマス夫ハ年代ニ於テ相違ガアルガ昔ハ殘ラズ木ガ生エテ居ツタノデアアル、人モ昔ハ猿ト同ジデ矢張り猿ノヤウニ體中毛ガ生エテ居ツタモノデアアルガ人間ハ着物ヲ着ルトカ何トカノ爲メニ毛ガ必要デ無クナツテ必要デアアル部分ダク毛ガ殘シテアルニ止マツテ居ルノデアアル、之ト同ジデ土地ト云フモノモ土地トシテ必要ナ部分ハ必要ニ應ジテ木ガ伐ラレテ仕舞ツテ居ル、サウシテ今日ハ其木ガ無クナツテ仕舞ツタノデアアルト斯ウ見テ宜カラウ、木ノ必要ナル或ル部分デモ其住ンデ居ル所ノ人民ノ慾心ヲ滿タス爲メニ伐ツテ仕舞ハレテ居ルノデアアル、丁度人デ云フテ見ルト必要ナ眉毛モ落スト云フ、ウナ事モ出來ル之ト同ジヤウデアアル、自分ノ生活上必要ト思ヒツ、モ其必要ナ部分ヲ落シテ仕舞フト云フヤウナ事ガ出來テ居ルノデアアル、デ此邊ノ土地ニハ全体何ウ云フ樹木ガ生エテ居ツタカト云フト氣候ノ上カラ觀察スルト常綠闊葉樹楠、榎ト云フヤウナモノガ生エテ居ツタモノデアアル、然ルニ此處ニ人間ガ住ムニ從ツテ或ハ家ヲ建テ或ハ畑ヲ造ルトカ或ハ田ヲ造ルトカト云フヤウニ木ヲ伐リ開墾シテ來タノデアアル、家ヲ造リ畑ヲ造ルノミデ無ク田畑ヲ造リ家ヲ造ルト木ガアル時ニハ蔭ニナツテ穀物ガ出來ナイト云フヤウナ時ニ於テ木ヲ伐ツタノデアアル、昔ハ此邊デモ猪ヤ熊ガ住ンデ居ツテ農作物ヲ害シタリ又ハ人ヲ傷ツケルト云フヤ

ウナ事ヲシタノデアアルガ、是モ田畑ガ多クナルニ從ツテ山ノ奥ノ方ニ逃グ込ンデ仕舞ツタノデアアル、サウ云フヤウニ伐ツタリ焼イタリシテ行クカラ常綠闊葉樹ハ減少シテ落葉闊葉樹トナリ、其闊葉樹モ亦途ニ皆絶エテ仕舞ツテ山ノ荒廢レテ日當リノ良イ所デモ育ツ松ガ生エテ來タノデアアル、此松モ伐ツテ伐リ盡シテ仕舞フト云フヤウナ所カラ遂ニ松モ生エナイヤウナ所ノ秃山トナツタノデアアル、サウ云フヤウナ順序デ山ト云フモノハ荒廢シテ來タノデアアル、本部ニアル所ノ山ガ斯ウ云フヤウナ状態デ三萬町歩ノ大部分ヲ占メテ居ルノデアアル、斯ウ云フヤウナ状態ニナツテ仕舞ツタ爲メニ山又川ノ源ナルト云フ其實ヲ失ツテ居ルノデアアル、水ト云フモノハ山カラ出テ來ルノデナク、川ト云フモノハ水ノ流レル所ガ無イノデアルト云フヤウナ有様ニナツテ居ルノデスカラ、此状態ニアル所ノ今日ノ現況ヲ恢復シテ昔ノ状態ニスルニハ何ウ云フ方法ニシタナラ宜イカト云フト何ウシテモ秃山ヲ直シテサウシテ直ニ常綠闊葉樹ヤ或ハ杉ヤ檜ニスルト云フ事ハ難カシイノデアリマス、秃山ヲ直シテサウシテ立派ナ状態ニスルニハ草山ニシ夫カラ松山ニスル斯ウ云フ順序ヲ經ナケレバナラヌノデアリマス、所謂山林ノ荒廢ハ邦家ノ患疾デ人ノ病氣ヲ癒スニハ其人ノ体力ヲ段々恢復サセナケレバナラヌ、先ヅ最初牛乳ヲ飲マセルトカ粥ヲ食ベサセルト云フヤウニシテ、サウシテ段々進ンデ來テ固イ所ノ飯ヤ肉ヲ食ベ、刺身モ食ベルト云フヤウニナツテ力付イテ体力ガ恢復サレテ來ル、是ト同ジク山林ヲ恢復スルニハ夫相當ナル滋養分ヲ與ヘテ恢復ヲ圖ルニハ非常ニ手數ト又時日ヲ要スルノデアアル、夫デ今日ノ本部ノ山林ノ状態デハ或ル場所ニハ松モ成長ガ出來ナイ所ガアル、ケレドモ之ニ相當ノ方法施設ヲ爲シ長イ所ノ年月ヲ貸ス時ニハ昔ノ通りノ状態ニ復スル事ハ疑ヲ容レヌノデアアル、只病メバ矢張り金ガカ、ルト同ジク荒廢シテ居ル所ヲ元通ニスルニハ大ナ金ガ懸ルコトハ止ムヲ得ヌコトデアリマス、夫デ本部ニ於ケル山林ノ荒廢シテ居ルノヲ元ノ状態ニ恢復シヤウト云フニハ多額ノ金錢ヲ費ヤシ且相當ノ監督保護ガ必要デアルト思フ、御承知之通り農村トカ町村トカ云フモノハ喩ヘテ見レバ國ノ最下級ノ團體デアアル、恰モ國ノ子供デアアル國ノ子供デアルト云フ上カラ云フト子供ト云フモノハ親ノ保護ヲ受ナケレバ成長ガ出來ナイモノデアアル、農村トカ町村トカ

最下級ノ團體ヲ親タル所ノ國ノ保護指導ト云フ事ガ必要デアリマス、其處ニ於テ國ハ國總體ニ關スル山林ヲ整理シテ保護指導スル事ニナツテ居ルノデアリマス、即チ夫ハ何ウ云フ風ナ保護及指導ヲスルノデアルカト云ヘバ國ハ國トシテ法律ヲ設ケテ保護指導ヲシテ行クノデアリマス、其保護指導ハ何ウスルカト云フト夫ハ諸君ノ御手許ニ廻シテアル印刷物デアアル（水源涵養土砂打止ニ關スル法律抜書印刷物參照）

要スルト今日此地方改良講習會ニ於テ私ガ述ベヤウトスルノハ此印刷物ガ大体ノ主意デアアル、此印刷物ガ今申上ダタ處ノ所謂荒廢地禿山ヲ整理シテ所謂國ノ本ナル所ノ山ノ整理ヲシテ水源ノ枯渴ヲ防ギ或ハ洪水ヲ防グト云フ爲メニ出來テ居ル所ノ法律デアアル、即チ水源涵養土砂打止ニ關スル所ノ法律ヲ拔書キシタノデアリマス、本邦ニ於ケル水源涵養土砂打止ニ關スル所ノ法律ト云フモノハ森林法ト砂防法ト此二ツヨリ出來テ居ルノデアリマス、森林法ト砂防法デ以テ禿山ヲ整理シ改良シヤウト云フノデアリマス故ニ森林法ト砂防法ト此處ニ比較シテアリマス、森林法ハ森林經濟國土保安ト云フ二ツノモノヲ土臺トシテ編成セラレテアル、森林ガ經濟林ト國土保安林ト二ツノ目的ヲ有シテ居ルガ又此目的ヲ明カニ區別シテ居ルノデアアル、經濟林ト云フノハ何ウ云フノデアアルカト云ヘバ其森林ニ樹木ヲ造ツテ直ニ吾々ノ需要ヲ滿タスノガ經濟林デアツテ其育テタ樹木ニ依ツテ氣候ノ調和、水源涵養土砂打止ト云フ所謂間接ニ利益ヲ受ケルト云フノガ保安林デアアル、サウシテ其經濟林ヲ又區別スルト用材林、薪炭林斯ウ云フヤウニ區別スル事ガ出來ル、用材林ト云フノハ林ヲ造ツテ夫カラ大キイ木ヲ伐リ採ツテ所謂家ヲ造ルトカ橋梁ノ材料ト云フヤウナ建築材ヲ採ルノデアリマス、薪炭林ト云フノハ木ヲ伐ツテ薪ニスルトカ炭ニスルトカシテ用材林ト共ニ經濟ヲ現出シテ居ルノデアリマス、用材林ト薪炭林ト云フモノニ依ツテ所謂利益ヲ得テ經營シ成ルベク金ヲ使ハナイデ成ルベク多ク用材ヲ其一ノ林カラ取出スト云フノガ此經濟林ノ本旨デアアル、然ルニ保安林ト云フ方ハ金錢ト云フ事ニ重キヲ置イテ居ラヌノデアアル、ケレドモ全ク之ヲ捨テ、居ルノデハナイノデアアル、只趣意ガ少シ轉倒スルノデアツテ保安林ノ方ハ木ヲ造ツテ其木ノ成

長ニ依ツテ水源涵養土砂打止氣候調和ト云フヤウナ事ガ保安林ノ主旨デ經濟林トハ反對デアアル、併シ經濟林デモ矢張り相當ノ間接ノ利益ト云フモノハアルニ相違ナイガ主要ノ樹木ヲ伐採スル時ニハ其間接ノ効用ハ無クナル、間接ノ効用ハ無クナルガ經濟林ハ直接ノ効用ガ主デアツテ間接ノ効用ガ副デアアル、保安林ノ方ハ間接ノ効用ガ主デ直接ノ効用ガ副デアアル、斯ウ云フヤウニナルト經濟上ヨリ云ヘバ保安林ト云フモノハ非常ニ不經濟ナモノデアアル、併シナガラ此不經濟ナルモノガ國土保安上必要ナル事ハ止ムヲ得ナイノデアアル、デ此保安林設置ノ要件ハ幾ラモアルケレドモ主要ナルモノヲ擧ゲテ見ルト先ヅ此二ヶ條デアアル

第一、保安林ト爲スニハ其目的ヲ達スルニ保安林ト爲スノ外他ニ良法ナキ場合ナラザルベカラズ

第二、保安林ト爲スニハ現ニ危害ヲ受ケシメ又ハ受クベキモノ保安林設置ノ必要ヲ感ジ且ツ其危害

ハ一個人ノ力ニテ到底之ヲ避ケ能ハザル場合ナラザルベカラズ

森林ニハ經濟林ト保安林ト二ツアルガ森林ヲ養成シ經營スルニハ經濟ト云フ事ガ主ニナツテ居ルノデアアル、而シテ何ノ事業デモ經濟ト云フ事ヲ外ニシテ經營シ得ベキモノデ無イノデアツテ經濟ト云フ事ヲ主旨ニ置イテ行カナクバナラヌノデアアル、保安林ヲ設置スル場合ニハ大ニ注意ヲシナケレバナラヌ保安林設置ノ條件トシテハ森林ヲ保安林ニシナケレバ國土保安ノ目的ヲ達スル事ガ出來ナイト云フ場合デナケレバ森林ヲ保安林トスベキモノデナイノデアアル、經濟林ト雖モ樹木ヲ育ツレバ一面ニ於テ國土保安ノ實ヲ揚ゲツ、アルノニ特ニ保安林ニシナケレバナラヌト云フノハ何ウシテモ保安林ニシナケレバ充分ナル國土保全ノ目的ヲ達スル事ガ出來ナイト云フモノヲ保安林ニスルノデアアル、デ保安林ト爲スニハ現ニ荒廢シタ爲メニ危害ヲ受ケテ居ルモノ又ハ其爲メニ危害ヲ受ケルモノト云フヤウナモノニシテ到底一個人ノ力デハ危害ヲ豫防スル事ガ出來ナイト云フ時ニ於テ保安林ト云フモノヲ設置スベキモノデアアル、デ此二個ノ條項カラシテ本郡ニ於ケル森林ノ狀態ニ就テ考ヘテ見ルト大ニ此二個ノ條項ニ該當シテ居ル事ガアルノハ實ニ残念ナ事デアリマス、今日本郡ノ山林狀態ハ到底一個人ノ力ヲ以テ恢復スル事ハ出來ナイノデ

アル、又荒廢シタ處ノ被害ト云フモノハ田畑或ハ其他ノ財産ノ所有者ノミナラズ郡全体ニ影響ヲ及ボス事ハ大ナルモノデアリマス、何故一個人ノ力デ危害ヲ防グ事ハ出来ナイカト云ヘバ今日此荒廢シテ居ル所ノ状態ヲ先刻モ御話シタ舊状態ニ恢復サセルニハ長年月ヲ要スルノミナラズ非常ニ多額ノ費用ヲ要スルノデアリマス、デ今迄縣デ施工シテ居ル砂防工費ハ少ナクモ一町歩ニ付テ四百圓ヲ要シテ居ル一町歩ニ四五百圓ノ工費ヲ投ジテ個人ノ力デ出来ルモノデハナイ、森林ノ收入ト云フモノハ長年月ヲ經レバ其價格ト云フモノハ非常ニ大キイモノデアルケレドモ僅ノ年月デ收入ヲ見ル事ガ出来ナイノデアル、立派ナ樹木ノ出来ル土地デモ僅一町歩貳參百圓内外デ買フ事ガ出来ルニ何ノ利益ノ取レルカ判ラヌ土地ニ數百圓ノ經費ヲ投ジテ行クヤウナ人ハ世ニ多クハアルマイト考ヘルノデアリマス、個人ノ力デハ救済シ恢復シテ元ノ山ニスル事ガ出来ナイ即チ個人ニ任カシテ置ク時ハ益々荒廢ヲ甚シクスルノミデアツテ其爲メニ國家ノ損失ガ益々擴大スルノミデアリマス、故ニ之ヲ恢復シヤウトスル時ニ於テハ何ウシテモ森林法、砂防法ヲ適用スルヨリ外ニ仕方ガ無イノデアル、其處デ御承知ノ通り本縣ハ明治卅三年ニ砂防法ヲ適用シ本郡ノ一部ヲ砂防指定ニ編入シタノデアル、砂防指定地ト云フモノハ砂防法ニ依ツテ指定スルノデアル、砂防法ニハ砂防指定地ト設備地ト云フモノガアル、砂防指定地ト云フモノハ網ヲ掛ケタギウチモノデ設備地ト云フモノハ其工事ヲスル處ノ土地デアル、砂防指定地ト云フモノハ二言ニシテ云ヘバ大キナ網ヲ張ツテ此處カラ此處迄ガ砂防ヲ指定スルト云フヤウナ取扱ヲ受ケルノデアルガ砂防指定地ノ中ニ禁止條項ト制限條項ト二ツアルノデアル、絕對ニ何モスル事ノ出来ナイノガ禁止條項デ、地方長官ノ許可ヲ受ケル時ニハ出来ルノガ制限條項デアル、即チ「樹木ノ皆伐」「土石竹木其他薪炭ノ放下」此二條項ガ禁止條項ニテツテ居ルノデアル、指定地内デハ樹木ノ皆伐、土石薪炭ノ放下ト云フ事ハ絕對的ニ出来ナイノデアル、樹木ノ皆伐ト云フ事ハ殘ラズ伐ル事ガ皆伐デアル、土石竹木其他薪炭ノ放下、是ハ石ヲ切ツタリ木ヲ伐ツタリシテ摺リ落シテハイクナイト云フノデアル、詰リ樹木皆伐或ハ土石竹木其他薪炭ヲ投下スルノハ砂防法上違反デアル、宜シク斯ウ云フ者ハ飽迄取締ラナケレバナラヌノデアル、制限條項

ノ方ハ六ツニ分ツテ居ル「開墾其他地形ヲ變換スル作業」是ハ畑ヲ田ニスルトカ山ヲ畑ニスルトカ、道ヲ造ルトカ、石ヲ堀採ルトカ、樹ノ根ヲ堀出ストカ、山ヲ切り崩シテ地形ヲ變換スル行爲ハ皆含ンデ居ルノデアル、斯ウ云フ事ヲスルニハ縣知事ノ認可ヲ經ルノデアル、「夫カラ樹木ノ皆伐、若シクハ間伐即チ皆伐リスルトカ」、「土石ノ採掘」、「夫カラ火入」ヲスルトカ、「牛馬其他ノ畜類ヲ放チ飼ヒ」スルトカ「落葉ノ採取」トカ之レ皆地方長官ノ許可ヲ得レバ出来ルノデアル、擇伐間伐ト云フ事ヲ大底ノ人ハ間違ヘルノデアル、間伐ハ皆伐リデアル、立派ニ手入ヲスルトカ悪イ處ノ木ヲ伐採ルト云フノガ皆伐リデアル、而シテ伐ルベキ時期ガ來タ時ニ伐ルベキ所ノ規則ノ範圍内ニ於テ伐採ツテ後ニ生エテ居ル處ノ樹木ノ成長ヲ圖ルトカ斯ウ云フノガ是ガ擇伐デアル、此邊デハ間伐願ヲ出シテ能ク擇伐ヲシテ居ル者ガアル注意スベキ事デアル、設備地ト云フモノハ「砂防設備ヲ行ヒタル箇所デ此處ニ於テハ」即チ「開墾其他地形ヲ變換スベキ作業」、「但シ公益必要ナ時ハ此限リニ非ズ」其他「樹竹ノ伐採及其根株ノ掘採」、「土石ノ採掘」、「芝草ノ採取若シクハ掘取」、「火入」、「土石竹木其他薪炭ノ放下」、「牛馬其他畜類ノ放牧」、「落葉ノ採取」ト斯ウ云フヤウナ事項ハ絕對ニ出来ナイト云フ事ニナツテ居ル、設備地ハ總ベテ事業ガ出来ナイノデアル、故ニ其處ニ土地ヲ所有シテ居ル人ハ何ウデアアルカト云フト土地ヲ所有シテ居ルモノモ砂防工事ヲ施行セル土地ナレバ木ノ枝一本タリトモ干草一ツデモ取ル事ハ出来ナイ、所有權ガ無クナツテ仕舞フノデアル、私ノ家ニハ金ノ茶釜ガアルガ蓋ガ無クテ使ヘナイト云フニ些ツトモ違ヒガナイノデアル、立派ナ物ガアツテモ使ヘナイト云フ事ニナルノト同ジ事デアル、其上砂防工事ヲ施行スル土地ハ砂防法ニ依ツテ民有地デモ構ハズシテ砂防工事ヲドクノ遺ツテ仕舞フ、茲ニ「砂防工事ヨリ生ズル收入ハ府縣ニ歸ス」斯フ云ウ事ガアルカラ設備地ヨリ生ズル收入ハ本縣ノ收入ニ歸スルノデアル、而シテ所有者ハ異議ヲ申立テル事ハ出来ナイノデアル、之レハ特ニ御注意イタシタイノデアル、故ニ本縣ニ於テハ私有林ニ對シテモ砂防法ヨリハ森林法ヲ適用シヤウト云フ風ニ今日デハ其方針ガ極ツテ居ルノデアリマスデ同ジク水源ヲ潤養シ同ジク土砂并止ヲ爲ス土地デ所有者ノ權利ヲ認メ利益ノアル

ヤウニ其目的ヲ達シヤツトスルノガ本縣ヲ探リツ、アル所ノ方法デアリマス、夫ガ本縣ノ目的デアリマス、工事ヲ施行シナケレバナラヌ四百圓工費ヲ使用シナケレバナラヌト云フヤウナ土地此土地ガ民有地デアル時ニ於テハ即チ個人ノ有ニ依リ個人トシテ施工セヨト云フ事ニナツテ居ル、サウ云フ場合ニハ森林法ニ依ル時ハ經濟林トシテハ取扱フ事ハ出來ナイノデアアル止ムヲ得ズ保安林トシテ取扱ハナケレバナラヌト云フ事ニナリマス、故ニ本縣ニ於ケル砂防設備地ハ工事ヲ施行シナイ砂防設備地ヲ解除シテ森林法ノ保安林ノ方法ニ依リ工事ヲ施行シヤウト云フノデアリマシテ遂ニ此岡崎附近ノ男川村ニ工事ヲ施行スルト云フ事ニナツテ居ル、然ルニ工事ヲ施行スルト大ニ窮屈ノヤウニ解釋シテ尙不利益ノヤウニ思ツテ居ル人ガアルノデアアル、是ハ甚ダ考違ヒデアリマス、デ森林法デ保安林ヲ設置スルト云フ事ニ就テ所謂前ニ御話シテアル所ノ條件ニ準據シテ保安林ヲ設置シテ居ル、而シテ保安林ニ編入スルニハ町村ノ危害ヲ受ケルモノ或ハ危害ヲ受クベキ虞ノアル所ヲ町村デ申請スルノデ、若シ申請シナイト縣デ之ヲ保安林ニ編入ノ申請ヲスル、デ保安林ノ申請ハ水源涵養土砂打止ノ目的ヲ達スル爲メニ申請スルノデアツテ森林法ハ主務大臣即チ農商務大臣ガ取扱ツテ居リマスカ農商務大臣宛ニ願書ヲ提出スルノデアリマス、郡役所ヲ經テ縣廳ニ出シテ縣廳ガ其願書ニ依ツテ一應之ヲ地方森林會ト云フモノニ懸ルノデアアル、地方森林會ニテハ之ニ就テ一應調査シテ其可否ヲ決シ地方長官ハ其森林會ノ意見ニ猶自己ノ意見ヲ添ヘテ上申シ其上デ以テ主務大臣ニ於テ保安林編入或ハ解除ヲ決定スルノデアリマス、若シモ此際所有者ニ於テ不服ノアル時ハ揭示公告後二十五日以内ニ不服ヲ申立ツル事ガ出來ルノデアリマス、保安林編入後六十日以内ニ於テ行政裁判ニ訴ヘル事ガ、出來ル森林法デハヤウ云ノ風ニ所有者ノ權利ヲ尊重シテ居ルノデアアル、保安林トナツタ時ニハ無論樹木ノ皆伐、開墾及其他ノ作業ト云フモノハ出來ナクナルノデアアル、夫モ前ニ申シタ保安林ノ中ニモ禁止條項、制限條項ノ二ツアルカラ制限條項ノ方ハ矢張り縣知事ノ許可ヲ得レバ出來ルノデアアル、禁止條項ハ絶體ニ出來ナイ、保安林ト云フモノハ丁度砂防指定地ト同ジヤウナモノデアアル、然ルニ砂防指定地ノ取扱ヒノ方ガ今日ハ緩ノヤウニ見エテ居ルノハ縣ノ手が廻ラヌ

カラデアアル、砂防設備地ハ面積及範圍ガ廣イカラデアアル、本縣デハ砂防指定地及設備地ニ尙編入スベキモノヲ解除シテ保安林ヲ造リ水源涵養土砂打止ヲ勵行スル考デアアル、其他尙公有林ヤ私有林、社寺林ト云フヤウナモノニシテモ荒廢シツ、アルモノ或ハ荒レテ居ルト云フヤウナ所ハ主務大臣ノ許可ヲ得テ事業ノ方法ヲ講ズル事ガ出來ルノデアリマス、又荒廢シテ居ル所ヲ保安林ニ入レナンダ時ハ事業ノ方法ヲ指示シ命令ヲシテ行クノデアアル、其命令通りニ實行シナイ時ニ於テハ當局者ハ止ムヲ得ズ工事ヲドンク執行スルノデアアル、而シテ其工事ヲシタ所ノ費用ハ所有者カラ徵收スルノデアアル、徵收ニ應ジナイ時ニハ國稅滯納處分法ニ依ツテ徵收スルノデアアル、邦家ノ爲メニ斯ウ云フヤウナ嚴格ナル法律ガ出來テ居ルノデアリマス、夫デアアルカラ保安林ト爲スベキモノハ保安林トシテ其工事ヲスル方ガ所有者トシテ利益デアルノデアアル、何故利益デアアルカト云ヘバ保安林ハ工費ノ三分ノ二迄即チ三百圓懸レバ二百圓迄國庫ハ補助ガアルノデアアル、夫カラ自分ニテ經營シヨウトスレバ經營スル事ガ出來ル、故ニ經營ノ命令ヲ受クルノハ個人所有者トシテ利益デアアルノミナラズ治水上保安林ニ編入申請スル事ヲ御勸メ申スノデアリマス

時間モ切迫イタシマシタカラ大低ニシテ止メマスガ、私ハ何ウカシテ此荒廢地復舊工事ヲ施行スルコトニ就テ是非一度御話シタイト思ツテ居リマシタガ幸ニ講習會ガアリマシタカラ大低砂防工事ハ必要デアアル、保安林ハ國土保安上必要ナモノデアツテ法律上己ムヲ得ナイ事デアアル、其事業ヲスルニ就テハ事業ト云フモノハ何ウ云フモノデアアルカト云フ理由ヲ御話シタノデアリマス、本郡ノ男川村ノ工事モ少ナクモ今後十五六ケ年間ニハ殘テズ整理シ立派ナモノトシテサウシテ將來充分ナル收入ヲ得一方ニハ風水害ヲ防ギ土砂流出ノ害ヲ防ギ又一方ニハ充分ナル利益ヲ得ヤウ斯ウ云フヤウナ考ヲ有ツテ居ルノデアリマス、併シ色々ノ制限ヲ加ヘラレテ夫ダク不便デアアルガ國ノ爲メニ仕様ガナイノデアアル、ケレドモ何處迄モ利益ヲ害スルト云フ事ハ無クシテ今後相當ノ利益ヲ得ルヤウナ方針ヲ以テ經營シテ居ルノデアアルカラ此邊ハ誤解ノ無イヤウニ御承知置キテ願ヒタイノデアアル、夫デ人間ト云フ者ハ只自分ノ利益ノミヲ本旨

ニスベキモノデナイ、自分ノ慾バカリ考ヘルノハ人間ト云ハズシテ外ニ何トカ名ヲ付ケタ方ガ宜イヤウニ思フ、鳥ヤ獸デサヘ腹ノ空ツタ時ニハ物ヲ食フ咽喉ノ渴イタ時ニ水ヲ飲ムトイフヤウナ事ガアル、公利公益ヲ考ヘテコソ初メテ人間ノ値打ガアルノデスカラ公利公益ノ爲メニ働キ公利公益ノ爲メニ盡スト云フ事ヲ御願ヒシタイノデアアル、又終リニ臨ンデ御願ヒシテ置キタイノハ何時デモ私ハ口不調法ニシテ充分御話スル事ハ出来マセヌガ本日御話シタル所ハ自己ノ説テ無クシテ西洋、支那、日本ノ昔ノ偉イ人ノ説ヲ敷衍シタモノデアアルカラ材料ハ甚ダ立派ナモノデアアルト確信シテ居ルノデアアル、立派ナモノヲ諸君ニ提供シタデノアリマスカラ諸君モ村ニ歸ツテ色々仕事ヲ爲サル上ニ於テ料理ヲ上手ニシテ頂キタイ材料ハ良クモ料理ガ悪イト食ヘヌモノデアアル、此材料ガ諸君ノ料理方ニ因ツテ立派ニ食ヘルノデアアル、料理ノシヤウガ悪イト幾ラ立派ナ材料デモ食ヘナイ、何ウカ其邊ハ充分ニ御考ヘ置キテ願ヒマス、私ハ之ヲ失禮イタシマス。(完)

町村有林ノ經營ト種苗業者

(愛知縣丹羽郡種苗業組合第二回總會ニ於テ)

愛知縣林業技師 依田 貞 種

公有林ノ整理ト云フ仕事ガ、如何ニ重要デアアルカト云フコトハ、今更云フマデモナク、亦町村財産トシテ其公有林ヲ統一シテ之レニ依リテ生ズル利益ニヨリテ町村ノ經濟ヲ維持シテ行クト云フコトガ、色々ノ方面カラ調ベテ見テ、地方自治ノ經營上最緊要ノ事デアアルト云フコトモ今デハ誰モ疑ハヌトコロデア、我邦山林ノ中デ非常ニ荒廢シテキルノハ、コノ公有林即チ部落デ所有シテキル山林デアアル、ソコデ國家ハ地方ト協力シテコノ整理事業ヲ完成シ、一方ニ行政上ノ目的ヲ果シ次ニ造林上ノ計劃ヲ遂行シテ、

秃山ヲ化シテ美林ニスルノ大方針ヲ以テ、昨年アタリカラ着々ソノ調査ヲ行フテキル、ソレデソノ實行方法トシテ地方ヘ補助金ヲ交付シ、公有林整理ヲ行ヒ、之レニ造林スルモノニ對シテハ地方費ト相待テ補助金ヲ下付セラル、運ビニ到ツタ、コレハ公有林整理獎勵ノ一段ヲアツテ、今後十ケ年ハ少クモ繼續セラル、筈ニ開キテイル、コノ公有林整理ノ方法ヤ徑路ヲ今述ベヤウトスルノデハナイ、斯ノ如ク國家及各地方ガ攷々計劃シユク町村有林事業ト種苗業者トノ關係ヲ述ベテ、諸君ノ參考否ナ寧ロ諸君ノ奮勵ヲ乞ヒタイト思フ

町村ガ造林事業ヲ計劃スルハ、前申シタ通り國家經濟上地方自治上ノ大問題デアアル、コノ事業トシテ先ツ林地ガ確定スルト第一ニ生スル問題ハ造林用種苗デアアル。サアコノ種苗ハ云フ迄モナク造林事業ノ根本ヲナスモノデアアルカラ、町村トシテハ之レニ對シテ周到ナ且ツ綿密ナ注意ヲ拂ツテ、如何ニ種苗ヲ供給スベキヤヲ考ヘネバナラヌ、町村ガ考ヘルト同時ニ、ソノ監督者タル我地方廳ノモノ、其他當局者ハ之レニ就イテ十分ノ研究ヲシテ置カネバナラヌ、即チ先ツ第一ノ先決問題トシテ町村有林ノ經營ト種苗養成トノ關係ヲ次ノ數項ニ別テ見ル

- (一) 町村ニ自營ノ公設苗圃ヲ設置シテ種苗ヲ養成スルコト
 - (二) 町村内各戸ニ獎勵シテ種苗ヲ養成セシメ之レヲ買上クルコト
 - (三) 各戸ニ種苗ヲ養成セシムル爲メ町村役場ハ相當ノ方法ヲ設ケテ種子ヲ各戸ニ分與スルコト
 - (四) 町村ハ相當ノ方法ヲ設ケテ金錢ノ納付ノ代リニ種苗ヲ納付セシムルコト
 - (五) 小學校ノ附屬トシテ苗圃ヲ設置スルコト
 - (六) 町村内青年會ノ事業トシテ苗圃ヲ經營セシムルコト
 - (七) 種苗業者ヨリ種苗ヲ購入スルコト
- サテコノ七項ノ中、何レガ最モ町村ノ造林事業ニ適スベキヤヲ研究スルニハ、各種ノ方面カラ材料ヲトラネバナラヌガ要スルニ第一法(一)ハ直接町村苗圃經營、第二法(二)ヨリ(六)マテハ町村監督ノ苗圃經營

營、第三法(七)ハ商人ヨリ種苗ノ購入ト、大別スルコトガ出來ル
次ニ以上三種ノ方法中第一法ハ最モ理想的ノモノデアラガ公設方法ニヨルト苗木トシテ整一ナ良好ナモ
ノヲ得ラル、ガ、只完全ナ技術者ノナイ場合又ハ町村有林ノ小面積ナル場合ニハ、反テ不利不便ナ方法
ニナル

第二方法ハ其監督上ニ繁雜ナ手數ヲ要スルコトハ缺點デアラガ、其ノ遣リ方サヘ適當デアレバ、反テ第
一方法ニ優ル好結果ヲ擧ケルコトガ出來ル、苗木ノ整一モ左程困難デアアルマイ
第三法ナル購入方法ハ、町村トシテ手數ヲ要スルコトノ少ナイノハ誠ニ便利デアアル、代リニ良好ナ種苗
ヲ得難イノト、經濟上不利ナ恐ガアル

以上ハ、前述ノ町村有林ノ造林面積ノ大小、技術員ノ有無、信用アル種苗業者ノ有無ナトガ、之ヲ支配
スル主ナル原因ヲナスモノナルガ、要スルニ理論上カラ見レバ、之レヲ自治ニ就イテ云フモ又造林學ニ
就イテ云フモ造林地ト地味氣候等同一ニシテ、造林地ニ近接セル當該町村内ニ苗圃ヲ設置シテ、苗木ヲ
供給スルノハ直接又ハ間接ニ之レニ關スル智識ヲ町村住民ニ訓へ、其利益ヲ享有セシムル最良方法タル
ハ明カデアアル

第三法タル、種苗購入法ニ到リテハ、諸種ノ不利ガアル或ハ遠地ヨリ運搬スルタメ、自然ニ苗木ヲ弱ラ
シムルコト或ハ立地的關係ノ異ツタ地方カラ苗木ノ供給ヲ仰クハ、苗木自体ガ最初ヨリ造林上完全ナモ
ノテナイコト、或ハ種苗ノ如キ所謂際物ノ購入ニ有勝ナ、不良ナ商人ガ惡種苗ヲ賣リツケル、尤モ見本
ニハ仲々良好ノ種苗ヲ送ツテアルガ何分植林事業ハ時間ニ制限ガアル、春季ヲ逸シテハ一ケ年ノ間林地
ヲ空費セネバナラヌ殊ニ町村事業ノ如キデアアルト豫算ヤ何カイロイロノ面倒ナ關係モ伴フノデ、餘義ナ
ク不良ナ種苗デモ我慢シテ植エ込シマウト云フヤウナ結果ヲ來タス

ソレテ、要ルニ苗木ハ、先ツ特別ナル場合ノ外ハ成ルベク自營苗圃ニ於テ養成供給スルヲ理想トセネバナ
ラヌ、故ニ種苗業ト町村有林トノ關係ハ、コノ特別ナル場合ノ外連絡ガ少イト云フコトニ歸着スル。所

カ本多博士ノオ話ニヨルト歐洲最近ノ趨勢テハ種苗業ハ造林事業ト分業スルヤウニナツタ、即チ完全ナ
ル設備ヲ有スル大規模ノ種苗業者ガアツテ、信用アル取引ニヨツテ需用者ニ注文次第ノ善良ナ種苗ヲ完
全ナ運搬法ニヨリテ供給スルコトガ出來ルサウデアアル、スルトコノ問題モ論底ヲ動カサネバナラヌカモ
知レヌガ、然シ少クモ現狀ノ我國種苗業界及ビ町村經濟ノ狀況デハ、前述ノ結論ニ歸着スルコト、信ズ
ル

併シナガラ、コノ町村直營ノ苗圃事業ハ前述ノ如ク理想的トセネバナラヌガ事實容易ニ實行ノ出來ヌ場
合ガ多イシ、又小面積ノ町村事業モ多イノデアアルカラ、政府ガ町村林事業ニ非常ナル獎勵ヲ開始サレ、
又各府縣モ之レニ熱中シ、町村有志モ着々ソノ實行ヲ企劃シツ、アル今日ハ種苗事業者トシテハ決シテ
見逃カシテナラヌ時機ダト思フ。正ニ利用スベキ時機デアアル

元來町村事業ハ、其ノ性質上、計劃着手當時ノ成績如何ニ依テ、將來ノ事業ニ大影響ヲ有スルモノデア
ル。當初ノ成績ガ不良デアルト、氣拔ガシテ町村民ハ爾後熱心ニ仕事ヲセヌヤウニナリ折角ノ仕事モ、
メチヤメチヤニナルコトガ往々アル、造林事業モ苗木ノ不良ナタメ第一年ノ成績ガヨクナイト、アンナ
仕事ハ到底ダメダカラ止メタラバドウダナト云フヤウナコトヲ云ヒダス、コウナルト町村ノ如キ、議決
ニヨル機關ノ經費ヲ支配スル事業テハ、誠ニ都合ガワルクナリ、仕末ニテハナクナル、之レニ反シテ成
績ガヨロシイト、町村民ハ狂熱的ニ奔走スルヤウニナリ、從テ地元住民ノ植林熱モ加ハル、之レヲ供給
シタ業者ノ信用モ加ハツテクル、即チ私人經營ノ造林事業ニ大ナル賣込先キヲ得ルコト、ナル

デアアルカラ國家及府縣ガ協力デ大々的ニ、町村造林事業ヲ半命令的ニ獎勵シ始メルハコノ際デアアルカラ
種苗業者ハ緊揮一番、大ニ精勵シテ、國有林御料林以外ノ新方面トシテ、コノ好得意ヲ逃ガサヌヤウ所
謂商業道德ノ態度ヲ持シ、國家事業タルコノ町村有林ニ善良ナ種苗ヲ供給スルコトニ大ナル努力ヲ注イ
デ貫ヒタイト思フ

尙町村有林事業ト其種苗ノ關係ニ付イテ、他ノ方面カラ取調べタ事項モアルガ、營業者諸君ニハ關係ノ

樹木ト圖案

愛知縣林業技師 依田貞種

樹木ハ一本トシテ面白イモノデアアル、又並木ノヤウニ列狀ニナラフト、餘程模様風ノ面白味ガ出テタル又數十本數百本數千本ト、森林ノ狀態ヲナシタノハ、壯大ナ快イ感ガ生ジル、同一樹木デモ、一本ノ孤立樹トシテノ面白味ト、並木トシテノ面白味ト、森林トシテノ面白味トハ別々ノ興味ガアル

樹木ノ葉、花、果實、幹ハツレ單獨トシテ圖案ノ材料ニ使ハレテキル、今迄目ニシタ圖案トシテノ樹木ノ葉ハ潤葉樹ノガ多イ、檜、榿、公孫樹、槭、桐ナドハ普通我邦ニ於テ使ハレル樹葉デアアル。針葉樹ノ方デハ松、樅、檜ナドガ主タルモノデアアル。松ハ我邦デハオ目出度イコトニ用ヒルカラ、從テイロノニ之ヲ配置シテ模様風ニ一種ノ形式ヲ生ジテキル、花ハ草花ホドニ目ニ立タヌモノガ多イカラ、從テ用ヒラル、コトモ少イガ、然シ草ノ花ガ纖巧優美ナノニ比シテ、コレハ又豪壯雄大ノ美ニ富ミ、又酒脱ナルモノモアルカラ、圖案材料トシテ好個ノモノモ多イト思ハレル。從來ハ櫻、梅、椿、桐ナドガ主デアアル用フベクシテ閑却シテキルノハ葉トシテハ、朴デアアル。其ノ葉ハ極メラ雄大ナ趣味ニ富ンダモノデ、余ハ本邦産樹木中、雄大ヲ現ハス圖案的材料ニハ朴ニ越ス樹木ハナイト思フ。朴ノ木ハ寒帯又ハ温帯地方ニ多イ樹木デ暖イ地方ニハ餘リ見受クナイ。庭木ナドニ往々用ヒラレル、落葉喬木デ幹高五丈周圍八尺ニ達スルガ、葉ハ甚ダ大デ數葉互生、枝梢攢簇シテ生ジル。形ハ倒卵形デ尖リ長サ一尺五寸ニ達スル表面ハ滑カテアルガ、裏面ハ粉白色デ軟毛ガアル、葉ノ縁ハ鋸齒ニハナツテキナイ。葉全體トシテ波ノヤウナ反リガアル。新葉ハ帶紅色デアアル、葉脈ハ著シク明カニ翼狀ヲナシテ加モ葉脈ト葉脈ノ間ガ廣イカ

ラ、如何ニモ大マカナ感ガスル。朴ニ次イデハ辛夷ガ面白イ、又七葉樹モ面白イ、コノ二種ハ朴ニハ及バヌガ雄大ト云フ表象ニハ適シテ居ル。辛夷ノ方ハ多少支那ノ臭ガアルシ、七葉樹ハ野趣ノ氣ニ富ンデ居ルヤウデアアル。

杉ノ葉ヤ檜ノ葉ナドモコノ頃デハ少シ用ヒラレテキタガ、イヅレモ餘リ細カイ葉ノ構造ト、且ツ幾何學的配置ヲ欠イテ混雜シタ感ジノ多イ杉ノ如キハ模様トシテハ用ヒテモ用ヒ映エノシナイデアアル。然シナガラ杉ハ本邦有要樹木中ノ王デアアルシ、又外國ニ無イ樹木デアアルカラ、何トカ之ヲ圖案化シテ用イタイモノデアアル。尤モ杉ハ其ノ樹形トシテハ丈ケノ高イ梢端尖リテ圓錐體ヲナス具合カラ、昨今隨分用ヒラレテ居ル。本年ノ勅題社頭ノ杉トシテ、イロノノ方面ニ用ヒラレタガ、仲ニハ面白イノモアツタ

近頃デハ雜木ナドノ葉ヲ用ヒラレル場合モナイデハナイガ、其ノ中デ、榛、柳、掬、榿、雲葉ナドハ隨分オモシロ味ガアル。一體、葉ハ左右相稱ニ對生シテ居ルモノ、植物學上ノ對生單葉又ハ對生複葉ハ圖案トシテ取扱ハレ易イ。互生葉ハ何トナク形ニ於テ整ヒニクイ点ガアルヤウニ思フ。對生葉ハ胡桃、漆、ぬるで、はせ、ナドノ紅葉トシテノ面白味カラ云ツテモ圖案家ノ垂涎スベキ樹葉ト信ジルガ、餘リ用ヒラレテ居ナイ

又葉ノ縁ノ鋸齒ニ面白味ノアルモノモアル、鋸齒ハアマリ細イモノヨリハ粗イモノガヨイ。榿、檜、ナドガ多用ヒラレルノハ葉縁ノ面白味カラデアアル

葉ノ脈ガ明瞭ニ現ハレテ居テ且ツソノ脈狀ノ面白イモノハ、朴、辛夷、掬、樟ナドデアアル。針葉樹ノ方ハ葉縁ヤ葉脈ヤ葉ノ配置ニ就イテハ全ク關係ガナイカラ、其ノ葉ノ大サヤ葉ノ色ナドニ面白味ヲ得ルニ適ヤヌ

又新葉ヤ紅葉ノ特ニ著シイ色彩ヲ有シテ居ルモノハ昔カラ模様ニ用ヒラレテ居ル草花ノ花ニ近頃ハ在來ノ日本産以外ニ名モ知ラヌ外國産ヲ好ンデ使用スルヤウニナツテキタ。然ルニ樹

木ノ花ニハ外國産ヲ用ヒルコトガ殆ドナイ。ソレハ不思議デモナンデモナイノデ、元來樹木ノ種類ノ豐富ナノハ世界中日本ヲ以テ第一トスル。日本ニハ千有餘種ノ樹木ヲ有シテ居ルガ、ソノ中人ニ知ラレテ居ル種類ガ二百種カラアルノデ、從テ各種ノ趣味ヲ有スル花ヲ之ニヨリ捉ヘ來ルコトガ出來ルノデアル外國産ハ樹木ノ種類ガ少イカラ、花トシテモ別段之レゾト云フノガナイノデアル、獨逸ガ世界ニ於テ有名ナ森林國デアルガ、樹木ノ種類ハ僅カニ二十種ホドニ過ギス
普通用ヒラレル樹木ノ花ノ以外ニ、吾々ノ目ニ之ハ圖案ニ用ヒ模様ニ使ツタナラバ面白カラウト思フノハ左ノ各種デア
辛 夷 (三月開花)
合歡木 (七月開花)
馬醉木 (四月開花)
木 蓮 (三月開花)

果實ノ面白イ形状色彩ヲ有シテ居ルモノハ多數アルガ、一般ニ針葉樹ノ果實ハ高雅幽栖ノ趣ガアル。例ヘバ松、樅、杉、檜等何レモサウデア。中ニモ「たけのみ」ヤ、「しらべ」ナドノ果實ノ毬果ノ暗褐色又ハ青白色ノ鱗片ノ間ニ白色ノ樹脂ノ膜ノ如ク吹キ出シタ状ハ超俗ノ味ニ富ンデキル
少シ質素デ淋シイガ樺木科ノ樹木ノ果モ一寸野趣ガアル、栗ヤ椎ヤ檜ヤ櫟ノ如キ殼斗科ノ果實ハ、其果實モ、殼斗モ種類毎ニ各別ノ面白サガアル。近頃木工品ノ象徴ナドニ用ヒラレテ居ルガイヅレモヨク模様トシテ消化シテ居ル。朴ノ實ハ長サ四五寸龍大ナモノデ色モ赤味ガアツテ面白イ。荳科ニ屬スル樹木即チ、合歡木、皂莢、槐、ナドハイヅレモ好イ。同科ノ草本植物ノ果モ總ベテ面白イガ、木本ノ方ハ大キイノト、一寸間ノ拔ケタトコロニ味ガ多イノデア
械樹科ノ木ハ何レモ形ノイ、果實ヲ有シテ居ル。ソレハ翅ニ面白イ風情ガアルカラデア。コノ頃デハ少シ使ハレテキタ。珊瑚樹ノ赤イ實モ面白イ
樹體ノ形状、云ヒ換ヘレバ葉、枝、幹ヲ總合シテ、之レ等全體ヲ合セテノ形状ノ上カラ樹木ヲ論ジテミ

ルト、針葉樹ト闊葉樹トノ間ニハ圖案趣味上劃然タル區分ガアルノデ、前者ハ、葉モ枝モ幹モ、スベテ直線ノ趣味ニ富ンデ居ル。從テ簡明、清酒、豪宕ノ味ガ多イ、後者ハ葉モ圓味ガアリ、枝モ屈曲ガアリ幹モ分岐又ハ屈曲シ、主トシテ枝下ハ針葉樹ヨリモ短カイ。ソレデ曲線ノ趣味デ、複雑、纖巧、優美ノ味ガ多イノデア
針葉樹ノ中デモ、杉ハ圓錐形デ丈ケ高ク、檜ハ之ニ次ギ、樅ハ稍圓筒形ニ近ク、松ハ傘形ヲナシテ居ルコレ等ノ特徴ヲ巧ニ用ヒタナラバ面白イ圖案ヲ得ルノハ容易デア。闊葉樹ハ幹ガ分岐シテ枝ト幹トヲ區分スルコトノ難イ種類ガ多ク、灌木類ニ至ルト殆ト全体ガ球狀ニナツテ居ルノモアル。故ニ之レ等ノ点カラ推シテ、余ハ闊葉樹ハ一本ノ樹木トシテ最モ圖案化サレ易ク、針葉樹ハ列狀ノ並木、又ハ森林トシテ整一ノ美觀ヲナスモノデアルト云ヘヤウト思フ
次ニ、樹木ニハ本來ノ性質トシテ、陽光ヲ最モ生育上必要トスル種類、之レヲ學術上陽樹ト呼ブ、之ハ樹葉ガ陽光ヲ十分ニ受クル必要上葉ノ數ハ割合ニ少ク日陰ニモ堪エウル樹木即チ陰樹ハ、ソノ森林モ暗ク且ツ葉ノ數モ多イ。從テ圖案上ニ用ヒラル、際ニモ兩者夫々ニ對シ多少ノ用意ガナクテハナラス
葉ノ表ト裏トノ両方ガ著シク色ノ異ル種類ハ葉ノ形状ハ左迄面白クナクトモ、圖案上ノ興味ガアル。又尤澤ノ著シイ葉ヤ、疎面ナ葉モ面白イ、樹幹ニ色ノアル梧桐ヤ、樹幹ガ平滑デ光ノアル樺、櫻ナドハ其樹皮及皮目(樹皮ノトコロ)ニアル小イサイ切目)ニ天然ノ模様ガ見出サレテクル
我々ノ目ニ止マル樹木ノ圖案デ、本邦ニ古クカラ在ル面白イ一例ハ、能舞臺ノ鏡板ニ描カレタ松デアアルアレハ隨分豪放ニ描カレテ心地ヨク、且ツソノ前方デ行ハル、幽玄ナ能樂ヤ、古雅ナ滑稽ノ狂言トノ間ニマコトニ面白イ調和ヲ見出シ得ルノデア。若シアレガ、山水ノ畫トカ、草花トカ禽獸トカ人物トカヲ描イテアルカ、又ハ樹木ニシテモ他ノ種類デアツタナラ、迎モアレダケニハユクマイ
圖案ニ用ヒラル、材料ハ實ニ多種多樣デアアルガ、天然物ヲ寫生シテ用ヒタリ想化シテ用ヒタリスル場合ニ草類ハ從來多ク用ヒラレテ居ルノニ、之ニ反シテ樹木ハ、ソノ使用ノ範圍極メテ狭イノハ甚ダ遺憾ナ

コトデア

西洋デハ樹木ノ種類ガ少イカラ、從テ圖案材料トシテモ少イノハ當然デア、ソレデモ西洋種ノ圖案ニハ割合ニ多ク用ヒラレテ居ル。西洋家具類ナドニ往々見受ケルノデア。我邦ハ世界ノ森林國デ、樹木ノ豊富ニシテ、各種ノ趣味ニ適シタ材料ガ多イノハ、圖案家ニトリテ天與ノ幸ト云ハネバナラヌ。余ハ圖案家ガ樹木、森林中ニ其材料ヲ捉ヘ來ツテ、我邦圖案ニ新方面ヲ開クコトヲ勸メルノデア

御即位紀念事業桐樹栽植

産業組合中央會愛知支會

宅地ノ空地ニ桐樹ヲ植栽スルコト

農家ノ宅地整理ハ、近來農村經營上ノ重要問題トシテ唱導セラレ、已ニ之ヲ實行セルモノ少ナカラズ。海部郡鎌島信用組合ノ如キ其ノ一例ニシテ、宅地内茫々タル雜木ハ何時シカ艶麗タル花壇、累々タル果園ト化シ、趣味經濟ノ兩立ヲ圖レルガ如キ、最モ稱揚スヘキコトニ屬ス。支會ガ茲ニ一般組合員ニ推獎セントスル桐樹栽植ノ如キ、必ズシモ唯一無二ノ紀念事業トハ云ハサルマデモ、相當確信ノアリテ存ス。乃チ多少餘地アル農家ノ屋敷ヲ始メ、道路端、堤塘、山麓等ノ空地又ハ不毛地ニ、一本乃至數本ノ桐苗ヲ栽植スルコトハ、蓋シ策ノ得タルモノニアラサルナキカ。桐ハ後段説ク如ク、工藝用材トシテ重用セラレ、而カモ其ノ栽培簡易ニシテ、且ツ生長力最モ早ク、宅地内等肥料充分ナル孤立木ニテハ、一年一本一圓宛ノ材價ヲ生長スト云フ。今仮リニ縣下三萬人ノ組合員ガ、平均各三本宛ヲ植ヘタリトシ、此ノ割合ニテ生長スルモノトセンカ、一ケ年實ニ九萬圓ノ遺利ヲ收拾スル計算ナリ。是レ蓋シ平均生長

量トシテハ、誇大ニ失スルノ嫌アルガ故ニ、之ガ半額ト見積ルモ、尙且ツ四萬五千圓ニシテ、遺利トシテハ侮ルベカラザルモノナリ。若シ之ヲ以テ縣下貳拾壹萬ノ農家ニ及ボスモノト仮定センカ、實ニ年々參拾有餘萬圓ノ巨額ノ遺利ヲ拾得スルコト、ハナルナリ。殊ニ桐花ハ畏レ多クモ皇室ノ御紋章ナルヲ拜伺シ奉リテ、愈之ヲ推獎セントス。忠良ナル組合員諸子ヨ、斯クモ由緒アリ利益アル桐樹ヲ栽植シ、朝ナタナ其ノ生育状態ヲ見テ樂ム毎ニ桐ノ御紋章ヨリ想到シテ明治天皇陛下ノ産業組合ニ對シ、特ニ優渥ナル御沙汰ヲ下シ賜ヒシ、至仁至慈ノ御遺徳ヲ偲ビ奉リ今上陛下ノ大正昭代ニ於ケル御盛徳ノ、廣大無邊ニシテ窮リナキヲ祝キ奉リテ、益國本ノ培養ニ力ヲ輸タシ、推讓ノ美德ヲ發揚シ、赤臣ノ本分ヲ全フシ、以テ聖恩ノ萬一ニ報スアラハ、天下ノ美事何物カ之ニ加ヘン。單簡ナル桐ノ一樹ヨリ齋ラス直接間接ノ功德亦實ニ偉大ナリト謂ツベキナリ

優良組合ノ聞ヘ高キ、葉栗郡葉栗信用購買組合ニテハ、五百名ノ組合員ニ、一本以上ノ桐苗ヲ宅地内ニ植栽シテ、植栽當時五ケ年間ハ、毎年生育狀況ヲ巡回審査シ、其ノ優良ナルモノニハ相當授賞スルノ計畫アリ、實ニ機宜ニ適シタリト謂フベシ

購買組合ニテ苗木ヲ購入(中島郡千代田村明治村地方ニテ生産ス一本ノ代價約三錢内外)シテ、組合員ニ分配シ栽植セシムルハ、最モ易々タル方法ナリ。其他ノ信用、販賣、生産等ノ組合ニ在リテハ、定款ニ規定シタル當面ノ事業ニアラサルモ、便宜此等ノ事業ヲ斡旋スルハ、大ニ希望スル所ナリ。斯クテ多數ノ組合ガ、一時ニ購入ヲ企ツル時ハ、直ニ價格昂騰シ、而カモ供給之ニ伴ハザルヤモ計リカタシ。故ニ、先ヅ組合附帶事業トシテ苗木ヲ育成シ、之ヲ組合員ニ分配スルコト、セバ、栽植ノ時季一ケ年遅延スルモ最モ安全ノ策ナルベシ

以下桐樹栽培ニ關スル一班ヲ列記シ、特ニ之ガ實施ヲ望ムコト切ナリト雖モ、前述セル如ク、素ヨリ是レ絶對ニ強フルニアラズ、土地ノ狀況ニ依リ或ハ桐樹以外ニ恰適セル柑橘果樹其他ノ樹種アラバ、之ヲ栽植スルモ可ナルベク、或ハ他ニヨリ以上ノ紀念事業アラバ、之ヲ採擇實施スベク、要ハ全組合員全

一致、千歳一遇ノ御即位ノ大典ヲ奉祝シ、敬虔ノ誠ヲ盡シ、慶賀ノ至情ヲ表スルト共ニ、前述ノ趣旨ニ依リ、地方絶好ノ紀念事業ノ實施ヲ望マントスルニ在ル而已

桐樹栽培法

一、性質及適地

桐樹ハ、玄參科ニ屬スル落葉喬木ニシテ、東洋ノ特産ナリ、幼時生長力ノ大ナルコト他樹ニ冠タルモノニシテ、殊ニ之ヲ伐レハ、尙早ク生長スル故、キリノ稱アリ其ノ切株ヨリ萌芽樹ノ如キハ、一年生ニシテ腕大ニ至リ、高サ一丈余ニ達シ、三年目ニハ二丈余ニ生長シ、年々幹圍四五寸宛増大スルモノアリ、然レドモ、二十年生以上、若ハ周圍四尺以上ニ至レハ、其ノ生長力著シク減少ス桐ハ一種獨特ノ材質ヲ有シ、琴瑟、箏箏、篋、長持、机、箱類、枕、木履等、種々ノ工藝用材トシテ重用セラル、其ノ一ケ年需用數量、東京、大阪、京都、名古屋ノ四大都市ニ於ケル分ノミヲ見ルモ、實ニ左ノ如ク驚クベキ多額ニシテ、將來、益々需用ヲ増加スルニ拘ハラズ、之カ生産ハ漸次減少スルノ傾向ナルハ、最モ遺憾トスル所ナリ

市名	種目	數量	金額
東京	下駄用材	一一、〇六七、〇〇〇	八三〇、〇〇〇
	器具用材	二、七〇〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇
大坂	下駄用材	七、六二七、〇〇〇	五七二、〇〇〇
	器具用材	一、八二五、〇〇〇	一八二、五〇〇

京都
名古屋

總計

下駄用材	三、〇〇〇、〇〇〇	二二五、〇〇〇
器具用材	七三〇、〇〇〇	七三、〇〇〇
下駄用材	五、〇〇〇、〇〇〇	三七五、〇〇〇
器具用材	七三五、〇〇〇	七三、五〇〇
下駄用材	二六、六九四、〇〇〇	二、〇〇二、〇〇〇
器具用材	五、九九〇、〇〇〇	五九九、〇〇〇

備考

一才ハ一寸角長サ六尺五寸ノモノヲ云フ
古來我國ニ於テ良材ヲ産スルハ、下野、武藏、丹波、丹後、陸前最トシ、岩代、信濃、越中ニハ其ノ野生少ナカラズ、之カ栽培ハ全國ニ亘リテ多少行ハルト雖モ、其ノ適地ハ、我國森林植物帶中、暖帶北部ヨリ温帶南部ニ位シ、土地乾燥シテ水ニ遠ク、且ツ西日ノ當ラサル所ヲ好ミ、濕地ニ於テハ虫害其他病害ニ罹リ易シ。但シ水ノ透通良好ナル適潤ノ地ニハ最モ克ク成長スレドモ、水ノ停滞セル濕地ニハ、生育スルコト難ク、普通ニ畑地又ハ宅地ノ周圍、若クハ茶園ノ間ニ植栽セラル、モノ多ク、砂質壤土ノ肥沃地ヲ以テ、最モ適當ナルモノトス
桐樹ニハ、紫花ト白花トノ二種アレドモ、白花ノモノハ紫花ノモノニ比シ、其材質不良ナルノミナラズ、中心ニ大ナル空髓ヲ有ス

二、種子及發芽

五月上旬、葉ニ先チテ開花シ、九月下旬ニ於テ、種子成熟ス、細粒ニシテ極メテ輕ク、一升ノ重量四十五六匁ニシテ、粒數約百萬ヲ算ス、發芽力ノ保存ハ一ケ年ニシテ、其發芽歩合、室内ニ在リテ九割ニ及ブコトアルモ、苗圃ニ在リテハ六分ニ過キサレコトアリ、發芽後ト雖モ枯死スルモノ多ク一升ノ種子ヨリ三千本ノ苗木ヲ得ルコト容易ナラズ、若シ、其管理當ヲ失フトキハ、一本ノ苗木ヲモ得ル能ハサルコト稀ナリトセス、從テ播種法ニ依リテ、苗木ヲ仕立ツルハ、殆ド不可能ニシテ、

三、繁殖法
主トシテ分根法ニ據ルヲ常トセリ

繁殖法ニハ、播種、根分、挿木等行ハルト雖モ、前述ノ如ク分根法最モ容易ニシテ且成績佳良ナリ即チ秋季落葉後(十一月中旬ニシテ降霜前ヲ可トス)、直徑三寸乃至一尺ノ母本ヲ選ヒ、其根元ヨリ一二間隔リタル所ヨリ地面ヲ掘リ起シテ其上根ヲ探シ、直徑二寸以下小指大ノモノヲ掘リ取り、之ヲ五六寸ノ長サニ切斷シテ、數日間日乾トナシ、其半乾キトナリタルモノヲ、南面セル土堤下ノ如キ、乾燥良キ場所ヲ選ビテ横空ヲ穿テ、其内ニ斜ニ立テ、詰メ込ミ、其入口ヲ塞キテ貯藏スベシ。翌春四月中旬、(彼岸頃)之ヲ掘リ出シ、(此場合發芽シタル小芽ヲ搔カサ、ル様注意スベシ)一尺八寸乃至二尺五寸巾ノ畦ニ、一尺毎ニ太キ方ヲ上ニシ、北方ニ斜ニ植エ、少シク土ヲ置テ輕ク壓フヘシ。若シ旱天連日ニ亘ルトキハ、夕方適度ノ灌水ヲ怠ルベカラズ。新芽二三寸ニ伸長シタルトキハ、其内最良ナルモノ一本ヲ殘シ、他ハ之ヲ搔キ去ルベク、然ルトキハ、其年内ニ三四尺ノ成長ヲナシ、苗圃一畝歩ニ付、約三百本ノ苗木ヲ得ヘシ。苗ハ其ノ丈ケ低ク、太クシラ且遲シキヲ可トシ、普通、長サ二三尺、中央ノ直徑五分乃至八分位ナルヲ以テ、最モ良好ナルモノトナセリ。苗圃ハ乾燥充分ナル土地ヲ可トスレトモ、砂土ハ成ルベク之ヲ避クルヲ可トス。肥料ハ大豆粕、人糞尿、堆肥等ヲ追肥トシテ施與シ、原肥ハ之ヲ用ヒサルモ可ナリ、而シテ其施肥量ハ、地味、土質等ニ依リ一定難シト雖モ、前記肥料ヲ便宜施スモノトシテ、此見積額、一畝歩ニ付約一圓五十錢内外ヲ要スベシ。今縣下、中島郡千代田村附近ニ於ケル、苗木栽培家ニ就キ調査シタル、苗圃一畝歩ニ對スル收支概算ヲ參考トシテ左ニ示サン

收入ノ部

一、苗木二百十本 此代金六圓參拾錢 (一畝歩ニ付三百本ヲ植付ケルモノトシ内約三割ハ枯死又ハ不真苗トナルモノト計算ス)

支出ノ部

- 一、地代 金貳圓參拾四錢
- 一、根代 金七拾五錢
- 一、肥料代 金壹圓五拾錢
- 一、人夫賃其他 金壹圓拾錢
- 合 計 金五圓六拾九錢
- 差引金 六拾壹錢
- 純益

四、培用及管理

植付ヲナサントスルニハ、秋季落葉後苗木ヲ掘リ取り、其根ヲ五六寸ノ長サニ切り詰メ、苗ヲ一所ヲ集メテ稍々深目ニ仮植シ置キ、翌春發芽前ニ定植スベシ。此場合切り捨テタル根ハ、各六七寸ノ長サニ切りテ之ヲ貯藏シ、以テ苗木繁殖ノ用ニ供スルコトヲ得ベシ。植付ケタル翌春發芽前、又ハ其秋季落葉後、根元ヨリ二三寸上部ニテ臺切ヲナスコトアリ、(植付後三年目ノ秋彼岸前後、又ハ四年目ノ春季發芽前ニ、臺切ヲナス地方アリ)若シ秋季臺切ヲナシタル爲メ、切株ノ氷凍スル虞アル地方ニ於テハ、特ニ冬間土ヲ臺木上ニ三四寸盛り上ケテ保護シ、翌春發芽前ニ至リテ其土ヲ除去スルヲ可トス。臺切ヲナストキハ、數多ノ萌芽叢生スヘキニ依リ、其中發育最佳ナルモノ一本ヲ殘シ、他ヲ搔キ去ルヘシ。斯クテ殘サレタル一本ノ萌芽ハ、其年ニ長ク一丈前後ノ肥大幹トナルモノナリ。若シ臺

切後ノ萌芽發育不良ナル時ハ、其秋季又ハ翌春、更ニ第二回ノ臺切ヲナスコトヲ要ス。但シ、植付
后、苗木ノ生長良好ナル場合ニ於テハ、殊更ニ臺切ヲナスノ要ナキモノトス
桐樹ヲシテ成ル可ク早ク生長セシメンガ爲ニ、梅雨前ニ干鰯、大豆粕、人糞尿、木灰、厩肥、堆肥
等ヲ施ス所アリ。又間作トシテ樹下ニ農作物ヲ栽培スルトキハ、其ノ根ヲ害セザル限リ、却テ桐樹
ノ生育ニ良果ヲ生スルモノナリ。彼ノ茶園又ハ農圃ニ疎植セラレタルモノガ、却テ其生長速カナル
ハ、吾人ノ屢々實見スル所ナリ

桐樹ノ伐期ハ、下駄用材ニ在リテハ、臺切後十年前後ヲ以テシ、箆筒、長持其他工藝用ノ大材ヲ要
スルモノニ在リテハ、十五年乃至三十年ヲ要スベシ。伐採季節ハ秋ヨリ翌春新芽ノ發生スル迄ナル
モ、二月上旬ヨリ三月中旬迄ヲ以テ最モ適當ナリトス

斯クテ翌春切株ヨリ萌芽スル新芽中、良好ナルモノ一木ヲ殘シ、漸次生長スルニ從ヒ、數多ノ横芽
ヲ生スベキヲ以テ、六尺五寸乃至九尺五寸以下ノ側芽ハ、悉ク之ヲ掻キ取り、枝下ヲ長カラシムル
コトヲ要ス。然レドモ、摘芽ノ時期ヲ失シ、既ニ太キ枝トナリシモノニ付テハ、決シテ之ヲ掻キ取
ルベカラズ、是レ其切口ヨリ腐敗スルノ患アレバナリ

第一回ノ伐採後ハ、切株大トナリ、萌芽ノ生長力強大ナルヲ以テ、第二回目ノ伐期ハ第一回ノモノ
ニ比シ、二三年早ク之ヲ行フモ同大ノ材ヲ得ルコト難カラズ。斯クテ五六回ノ更新ヲ重スルトキハ
根株ハ老朽シ、萌芽力極メテ微弱トナルベキヲ以テ、新臺木ト植替ヲナサ、ルベカラズ、桐樹ノ諸
害中主ナルモノハ、天牛、介殼虫、啄木鳥、兔、鼠等ナルガ、天牛幼虫、即チ鐵砲虫ヲ除キ、其被
害著シカラズ、若シ此害虫ニ侵アル、トキハ、孔ニ鐵線ヲ通シテ之ヲ殺シ、又ハ擔俵ヲ幹部ニ纏ヒ
若クハ硫黃、除虫菊ヲ孔中ニ燻ラシメ、或ハ時ニ粘土、味噌ヲ以テ其ノ孔ヲ塞ギ、蟲ヲ窒息セシム
ル等ノ驅除法ナキニ非スト雖モ、石油ヲ水ニ混シテ注入スルヲ最モ便ナリトス
尙濕地ニ在リテハ其生長不良ニシテ、種々ノ病害ニ罹リ易キコト前述ノ如シ、又風害ニ因リ根倒レ

折損等ヲ生スル虞アルヲ以テ、相當ノ設備ヲスヘク、且西日ヲ受クル場所ハ、皮燒ノ害ヲ蒙リ其材
質ヲ不良ナラシムルヲ以テ、西方ニ杉其他ノ林套ヲ設クルカ、又ハ藁ノ類ニテ其幹部ヲ包ムヲ可ト
ス

(産業組合指示事項)

愛知縣植物志料第二編

○ *Carex foliosissima* Franch.

みやまかんすげ

根莖ハ太クシテ斜ニ伸ヒ、黒褐色ノ鞘ヲ以テ被フ。稈ハ多數ニシテ側生シ、五寸—一尺餘、細クシテ、暗ニ三稜ヲナシ、平滑ナリ、基部ニハ短キ葉アリテ被フ。裸葉ハ稈ヨリ長ク、幅一分五厘—三分、扁平ニシテ、短キ鋭尖頭ヲナシ、上部ハ粗糙ニシテ、淡綠色、硬強ナリ、鞘ハ黒褐色ナリ。小穂ハ四—五個ニシテ隔在シ、頂生ノ雄性小穂ハ圓柱形時ニハ略棍棒形、長サ七分—一寸二分ナリ、而シテ側生ノ三—四個ハ細キ圓柱形長サ五分—一寸許、疎花ニシテ、長キ梗アリ、直立ス。苞ハ長ク鞘狀ヲナシ短キ葉片ニ於テ終ル。雌花ノ鱗苞ハ倒卵形ニシテ頂端ハ截形、時ニハ凹形、淡黃褐色若クハ黃褐色若クハ全ク汚白色、背ハ綠色ニシテ三脈アリ、微凸頭ヲナス。果壺ハ微ニ鱗苞ヨリ長ク、略直立シ、膜質ニシテ、略倒卵形—橢圓形三稜、長サ一分許、淡綠色、微ニ密軟毛アリ、若クハ後ニ至リ無毛、多脈ニシテ漸ク細ク長キ柄ヲナス、嘴ハ短キ若クハ適度ノ圓錐形ヲナシ、往々外曲ス、孔ハ透明ニシテ漸ク輕微ノ二齒ヲナス。瘦果ハ密ニ閉居シ、卵形ニシテ頂端緊縮シ寬キ環ヲ冠ス。花柱ハ基部太シ。—果實ハ五月下旬熟ス。—第八圖版。

本種ハ山地ノ林下ニアリ、縣下北設樂郡田口、下黒川。八名郡阿寺
此種ノ分布ハ本州ヨリ四國九州北海道ニ及ヘトモ滿州朝鮮ニ達セス

○ *Carex Morrowii* Booth.

かんすげ

根莖ハ密ニ葉ヲ叢生シ細キ匍枝ヲ生ス。稈ハ側生シ高サ五寸—一尺ニシテ細ク、壓扁シ、平滑ニシテ、下部ニハ短キ葉アリ。裸葉ハ稈ヨリ長ク幅一分—三分五厘餘、扁平ニシテ、短キ鋭尖頭、淡綠色、硬強ナリ、鞘ハ黑色—褐色ナリ。小穂ハ四—五個ニシテ隔在ス、而シテ頂生ノ雄性小穂ハ略棍棒形—圓柱形ニシテ長サ七分—一寸二分ナリ、側生ノ雌性小穂ハ三—四個、圓柱形、長サ五分—一寸、略密花ニシテ梗アリ、直立ス。苞ハ長ク鞘狀ヲナシ、短キ葉片アリ。雌花ノ鱗苞ハ披針形—卵形、鋭尖頭若クハ截形ニシテ黃褐色又ハ略汚白色、背ハ綠色ニシテ三脈アリ、微凸頭ヲナス。果壺ハ稍鱗苞ヨリ長ク、後ニ至リテ開展ス、膜質、卵形ニシテ稍脹レテ三稜、長サ一分許、表稈色—綠色、無毛、多脈ニシテ基部縮小シ斜ナル柄ヲナス、而シテ頂端ハ長キカ又ハ適度ナル略圓錐形ノ嘴ヲナシ、往々外曲ス、縁ハ時ニ微ニ粗糙ニシテ、孔ハ稍急ニ大ナル二齒ヲナス。瘦果ハ密ニ閉居シ、長橢圓形—卵形ニシテ側面ニ凹窪アリ、頂端ハ頸ニ於テ低キ環アリ。柱頭三個ナリ。—果實ハ五月熟ス。—第九圖版1—6

本種ハ山地ノ林下ニアリ、昔ク本邦ヲ通シテ分布シ又樺太ニ産ス。縣下東加茂郡金藏連。北設樂郡横川此種ハ安政年間米國ヘルリ提督來朝ノ際豆州下田邊ニ於テ採集シ英國Boott氏(in Gray Pl. jap. p. 326)ノ考査ヲ經テ始テ世ニ出テタル者トス、後ニ至リテFranchet氏ハ此種ニ種々ノ變体アルヲ發見シ之ヲ載籍(Franch. et Sav. Enum pl. japon. II. p. 145 et 572; Franch. in Nouv. Arch. Mus. Paris 3. ser. x. p. 43)セシニ近時Kuekenhal氏ハ覆審ノ上之ヲ二品ニ變種ニ收メ氏ノ著Oyperaceae—Carioideae p. 626(in Engl. Pl. Reich IV. 20)ニ載ス、二品トハ其一即新潟ニ産スト稱スル forma 1. virginica Franch. et Sav. ト其二即又同處ニ産スル forma 2. nigritensis Franch. et Sav. トナリトス、而シテ此二品ハ未タ之ニ接スルノ好期ヲ得ス、次ニ二變種トシテ var. *B. crassicaulis* Franch. ト var. *J. yosanensis* (Fr.) Kuekenh. トナリトス、而シテ其一 var. *B. crassicaulis* Franch. ハ名稱ノ示ス如ク素ヨリFranchet氏ノ變種ト考定セル者ニシテ、其二 var. *J. yosanensis* (Fr.) Kuekenh. ハ始メ氏ハ之ヲ種ナリト考定セルモ Kuekenhal 氏ハ之ヲ一變種ト更正セル者ナリ、此二變種ハ從來邦人ニシテ未タ採集セル者ナク若シ在リトスレハ恐ラクハ

かんすげト混視スルナラン、從テ和名ノ存スルヲ知ラス、故ニ通俗ニ便ナラシメント欲シ新ニ var. *B. crassicaulis* Franch. ニハおほかんすげ var. *J. yosanensis* (Fr.) Kuekenh. ニハおほかんすげナル和名ヲ附シ、次條ニ掲ケントス

Var. *B. crassicaulis* Franch.

おほかんすげ

稈ハ高サ一尺三四寸ニシテ太シ。葉ハ常ニ幅三四分(六七分ニ達スルモノアリト)、厚クシテ極メテ剛強ナリ。雄性小穂ハ長サ二寸餘、雌性小穂ハ長サ一寸三分ニ達ス。果壺ハ長キ嘴アリ。果實ハ五月成熟ス—第十圖版

縣下北設樂郡大名倉、本郷。南設樂郡豊岡。縣外ニテハ北海道ニ産ス

Var. *J. yosanensis* (Fr.) Kuekenh.

おほかんすげ

果壺ハ球形ニシテ長嘴アリ急ニ緊縮ス、鋭齒アリ。—果實ハ五月熟ス。—第九圖版7—10
縣下八名郡大野。縣外亦北海道ニ産ス

○ *Carex Idzuroei* Franch. et Sav.

うまさげ

根莖ハ匍枝ヲ有ス。稈ハ高サ一尺三寸—一尺八寸ニシテ、硬強、三稜、平滑ニシテ葉アリ。葉ハ稈ヨリ長ク、幅一分五厘—二分、扁平、鋭尖頭ニシテ、隔障—節目アリテ、略硬強ナリ、而シテ下部ノ鞘ハ紫色ナリ。小穂ハ四—五個ナリ、上部ニアル—二個(多分ハ一個)ハ雄性小穂ニシテ線形、長サ七分—一寸二分餘ニシテ、頂生ノモノニハ梗アリ、下部ニアル三—四個ノ雌性小穂ハ長橢圓形、長サ六分—一寸餘、幅三四分、略密花ニシテ、總テ隔在シ、梗ナク、若クハ下部ノ者ニハ短梗アリ、直立ス。苞ハ葉狀ニシテ花序ヨリ長ク、寧微ニ鞘アリ。雌花ノ鱗苞ハ披針形—卵形ニシテ濁麥稈色ナリ、背ハ綠色ニシテ

三脈アリ、中脈ハ粗糙ニシテ、銳尖頭ニハ小鋸齒アリ。果壺ハ鱗苞ニ超ユルコト二倍ニシテ斜ニ開キ、略革質、卵形—圓錐形ニシテ脹レ又三稜ヲナシ、長サ三分餘、褐色—オリーブ色、無毛、多脈ニシテ柄アリ、而シテ頂端ハ漸次長クシテ廣キ圓錐形ノ嘴ヲナシ、縁ハ平滑、孔ハ透明ニシテ粗大ナル二齒ヲナス。瘦果ハ果壺ヨリ甚短ク、卵狀三角ニシテ、側面ハ略凹形ヲナス。花柱ハ強クシテ永存シ、眞直ナリ頂端ハ三柱頭ノ下ニ於テ太シ。—果實ハ五月下旬ニ熟ス。—第十一圖版

本種ハ沼地ニアリ。縣下幡豆郡貝吹、萩原、大和田。本邦ニ在テハ武藏、常陸及ヒ蝦夷ニ分布シ、支那ニ在テハ上海ニ産ス

○ *Carex Gaudichaudiana* Kuekenh.

根莖ハ匍枝ヲ有ス。稈ハ高サ一尺—二尺、細ク、三角ニシテ、頂端ハ稍粗糙ナリ。葉ハ稈ヨリ長ク、幅七厘許ニシテ、腊葉ニ在テハ其縁ハ内旋ス。小穂ハ三—五個ナリ、頂生ノ雄性小穂ハ圓柱形ニシテ、梗アリ、側生ノ二—四個ハ雌性ニシテ(頂端ニハ屢雄花アリ)長橢圓形又ハ圓柱形、長サ四分—七分、密花、無梗ニシテ少シク離レ、若クハ寧短梗アリテ遠ク離ル。苞ハ葉狀ニシテ稈ヨリ長ク、鞘ナシ。雌花ノ鱗苞ハ長橢圓形—卵形、鈍頭、暗色—黑色、縁ハ白色—透明ニテシ、汚白色ノ竜骨アリ。果壺ハ鱗苞ヨリ長クシテ廣ク、略直立ス、膜質、卵狀橢圓形、長サ一分餘、壓扁、銳頭、淡綠ニシテ紫点アリ、無毛、多脈ナリ、基部ハ海綿質圓形ニシテ、柄ヲ存ス、縁アリ、嘴ハ短ク孔ハ白色ニシテ陷凹シ、微凸頭ヲナス。瘦果ハ果壺ヨリ甚短ク、卵形ナリ。柱頭ハ二個ナリ

本種ハ「オーストラリヤ」「タスマニヤ」「ニュージーランド」等ニ産スルモノナリ

Var. ♂. *Thunbergii* (Steud.) Kuekenh.

あせすび 又くろすび

雌性小穂ハ長サ一寸餘ニ達ス。苞ハ葎花序ト略同長、稀ニハ之ヨリ長シ。雌花ノ鱗苞ハ紫黑色ナリ。果壺ハ廣卵形ニシテ突然明了ナル嘴ヲナス、孔ハ寧深ク凹陷ス。瘦果ハ廣キ倒卵形ナリ。果實ハ六月熟ス

—第十二圖版

本種ハ始メ *O. caespitosa* Linn. ナル種名ヲ以テ Thunberg 氏ノ著 *Flora japonica*, p. 39ニ見ユ、爾來幾變遷遂ニ上記ノ種名ヲ用ユルニ至レリ

本種ハ路傍ノ汚地及ヒ田畔ニ於テ普通ナリ。縣下碧海郡小垣江。幡豆郡上矢田、蘇美、室及ヒ大塚。寶飯郡豊川。渥美郡加治

○ *Carex Brownii* Tuckerm.

根莖ハ叢生ス。稈ハ高サ一尺—二尺、略三角形ニシテ硬ク、上部ハ微ニ粗糙ニシテ小葉アリ、而シテ基部ノ鞘ハ葉片ナク、暗黑色ニシテ、微網アリテ其縛ヲ被フ。葉ハ稈ヨリ短ク、幅一分—一分五厘、扁平ニシテ硬強ナリ。小穂ハ三—四個ナリ、頂生ノ雄性小穂ハ線形、長サ六七分ニシテ短梗アリ、側生ノ二—三個ハ雌性小穂ニシテ、長橢圓形—圓柱形、密花ニシテ、長サ七分—一寸、接近シテ、短キ梗アリ、又ハ寧隔在シテ、長キ梗アリ、直立ス、而シテ梗ハ針形ニシテ平滑ナリ。苞ハ葉狀ニシテ稈ヲ超エ、寧長キ鞘アリ。雌花ノ鱗苞ハ披針形—卵形、淡黃色ニシテ、背ハ綠色三脈アリ、銳尖頭—刺尖頭ヲ有ス。果壺ハ鱗ヨリ長ク、展キテ、膜質、廣卵形ニシテ脹レタル三稜ヲナシ、長サ一分許、褐色—綠色、無毛、多脈、無柄ニシテ、急ニ縮小シ短キ嘴ヲナス、孔ハ白色ニシテ二齒ヲナス。瘦果ハ寬ク閉居シ、略倒卵形三稜ナリ。花柱ハ基部斜ニシテ少シク太シ。柱頭三個ニシテ短シ

本種ハ本州四國蝦夷朝鮮ニ産スレトモ縣下ニハ未タ之レヲ見ス

Var. *B. transversa* (Boott) Kuekenh.

やはらすび

稈ハ平滑ニシテ摸範品種ヨリ細ク、葉ハ之ヨリ柔軟ナリ。果壺ハ卵形長サ一分許ニシテ、同長ナル嘴ハ下部稍脹ル、孔ハ透明ニシテ、斜ナル截形ヲナシ、後ニ至リテ些急ニ輕微ノ二齒ヲナス。—果實ハ六月成熟ス。—第十三圖版

本種ハ樹林ノ陰地及ヒ草場ノ湿地ニアリ。縣下碧海郡刈谷。幡豆郡貝吹、宮崎。額田郡大草。寶飯郡坂本。此種ノ分布ハ本州ヨリ九州對馬ニ及フ、又朝鮮支那東部上海等ニ産ス

○ *Carex ischnostachya* Steud.

じゆずすげ

根莖ハ叢生ス。稈ハ高サ一尺—二尺、稍硬ク、三角形、平滑ニシテ、隔リテ葉アリ、而シテ基部ノ鞘ハ葉片ナク、紫色ニシテ、微ニ剪裁ス。葉ハ稍花序ヲ超エ、幅二分—三分餘、扁平、柔軟ニシテ、長キ鞘アリ、舌狀片ハ長クシテ背ニテ着生ス。小穂ハ四—五個ナリ、頂生ノ雄性小穂ハ絲形、長サ五分—一寸ニシテ、短キ梗アリ、而シテ側生ノ三—四個ハ雌性ニシテ細キ圓柱形、略密花、略二列ヲナシ、長サ七分—一寸八分、幅一分餘ナリ、而シテ上部ニアルモノハ雄性小穂ト平叢頭ヲナシ、略無柄ニシテ、雄性小穂ヨリ長ク、下部ニアル一—二個ハ隔在シテ梗アリ、直立ス、梗ハ針狀ナリ。苞ハ葉狀ニシテ花序ヨリ長ク、而シテ長キ鞘アリ。雌花ノ鱗苞ハ小ニシテ、廣卵形、略鈍頭、濁麥稈色ニシテ、綠色ノ龍骨アリ時ニ微凸ヲナス、果壺ハ鱗苞ヲ超ユルコト三—四倍ニシテ、略直立シ、膜質、卵形—略橢圓形、鈍三角長サ一分五厘、褐色、無毛、多脈ニシテ、基部圓形ナリ、頂端ハ漸々長キ圓錐形ノ嘴ヲナス、孔ハ透明ニシテ二齒ヲナシ、毛アリ。瘦果ハ稍密ニ閉在シ、卵狀三角ナリ。花柱ハ基部平等ナリ。柱頭ハ三個ニシテ短シ。—果實ハ六月熟ス。—第十四圖版

本種ハ深林及ビ濕氣ヲ帶ヒタル草地ニアリ、縣下丹羽郡繼鹿毛。額田郡大草。寶飯郡本宮山。東加茂郡金藏連

此種ハ本州ハ勿論蝦夷、佐渡島、三宅島、八丈島、四國、九州、對馬、五島、琉球、朝鮮ニ分布スレトモ支那臺灣ニ産セス

○ *Carex pruinosa* Boott.

根莖ハ叢生ス(?)。稈ハ高サ一尺—二尺、稍細ク、銳角ニシテ、平滑ナリ、基部ノ鞘ハ葉片ナク、鉄鏽色ニシテ、微網アリ其緯ヲ被フ。葉ハ稈ト略同長ニシテ、幅一分許、縁ハ回旋シテ、梗強ナリ。小穂ハ四—五個ナリ、而シテ頂生ノ雄性小穂ハ線形—圓柱形ニシテ梗アリ、側生ノ雌性小穂ハ(屢頂端ニ雄花アリ)圓柱形、長サ七分—一寸三分許、幅一分五厘許、密花ニシテ短キ梗(刺狀ニシテ微ニ粗糙ナリ)アリ、後ニ至リ垂下ス、而シテ上部ニアル者ハ接近スレトモ、寧屢遠離ス。苞ハ葉狀ニシテ、長ク稈ヲ超エ、無鞘ナリ、而シテ上部ニ至ルニ隨ヒ漸ク短小ナリ。雌花ノ鱗苞ハ披針形ニシテ、銳尖頭—凸頭、黃褐色ナリ、背ハ綠色ニシテ三脈アリ、果壺ハ鱗苞ト同長ナリ、然レトモ廣潤ニシテ膜質、卵形、壓扁、長サ一分許、灰白色—紫色ニシテ白色ノ顆粒ヲ密布シ、無脈若クハ暗ニ三脈アリ、基部ハ縮小シ、縁アリ、嘴ハ短ク略全縁ニシテ微ニ突出ス。瘦果ハ倒卵形若クハ廣キ卵形ナリ。花柱ハ基部平等ナリ。柱頭二個

本種ハ印度瓜哇等ニ産スレトモ本邦ニハ産セス

Subsp. *Maximowiczii* Miq.

がらそ

根莖ハ叢生ス。小穂ハ二—三個ニシテ隔在シ、長梗アリ、頂生ノ者ハ雄性ニシテ線形ナリ(頂端屢雌花ヲ存ス)、側生ノ者一—二個ハ雌性ニシテ長橢圓形—圓柱形、長サ六分—一寸三分、幅二分—三分五厘ニシテ、懸垂ス。鱗苞ハ摸範種ヨリ廣クシテ多分ハ尖刺アリ。果壺ハ廣卵形、長サ一分五厘許、桂皮色ニシテ縁アリ、頂端ハ屢糙粗ナリ、—果實ハ六月熟ス。—第十五圖版

本種名ハ Kuekenhal 氏 (Opere.—Carie, p. 352—353) ノ意見ヲ採用セリ、始メ此種ハ *C. picta* Boott ナル種名ノ下ニ於テ Gray 氏ノ On the Botany of Japan p. 418 ニ於世ニ出テタルモノナリ、後ニ至リテ Boott 氏ハ之ヲ更正シテ印度及ヒ瓜哇ノ原産ナル *C. pruinosa* Boott ナルモノニ聯結セシメ Var. *B. picta* Boott (Illustr. IV, p. 198) トセリ、爾來 Palhin (Fl. Koreae, III, p. 124) Franchet 及チ Savatier (Enum.

Pl. Japon. II. p. 557) 松村博士(植物名鑑下巻顯花部前編一二三頁)ノ諸氏ハ皆之ヲ繼承セリ、然ルニ獨
 リ Clarke 氏 (in Journ. Linn. Soc. XXVI. 306) ハ全然之ヲ *O. prinosa* ノ下ニ收ム、之ヨリ先ニ Miquel
 氏ハ之ヲ一種特立セルモノ (*O. Maximowiczii* Miq. Prol. Fl. Jap. p. 82) トナシ又ハ *O. Prinosa* ニ聯結
 シタル一亞種 (in Ann. Mus. Lugd. Batav. II. 150) トナセシコトアリ、是即 Kuekenenthal 氏ノ採用シタル
 種名ナリトス
 本種ハ田畔及ヒ森林ノ濕地ニアリ。縣下幡豆郡西ノ町、岡山。碧海郡刈谷。北設樂郡下田。
 此種ハ本州各地ニ稀ナラズ、四國、九州、對馬、蝦夷、千島ニ及フ又朝鮮ニ在テハ釜山、支那ニ於テハ
 香港、芝罘ニ分布ス

左ニ縣下ニ於テ産スルもみぢ屬 (*Acer*) ノ品種ヲ擧ケントス、然レトモ調査日尙淺クシテ、足跡未タ
 普カラサル所アレバ、産地ニ至リテハ調査尙充分ナラザルモ、品種ニ至リテハ大略下記ノ十有餘種
 ニ過キササルヘシ、若シ他日調査ノ歩ヲ進ムルニ從ヒ、新ニ發見スル所アラバ、之ヲ補足スル所アラ
 ントス

○ *Acer distylum* Sieb. et Zucc.

びつじはかへて 又まきはかへて

白澤保美著日本森林樹木圖譜下編第四十一版14—26圖及ヒ東京帝國大學理科大學紀要第參拾貳冊第壹編
 ニ載セタル、小泉源一著 *Revisio Aconacearum Japonicarum* Tab. II. fig. 1—3. ニ見テ
 本種ハ山地ノ森林ニアリ、縣下北設樂郡豐根村坂宇場茶臼山、同郡上津具村飯盛山ニ産ス。本邦ノ特産
 ニシテ分布ハ本州ニ限レリ

○ *Acer crataegifolium* Sieb. et Zucc.

しらはしのき 又めうりのき方言うりんぼう、やますぼう

白澤保美著同上編第六十七版16—26圖及ヒ小泉源一著 *l. c.* Tab. III. fig. 1—3. ニ見ユ、一花ハ四月、果
 實ハ十月熟ス

本種ハ山地ノ森林及ヒ村落ニアリ、縣下寶飯郡宮路山。西加茂郡猿投山。南設樂郡鳳來寺山。北設樂郡
 豐根村下黒川、同郡名倉村大名倉、同郡田口村清崎。八名郡山吉田村黄柳野。東春日井郡三國山ニ産ス。
 本邦ノ特産ニシテ本州ヨリ九州ニ及フ

○ *Acer carpinifolium* Sieb. et Zucc.

やぶしほかへて 又まきは、ちかりのき

白澤保美著同上編第六十九版17—27圖、及ヒ小泉源一著 *l. c.* Tab. VIII. fig. 1—5. ニ見テ、一花ハ五月
 上旬、果實ハ九月ノ交ニ熟ス

本種ハ森林ノ溪谷ニアリ、縣下八名郡七郷村能登瀨。北設樂郡振草村神田、同郡富山村霧石峠、同郡豐
 根村坂宇場ニ産ス。本邦ノ特産ニシテ本州ヨリ四國九州ニ分布ス

○ *Acer rufinerve* Sieb. et Zucc.

うりはだかへて

白澤保美著同上編第六十七版1—11圖及ヒ小泉源一著 *l. c.* Tab. IX. fig. 1—6. ニ見テ、一果實ハ八月下
 旬ヨリ九月上旬ニ至リテ熟ス

小泉氏ハ水谷助六著物品識名拾遺ニ載セタルうりのきの名稱ヲ以テ、本種ノ一異名ニ收メタリト雖、此
 うりのきナル者ハ伊藤圭介著日本産物志近江部ニ於テ圖說セル所ノうりのき *Alangium* sp. ナリトス、
 是即物品識名拾遺ニ載セテ「葉ハツタモミデニ似テ毛茸アリ、白花ヲ開キ、反卷シ瓜ノ皮ヲムクカゴト
 シ」トアルニ證シテ餘アラントス

本種ハ山地ノ森林ニアリ、縣下寶飯郡本宮山。北設樂郡鴨山郡有林ニ産ス。分布ハ前種ニ同シ、又本邦
 ノ特産ナリ

○ *Acer micranthum* Sied. et Zucc.

こみねかぐつ

白澤保美著同下編第四十四版 1-6 圖及 2 小泉源一著 l. c. Tab. XII. fig. 1-6. 見テ、一花ハ五六月ノ交、果實ハ九月上旬ニ熟ス

本種ハ山地ノ森林ニアリ、縣下北設樂郡豊根村坂字塙、同郡上津具村及ヒ名倉村。東加茂郡段戸山ニ産ス。本州ヨリ四國九州ニ及ヒ又遠ク朝鮮滿州ニ分布ス

○ *Acer argutum* Maxim.

あざのばかぐつ

白澤保美著同上編第六十九版 1-12 圖及ヒ小泉源一著 l. c. Tab. XIV. fig. 1-7. 見テ、一果實ハ十月熟ス。本種ハ山地ノ森林ニアリ、縣下北設樂郡豊根村坂字塙茶臼山、同郡上津具村飯盛山及ヒ段嶺村段戸山ニ産ス。本邦ノ特産ニシテ本州ニ多ク又四國ニ分布ス

○ *Acer cissifolium* (Sieb. et Zucc. Koch)

みひかぐつ

白澤保美著同下編第四十一版 1-9 圖及ヒ小泉源一著 l. c. Tab. XV. fig. 1-4. 見テ
本種ハ山地ノ森林ニアリ、縣下北設樂郡豊根村下黒川及ヒ振草村嶋山。八名郡七郷村能登瀨ニ産ス。本邦ノ特産ニシテ本州四國及ヒ北海道ニ分布ス

○ *Acer rubrum* L.

はなのき 方言はらのき

伊藤圭介著日本物産志近江部ニ圖アリ、又小泉源一著 l. c. Tab. XVI. fig. 1-2. 見テ、一花ハ四月果實ハ六月上旬ニ熟ス
本種ハ汚濕ノ林地ニアリ、縣下北設樂郡豊根村坂字塙(川宇連尹良親王社地)ニアリ

抑本種ノ本邦學界ニ出テタルハ、水谷豊文氏著其物品識名ニ載セテ「江州花澤村ニアリ葉トウカヘデニ似テ背白、早春ニ紅花ヲ開ク」ト曰フニ始マレリ、後ニ至リテ飯沼愨齋翁其著草木圖說ノ木部ニ圖說セリト雖、未刊ニシテ世ニ出テス、次ニ伊藤圭介翁日本物産志ヲ著シ、其近江部ニ於テ「江州愛知郡花澤村ニ大樹アリ又濃信等諸州ノ山中ニ産ス」云々ト圖說セリ、而シテ學名ニ至テハ始メ U. Koch 氏伊藤翁ヨリ贈リタル標品ニ基キ、*Acer lycranthum* ナル名稱ヲ創設シ、本邦特産ノ一新種ト認定セリ、爾來學界ニ於テ久シク之ヲ承認セリ、降テ明治二十五年ニ至リ先學牧野富太郎氏(植物學雜誌第百八十三號 37-34頁)之ヲ考査シテ *Acer rubrum* L. ト全種ナリト發表シ且論シテ曰ク、「元來 *A. rubrum* ナル者ハ北米大西洋方面ノ産ニシテ、未タ其他ニ産スルヲ詳ニセス、而モ今之ヲ我日本ニ見ル、甚タ珍トスルニ足ルト先ツ之ヲ賞揚シ、而シテ花澤村ノ二老雄樹ハ栽植セルモノナラント、口碑ニヨリテ之ヲ證シ、同國愛知川、美濃國岐阜及ヒ尾州名古屋ニ見ル者ハ皆其大遙ニ花澤村ノモノニ及ハス、且大抵雄樹ナレバ、其源ハ花澤村ヨリ發セシナラント推測シ、進ンテ飯沼伊藤兩翁ノ信濃ノ山中ニ自生アルカ如ク記セルハ是レ恐ラクハウリカヘデ等他ノ品種ヲ混視セシニハアラサルカト疑ヲ存シ、近日三河ノ某地ニはなのきノ自生アルヲ傳聞シ、即其葉ヲ送致セシメテ之ヲ見ルニ、是レウリカヘデ (*A. crataegifolium* Sieb. et Zucc.) ナリシト前述ヲ補ヒ、以テ本邦ニ自生アリト云フノ說ハ、予未タ信スベキ憑證ヲ得スト、自生ヲ非認シ更ニ飯沼伊藤ノ兩翁ハ其著ニ於テ主トシテ雌花ニ就キテ記シ、又名古屋ニ於テ雌花ノ着キタル標品ヲ見タリ、若夫レ栽植シタル者ノミトセンカ、此等雌花ノ本源ハ何處ニアリヤト反問シ、最後ニ至リテ、夫ノ近江國花澤村ノ老樹ハ少ナクモ五六百年以前ノモノナラン、此時北米ノ種ノ入りテ來ルヘキ機會、未ダ生セシニハアラサルベシ、由是觀之ハ、我國該樹ノ由來ハ茫漠トシテ尙知ルヲ得ス、更ニ一段ノ考究ヲ經サルベカラズト論結セリ、果シテ自生ナキヤ

大正元年ニ至リテハ小泉源一氏(植物學雜誌第百八號 263-264頁)論シテ曰ク、北米東半部ニ自生多キはなのきノ、我本土ニ産スルヲ見ルハ、偶以テ北米ノ北部ト日本ト、植物區系ノ類似セルコトニ、一事

項ヲ加ヘタルモノニシテ、別ニ奇ナルコトナシ、往古北半球ニ分布シ、現今化石種トシテ残リタル *trilobatum* A. Bl. ナル者アリ、此種ハはなのきト區別点甚シカラザルモノナレバ、從來前種トスル者ノ内ニハ、必ス後者ヲ混セシコトト察セラル、サレバはなのきハ普通ニ化石種トシテ認メラレサルモ、往古ハ存在セシモノト考ヘ得、而シテ前者ノ化石ハ日本々土ニハ未タ發見セラレサレトモ、近ク樺太ニ其産地アリ、サレバはなのきハ往古亞細亞ノ東部ヨリ北米ニ涉リテ繁盛ナリシモ、現世ニハ北米ノミ盛ニシテ、他ニ滅絶シ、僅ニ本邦ニ餘裔ヲ殘スノミト、曾テ後藤定治氏美濃國惠那郡坂本村ニはなのきアルヲ報セシヲ以テ、自生アルノ證トシ、其報ヲ掲ゲテ曰ク「中津町ヲ西ニ一里十町程坂本村ナル街道ヨリ二丁入りタル湿地ノ雜林中ニアリ、大サ最大ナルハ五尺小ナルハ一握リ位ニ至ル數本アリ、尙中津町西北二十丁ナル林地ト田トノ間ナル稍湿地ニ周圍八尺高サ十二突位ノモノアリテ、土人ハめぐすりのきト云ヒ、其皮ヲ剝キ煎シテ目藥トナス」ト果シテ是レ有力ナル自生ノ證トスヘキヤ

予曾テ明治三十五年九月二十四日北設樂郡ニ採集ヲ試ミ、同郡上津具村(伊奈街道ノ小驛)ニ宿ス、此地ニ舊友山崎珉平氏アリ、醫ヲ業トセリ、之ヲ訪フテ語次川宇連ノすほうのきニ及フ、曰ク是レ地方ノ名木ナリ吾子之ヲ知レリヤト、予昨春四月南設樂郡鳳來寺邊ヲ採集ノ際、好事者アリテ川宇連ノすほうのきの花ナリト稱スル者ヲ見ル、即もみち屬ノ雌花ナリ、然レトモ當時何種ナルヤヲ詳ニセスト、サレハ行キテ究ムヘシ、案内者ヲ附セン、川宇連ハ別所街道ノ小村落ニシテ、此地ヲ距ル東北三里許ナリト、因テ氏ノ好意ヲ謝シ、翌二十五日川宇連ニ抵ル、果シテ名木ニシテ花澤村ノモノニ劣ラサル大樹而モ雌本ノはなのきナリ、樹ハ尹親親王ノ社地ニアリ、社地ハ溪谷ニ沿フタル汚濕ノ地ニシテ、面積一町許ニ過キス、神木ト稱スル大樹抱圍一丈一尺許ノモノヨリ三尺許ニ至ル大小ノ七樹アリ、又樹下ニハ小苗ヲ見ル、而シテ古來神木ト稱シ敬崇セシ一樹ハ其大サ四五抱ニシテ、老朽僅ニ一枝ヲ餘シ、久シク餘喘ヲ存セシニ、一朝暴風之ヲ倒シテ、現今見ルニ由ナシト、此樹ヲ知レル老人今尙存シ、小社ヲ距ル七八間ノ地ニアリシト語レリ、而シテ現今ノ神木ハ社側ニアリテ、幹ハ根元ヨリ少シク上リテ分レ三又ヲナス、

方言ニ之ヲすほうのきト稱セリ、蓋シすほうのきトハ該樹ノ木心ノ赤キニ因ミテ、蘇方木ト誤認セシカ、在昔挽物師アリ、剛腹不遜、神樹ノ木心ヲ煎テ、兒女ノ衣服ヲ染ム、忽チ神怒ニ觸レ、一家疫ニ罹リテ、滅絶セリト、ノ傳説ハ之ヲ證スルニ足ランカ、當時果實ヲ見サレドモ、神木ノ雌本ナルハ、曩ニ鳳來寺ニ於テ見タル雌花ニ徴シテ、略知ルヲ得タリ、然レトモ雄樹ノ存否ニ至テハ、未タ之ヲ知ラス、因テ山崎氏ヲ煩シ、翌春ヲ期シ、神木ト爾他ノ諸木トヲ併セテ、花枝ヲ贈ランヲ約シテ去ル、果シテ翌春四月、花枝ヲ送致シ來ルニ、雌雄ノ兩枝ヲ見ル、此ニ於テ又雄樹アルヲ確ム、更ニ果實ヲ得ント欲シ、大正二年九月川宇連ニ抵リ、各樹ニ就キテ普ク果實ヲ索ムレトモ得ス、偶々此地ヲ距ル三里許ニシテ、本街道信州下伊奈郡且開村新野ニ亦はなのきアリト聞ケリ、因テ之ヲ探ラント欲セシニ、不斗時疫ニ罹リ、旅窓ニ臥セリ、旅伴同好ノ士杉浦山下兩氏ヲシテ之ヲ探ラシム、果シテはなのきナレトモ、又果實ヲ見スト云フ、時ニ人アリ果實ハ五六月ノ交ニ熟ス、時將ニ九月ナリ、季節ヲ過ル已ニ久シ、去テ再ヒ來リ索メヨト、超テ三年六月六日更ニ來テ川宇連ヲ探ル、又果實ヲ見ス、蓋當年晩春ニ雪アリ、結實ヲ障害セシナラント、試ニ且開村新野ヲ探ラント欲シ、其地ノ教員松村某ヲ訪ヒ、案内ヲ乞フテ所在地ニ至ル、地ハ新野ヲ距ル東方十町許ニシテ、街道ニ接シタル左側ノ風除林ナリ、林中抱圍三尺ヨリ七尺ニ至ル大小ノ四樹アリ、其内一樹ニ果實ヲ有スレトモ、直幹數丈ニシテ近寄リカタシ、因テ人ヲ雇テ攀登シ、一枝ヲ伐ラシム、果實ハ其際搖動ニヨリテ大抵飛散シ、枝ニ留マルモノ尠ナシ、而シテ熟否ヲ檢スルニ、成熟セサルモノ多シ、之ヲ聞ク、名古屋ニ植ヘタルモノ、時ニ果實ヲ結ヘトモ、多分ハ成熟ニ至ラス、僅ニ成熟ノモノアリテ、發芽スルコトアリト

以上數百言ハ信三ノ二州ニ於テ、はなのきノ雌雄兩樹ヲ發見セル由來ニシテ、而下吾人ノ主トシテ考究セント欲スル所ノモノ、前提ニ過キス、夫然リ吾人ノ主トシテ考究セント欲スル所ノモノハ、該樹ノ自生セシモノナルヤ、否ヤヲ考究スルニアリ、是レ本種ノ分布上缺タヘカラサル問題ナリトス、而シテ本問題ヲ解決スルニ當リテハ、各地ニ就キテ之ヲ論シ、三河ハ主タルモノナレトモ、論究ノ便宜上、先ツ

信州ヨリ始メントス、抑信州ノ地ハ前述風除林中すほうが池ト稱スル汚濕ノ地ニシテ、四樹ハ街道ニ沿テ數間ヲ離レテ並立ス、蓋シ此林地ハ一旦植林シタル由ヲ傳ヘテ、地方ノ人モ該樹ハ移シタルモノナラント信スルカ如ク、尙神木ノ餘畏ヲ存シ、攀テ枝ヲ探ラシメントセシトキ、崇アラシク恐レテ背セサルモノアリ、又樹幹ノ大小ニ於テモ、遙ニ川宇連ノモノニ及ハス、此等ノ事實ヲ綜合スレハ、自然川宇連ヨリ移シタルモノナラント推測スルコト難カラス、次ニ三河ノ地川宇連ニアルモノハ、口碑ノ傳フル所ニヨルニ、往古後醍醐天皇ノ皇子尹良親王(實ハ宗良親王ノ子ナリト云)、足利氏ヲ避ケテ、此地方ニ隱棲シ、獵シテ樂ム、偶此地ニ行厨ヲ開キ、食シ了リテ、箸ヲ地ニ挿シテ去ル、後其箸ヨリ枝葉ヲ生シテ遂ニ大樹トナル、是レ神木すほうのきの起源ナリト、今此口碑ヲ信ナリトセハ、該樹ハ移植シタルモノ、如シ、然リ之ヲ移植セシモノトセンカ、其本源ハ何レニカラン、遠ク之ヲ北米ノ地ニ索メンカ、將タ近ク之ヲ何レニカ索ムヘキノ道ナカラシカ、夫箸ヨリ芽ヲ出シタリトノ口碑ハ信スヘカラサルカ如シト雖、若夫ノ箸ニシテ一般食膳ニ用ユル箸ナリセハ、芽ヲ出シ葉ヲ生スヘキ道理ナシト雖、之ヲ獵者樵夫ノ間ニ慣用セル、林樹ノ一枝ヲ箸ニ代用セルモノト解スレハ、地ニ挿シ芽ヲ生セサルニモアラス、普通はなのきを分殖スルノ一法トシテ、挿木ニヨルノ例ニ徵スルモ、肯テ神怪ノ説トシテ一概ニ排スヘキニアラス、若クハ箸ニ採リタル原樹、即神木トシテ殘レルカ、又ハ追懷ノ餘、隱棲ノ舊跡ニ存シタル一樹ニ、神怪ノ説ヲ附會シ、以テ斧柯ノ災ヲ免レシメ、後世ニ傳ヘタルヤモ知ルヘカラス

斯ク論シ去レハ、自ラ該樹ハ之ヲ自生ト解スルヲ得シ、サレト一地ニ局限シ、未タ之ヲ他方ニ見サル所以ノモノハ、小泉氏ノ論シタルカ如ク、本種ハ既ニ滅絶ニ瀕シ、餘喘ヲ此地ニ保テルモノト解シ、即果實ニ不熟ノモノ多キノ事實ハ、之ヲ證シ得テ好シ、且飯沼伊藤兩翁ノ濃信等ノ諸州ニ自生アリト記シタルニモ符合スト雖、是レ推測ニシテ確固タル證左アルニアラス、若夫小泉氏ノ信スルカ如ク、濃州中津地方ニアルモノヲ以テ自生ナリトスレハ、我川宇連ニアルモノニ一段ノ光彩ヲ加ヘテ、亦自生ナラント論斷シ得レトモ、後藤氏ノ所報ヲ熟讀スレハ、所在ノ地勢、樹ノ大小等、曠テ信州新野ニ髣髴タル所アリ

俄ニ信疑ヲ判シ難キノ憾アリ、姑ク北設樂郡豊根村大字坂宇場字川宇連ニハ江州花澤村ニ劣ラサルはなのきの大樹アルヲ報シ、而モ雌樹ナルヲ大書スルニ止メ、其自生ト、否トハ他日ノ論評ニ俟タントス

○ *Acer Oliverianum* Pax var. *Nakahara Hayata* subvar. *formosanum* Koidz.

スナガハシノナカハラ

小泉源一著 I. c. p. 344 fig. 1. ニ見テ、一果實ハ九月熟ス

本種ハ山地ノ森林ニアリ、縣下北設樂郡豊根村坂宇場字川宇連ノ茶臼山ニ於テ大正二年九月五日杉浦山下両氏採集セリ、此種ハ素臺灣ニ産スル所ナレトモ、今之ヲ本州ニ見ル、特書スヘキモノトス

○ *Acer Sieboldianum* Miq. var. *a. typicum* Maxim.

シタヤメゴバク

白澤保美著同下編第四十五版 1-5 圖? 及ヒ小泉源一著 I. c. Tab. fig. 1-7. ニ見テ、一花ハ五月、果實ハ十月ニ至テ熟ス

本種ハ山地ノ森林ニアリ、縣下北設樂郡名倉村大名倉、同郡豊根村坂宇場及ヒ霧石峠。南設樂郡作手村東加茂郡賀茂村御内藏連ニ産ス。分布ハ本州ヨリ四國九州又朝鮮滿州ニ及フ

○ *Acer Shirasawanum* Koidz. var. *tenuifolium* Koidz. ?

シラサワナカバク

小原源一著 I. c. Tab. XXIII. fig. 1. ニ見タル品種ナラント考フルレト、標品完全ナラサル所アレハ、疑ヲ存シテ豫報ニ止ム、一六月七日未熟ノ果實アリ

本種ハ山地ノ森林ニ見ル、縣下北設樂郡稻橋村月ヶ平。東加茂郡段戸山ニアリ

○ *Acer japonicum* Thunb. var. *a. typicum* Gr. v. Schw.

ニホナカバク

上記ノ一品ニシテ小泉源一著 l. c. p. 41. ニ記載シタル forma tenuilopium Koidz. ナル者ナリ
葉ノ裂片ハ卵形ニシテ鋭尖頭ヲナシ、下部ノ裂片ハ互ニ相覆フ
本種ハ縣下北設樂郡豊根村坂字塙(川宇連茶臼山)ニアリ

○ *Acer palmatum* Thunb.

Subsp. *a. genuinum* (Sieb. et Zucc.) Koidz.

Var. *b. amabile* Koidz. = *A. palmatum* var. *Thunbergii* Pax subvar. *eu-palmatum*

Gr. v. Schw.

ふるはもみぢ

白澤保美著同上編 *A. palmatum* Thunb. かえでノ名稱ノ下第六十八版 1—2 圖及ヒ小泉源一著 l. c. Tab. XXVI. fig. 1—6. ニ見テ

葉ハ五—七掌狀裂片ニシテ、缺刻—鋸齒アリ、方言やまもみぢ又やぶもみぢト稱シ、山地ニ普通ナルモノニシテ、小葉細枝優秀ニシテ、紅葉最可ナリ、果實ハ十月熟ス

縣下北設樂郡鳴山郡有林、同郡田口村松戸及ヒ荒尾。東加茂郡賀茂郡怒田澤。八名郡石卷村中山ニ産ス
分布ハ四國九州對馬ニ及フ

Subsp. *B. septenlobum* (Thunb.) Koidz. = *A. palmatum* var. *Thunbergii*

Subvar. *subsaptenlobum* Gr. v. Schw.

たかをもみぢ

小泉源一著 l. c. Tab. XVII. fig. 1—5. ニ見テ

葉ハ掌狀七裂片ヲナシ、正整ナル鋸齒アリ、—果實ハ十月ニ至テ熟ス

縣下東加茂郡縣有林及ヒ段戸山。北設樂郡豊根村坂字塙。南設樂郡鳳來寺ニアリ、殊ニ本州ノ産ナリ

Var. *latilobum* Koidz.

つなはもみぢ

小泉源一著 l. c. Tab. XXVI. fig. 7—8. ニ見テ

葉ノ裂片ハ卵形若クハ廣三角ニシテ、急ニ鋭尖頭ヲナス、果實ノ翅ハ略水平ニ開展ス、—果實ハ十月熟ス

縣下北設樂郡鳴山郡有林ニ産ス、又四國ニ分布ス

以上ノ品種ハ通俗ニ皆かへで又ハもみぢト稱ス、蓋かへでトハ蛙手カエドテニシテ、もみぢトハ紅葉ノ義ナリト云フ、而シテ古來歌ニ讀ミタル紅葉ハ、かへでノ一類ニ限ラス、普ク諸木ニ涉リタルモノニシテ、大和本草ニ「立田ノ紅葉ハかへでノ一樹ノ紅葉ニ非ス、諸木ノ紅葉ナリシト云」ト見ヘタリ、殊ニ此種ハ諸木ノ秋霜ヲ經テ、次第ニ紅葉スルニ際シ、最後レテ最可ナリ、故ニもみぢノ名ヲ專ニシ、遂ニ樹名トナルニ至レリ

本種ハ自然界ニ於テ、變態多キノミナラス、人工ヲ加ヘテ異品ヲ生シタル者尠ナカラス、故ニ學界ニ於テ之ヲ識別分類スルニ際シ、或ハ種トシ、或ハ非認シ、同一品ニシテ意見區々タリ、畢竟此等ハ學者ノ見解ニ於ル多少ノ相違ニシテ、深ク拘ルヘキニアラス、茲ニ範ヲ小泉氏ニ採リタルハ、邦人ニシテ最新ニ之ヲ研究シタル所以ナリ

○ *Acer nikoense* Maxim.

ちやうじやのみき 又ニハナリノキ

白澤保美著同上編第六十八版 16—26 圖及ヒ小泉源一著 l. c. Tab. XXX. fig. 1—3. ニ見テ、—果實ハ十月ニ熟ス

本種ハ山地ノ森林ニアリ、縣下北設樂郡上津具村及ヒ鳴山郡有林ニ産ス。分布ハ四國九州ヨリ支那中部ニ及フ

○ *Acer pictum* Thunb.

Var. *a. typicum* Gr. v. Schw.

したやかへで

葉ノ裏面ニハ毛アリ、若クハ脈ニハ毛アリ

巽ニ Pax 氏ハ之ヲ 1. *eupictum* Pax 2. *Mono Maxim.* 3. *Savateri Pax* ノ亞變種ニ別チタリト雖、小泉氏ハ更ニ 4. *Mayrii* (Gr. v. Schw.) Nonlz. 5. *Futagoyama Koidz.* ヲ加ヘテ、和稱ニハいたやかへでヲ通用セリ其 3. *Savateri Pax* (l. c. Tab. XXXII. fig. 7.) ハ果實ノ翅略水平ニ開展シタル者ニシテ、未タ縣下ニ之ヲ産スルヤ、否ヤヲ詳ニセズ、5. *Futagoyama Koidz.* ノ如キ葉ハ時ニ次條 1. *eupictum Pax* ヨリ不時ニ發出シタル、勢力旺盛ノ新梢ニ見ルコトアリ、又 var. *J. dissectum Wernaei* あらひかへで (l. c. p. 62. fig. 9. a.) ノ如キ葉モ後者ノ幼樹、及ヒ老成樹ナルモ果實ヲ具セサル枝、若クハ不時ニ發出シタル新梢ニ見ルコト稀ナラス、故ニ果實ヲ具セサル標品ニ在ラハ、何レヲソレト識別スルコト、頗ル困難ナリトス

Subvar. 1. *eupictum Pax*

小泉源一著 l. c. Tab. XXXII. fig. 1—5. ニ見テ

果實ノ翅ハ開展シテ銳角ヲナス、一果實ハ十月熟ス

縣下寶飯郡本宮山。南設樂郡作手村。北設樂郡豊根村坂宇場、同郡名倉村大名倉、上津具村飯盛山及ヒ田口村田口。本加茂郡御内藏連等ノ山地ニ普通ナリ。分布ハ四國北海道ニ及フ

Subvar. 2. *Mono Maxim.*

小泉源一著 l. c. Tab. XXXII. fig. 6. ?

方言大葉かへでト稱ス、果實ノ翅ハ略直角ニ開展シ、基部縮小セス、廣闊ナリ、一果實ハ十月熟ス
縣下北設樂郡鴨山郡有林ニマリ。又北海道ニ産ス

Subvar. 4. *Mayrii* (Gr. v. Schw.) Koidz.

小泉源一著 l. c. Tab. XXXII. fig. 8—9. ニ見テ

果實ノ翅ハ直立シテ並行ス、一果實ハ十月熟ス

縣下北設樂郡田口村和市ニマリ

Var. *B. paxii* Gr. v. Schw.

おひしたや

白澤保美著同上編 *A. pictum* Thunb. したやかへでノ名稱ノ下第六十五版 1—8 圖。

葉ノ裏面ニ密軟毛アリ

縣下東加茂郡縣有林、同郡旭村牛地。北設樂郡段戸山御料林、同郡鴨山郡有林ニ産ス。又朝鮮ニ産ス

○ *Acer diabolcum* Bl.

おひもみぢ

白澤保美著同上編 *A. purpurescens* Fr. et Sav. かぢかへでノ名稱ノ下第六十五版 13—19 圖及ヒ小泉源一

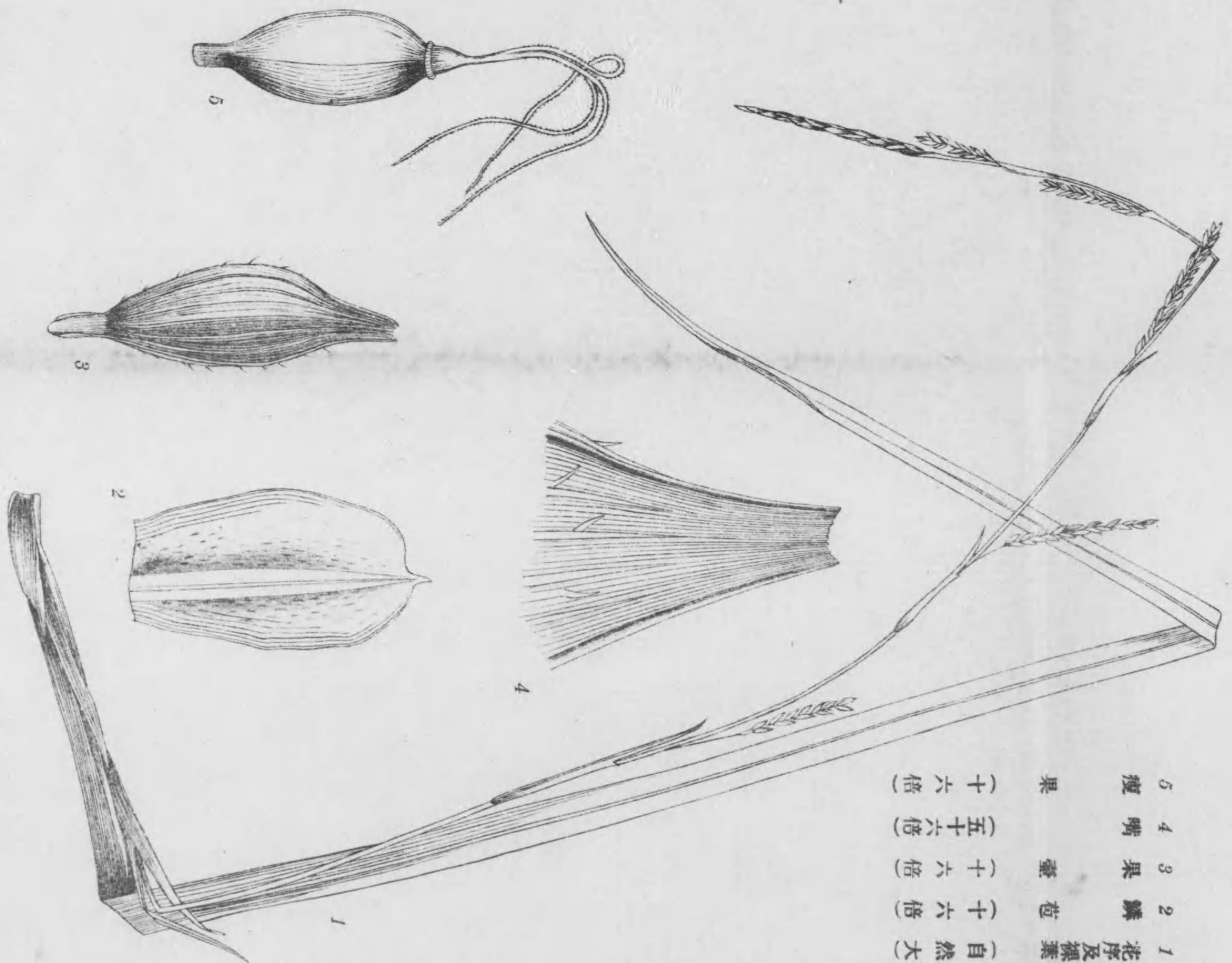
著 l. c. Tab. XXXIII. fig. 1—4. ニ見テ、一果實ハ十月熟ス

本種ハ高山ノ森林ニアリ、縣下北設樂郡下津具村ほうのき谷(稀ナリ)。本邦ノ特産ニシテ四國九州ニ分布ス

前編ノ正誤

- 三頁 十九行又形ハ又形ナリ
同 二十一行全部ハ十九行又形ヲナスニ續ク
四頁 十三行又裂ハ又裂ニシテ又枝ハ又枝ナリ
同 十六行 Dar. ハ Var. ナリ
五頁 四行 Saunzier ハ Savatier ナリ
同 十二行若ク長クハ若クハ長クナリ
六頁 二十行 Dar. ハ Var. ナリ
七頁 五行 Dar. y. ハ Var. y. ナリ
同 七行葉ハノ下ニ硬字ヲ脱ス
同 十七行雄性小穂ノハ雄性小穂ハナリ
八頁 三行英柱ハ花柱ナリ
同 十三行先物ハ先端ナリ
第二圖版 Var. B. ハ Var. B. ナリ
第四圖版 Var. B. ハ Var. B. ナリ
第五圖版 Var. y. ハ Var. y. ナリ

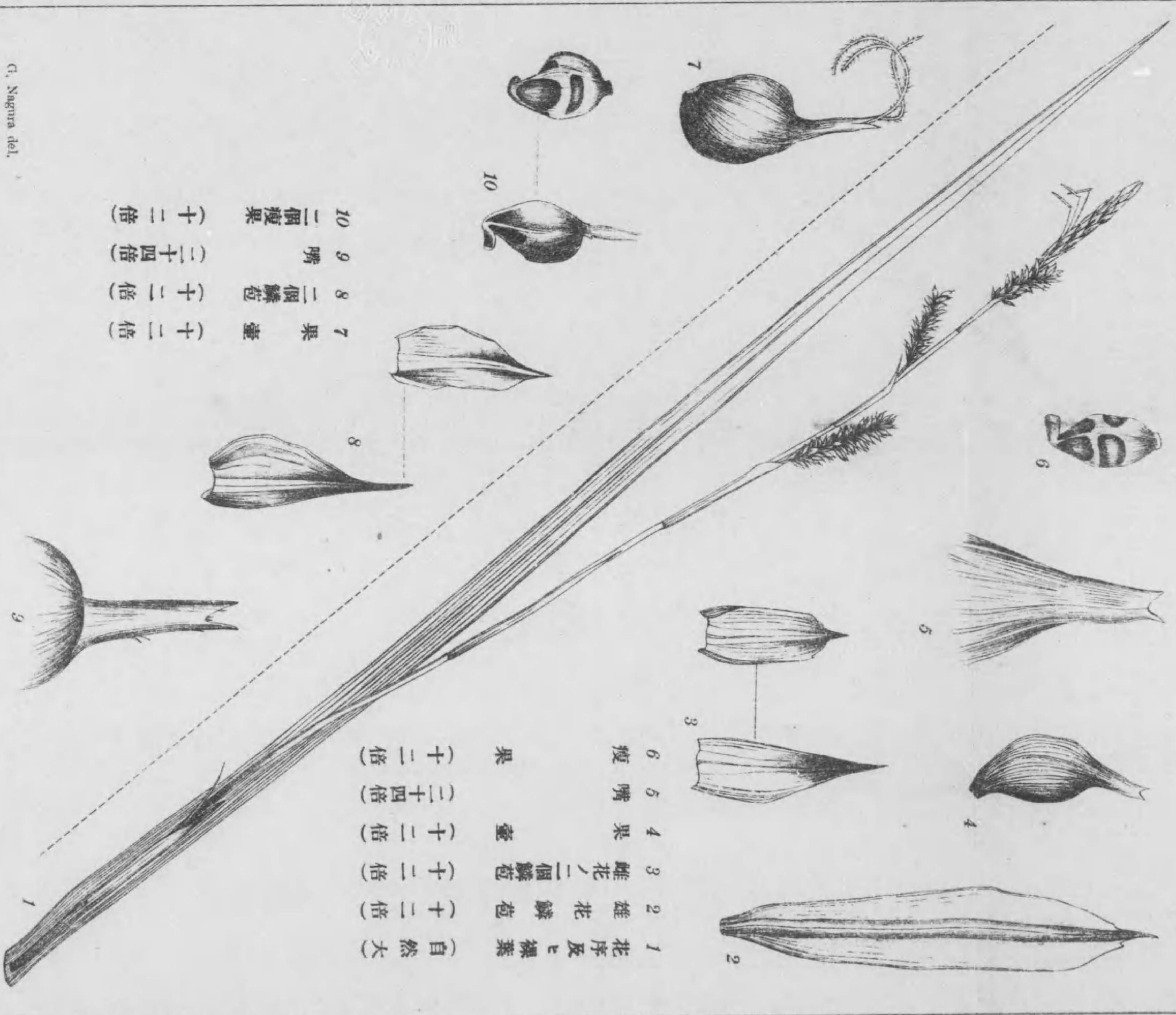




1 花序及裸葉 (自然大)
 2 鱗苞 (十六倍)
 3 果壑 (十六倍)
 4 嘴 (五十六倍)
 5 果瘦 (十六倍)

G. Nagura del.

Carex foliosissima Franch.
 げすんかまやみ



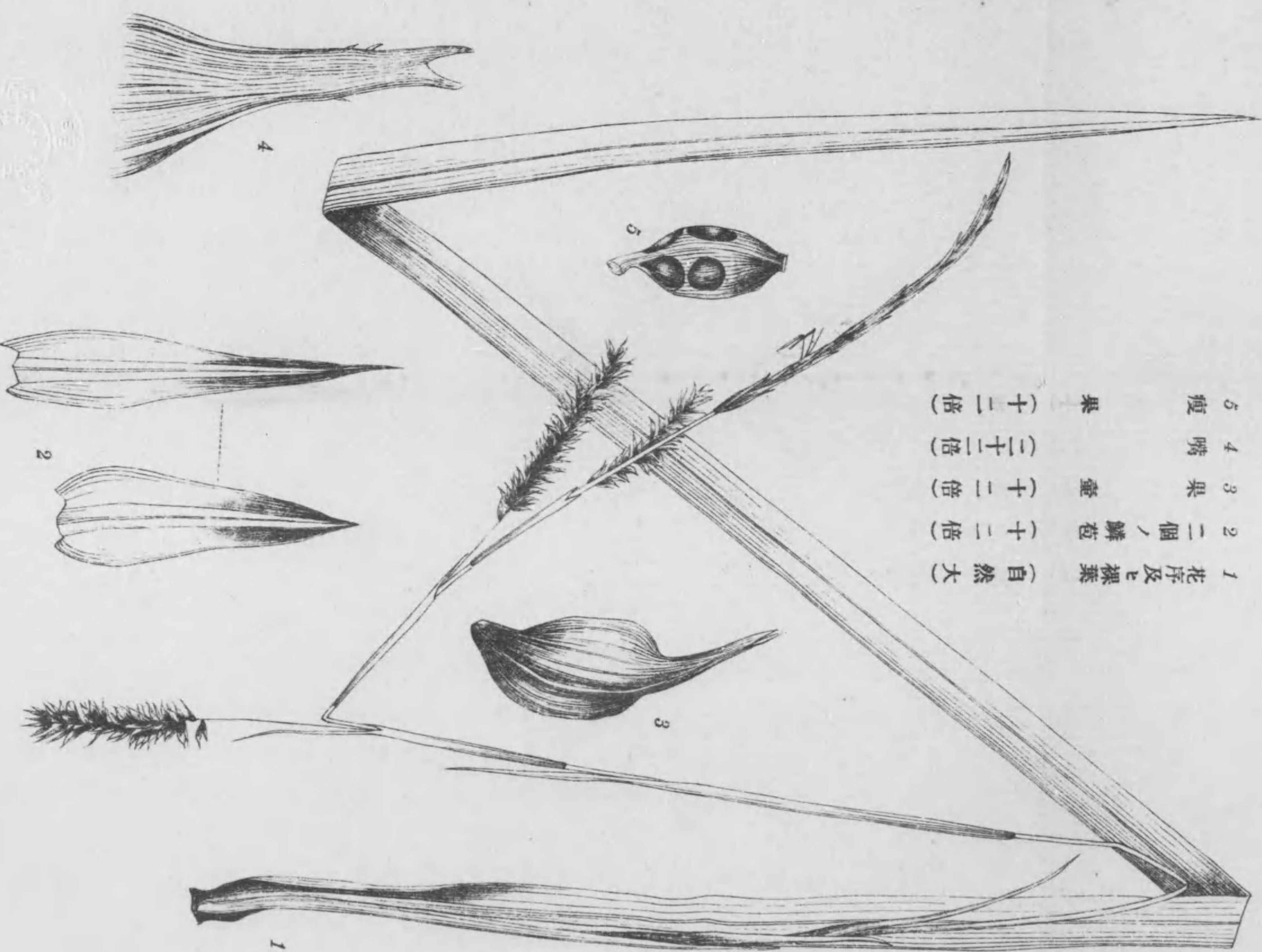
1 花序及裸葉 (自然大)
 2 雄花鱗苞 (十二倍)
 3 雌花ノ二個鱗苞 (十二倍)
 4 果 (十二倍)
 5 喙 (二十四倍)
 6 瘦果 (十二倍)

7 果壺 (十二倍)
 8 二個鱗苞 (十二倍)
 9 喙 (二十四倍)
 10 二個瘦果 (十二倍)

Carex Morrowii Booth 1-6.
 Carex Morrowii Booth, var. *C. yessanensis* (Fr.) Kniekenh. 7-10
 げすんかみるま

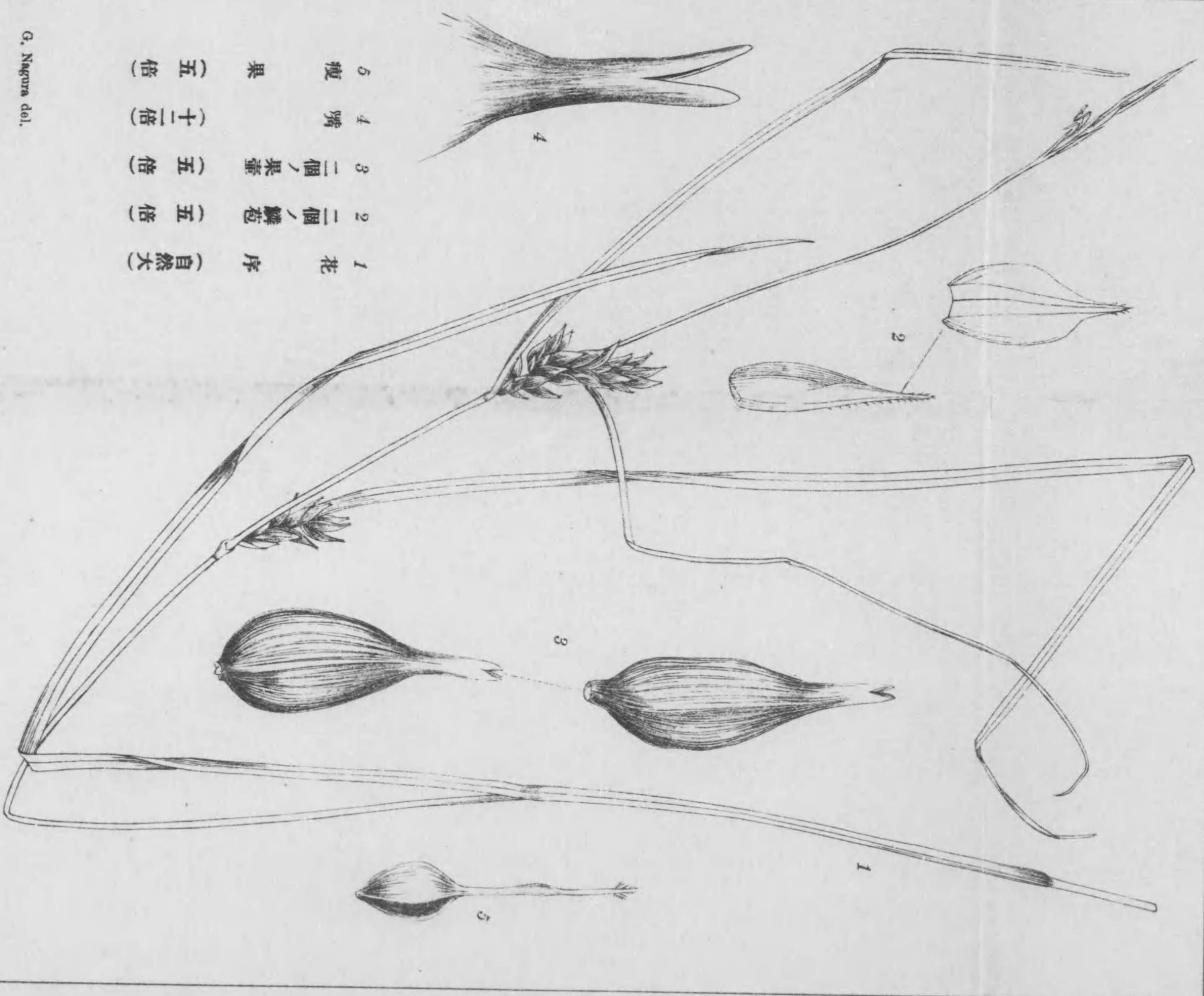
G. Nagura del.

- 1 花序及裸葉 (自然大)
- 2 二個ノ鱗苞 (十二倍)
- 3 果壺 (十二倍)
- 4 喙 (二十二倍)
- 5 瘦果 (十二倍)



G. Nagura del.

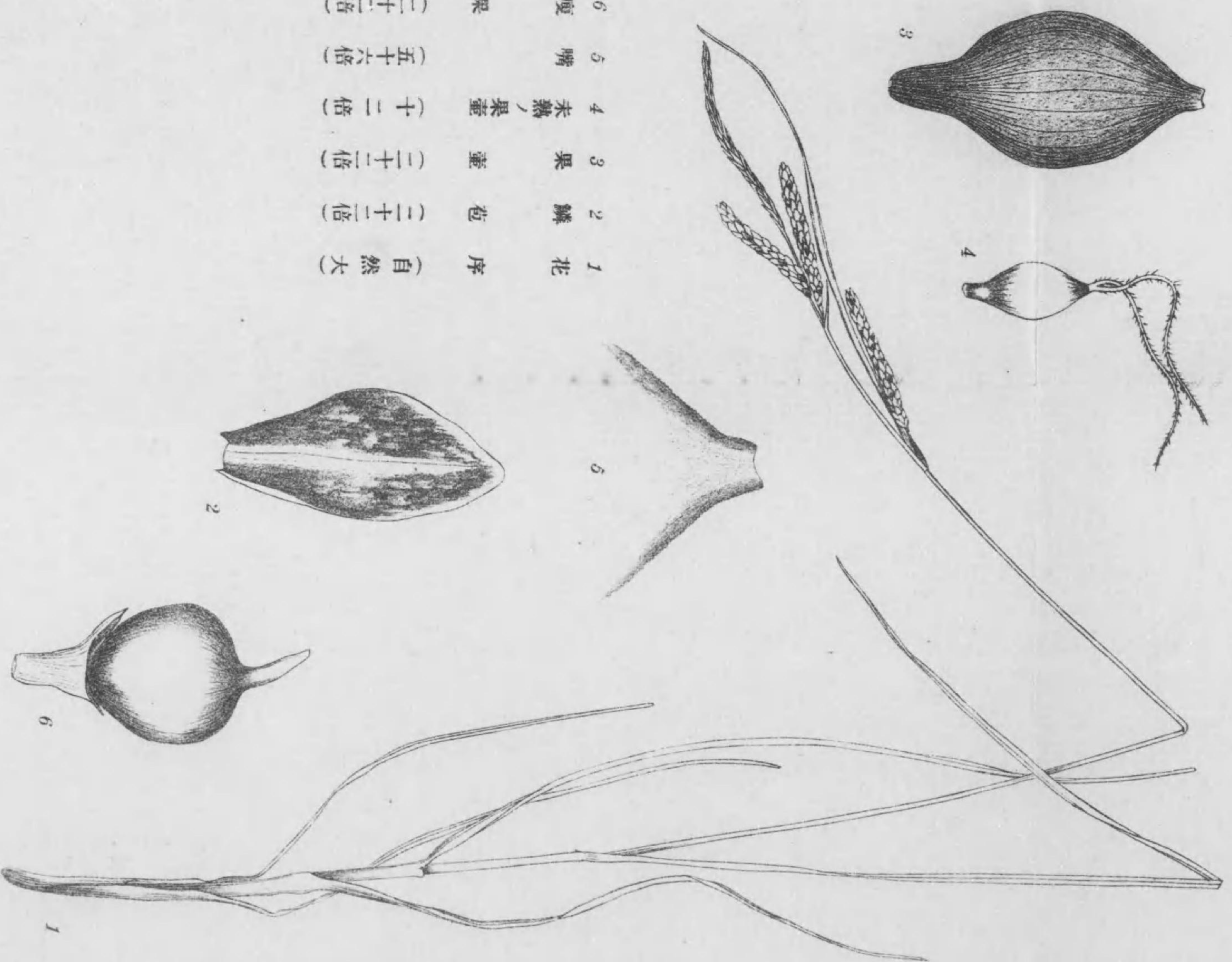
Carex Morrowii Booth var. *C. crasicaulis* Fr.
げすんかほお



- 1 花序 (自然大)
- 2 二個ノ鱗苞 (五倍)
- 3 二個ノ果壻 (五倍)
- 4 嘴 (十二倍)
- 5 瘦果 (五倍)

G. Nagura del.

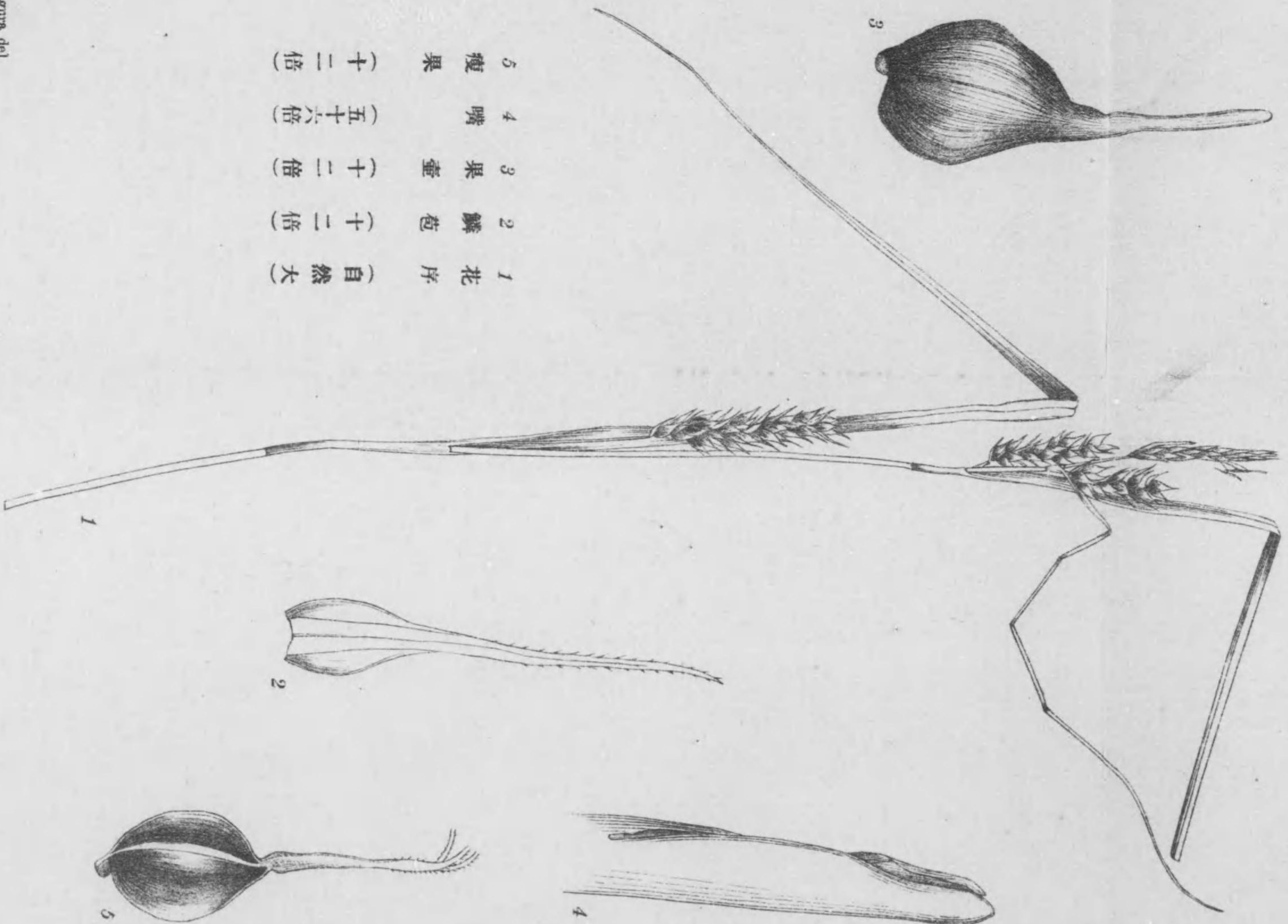
Carex Idzuroei Franch. et Sav.
げすまう



1 花 (自然大)
 2 鱗 (二十二倍)
 3 果 (二十二倍)
 4 未熟、果壺 (十二倍)
 5 嘴 (五十六倍)
 6 瘦果 (二十二倍)

G. Nagurn del.

Carex traidichandiana Kunth. var. *C. Thunbergii* (Steud.) Knekenh.
 け す ぜ あ



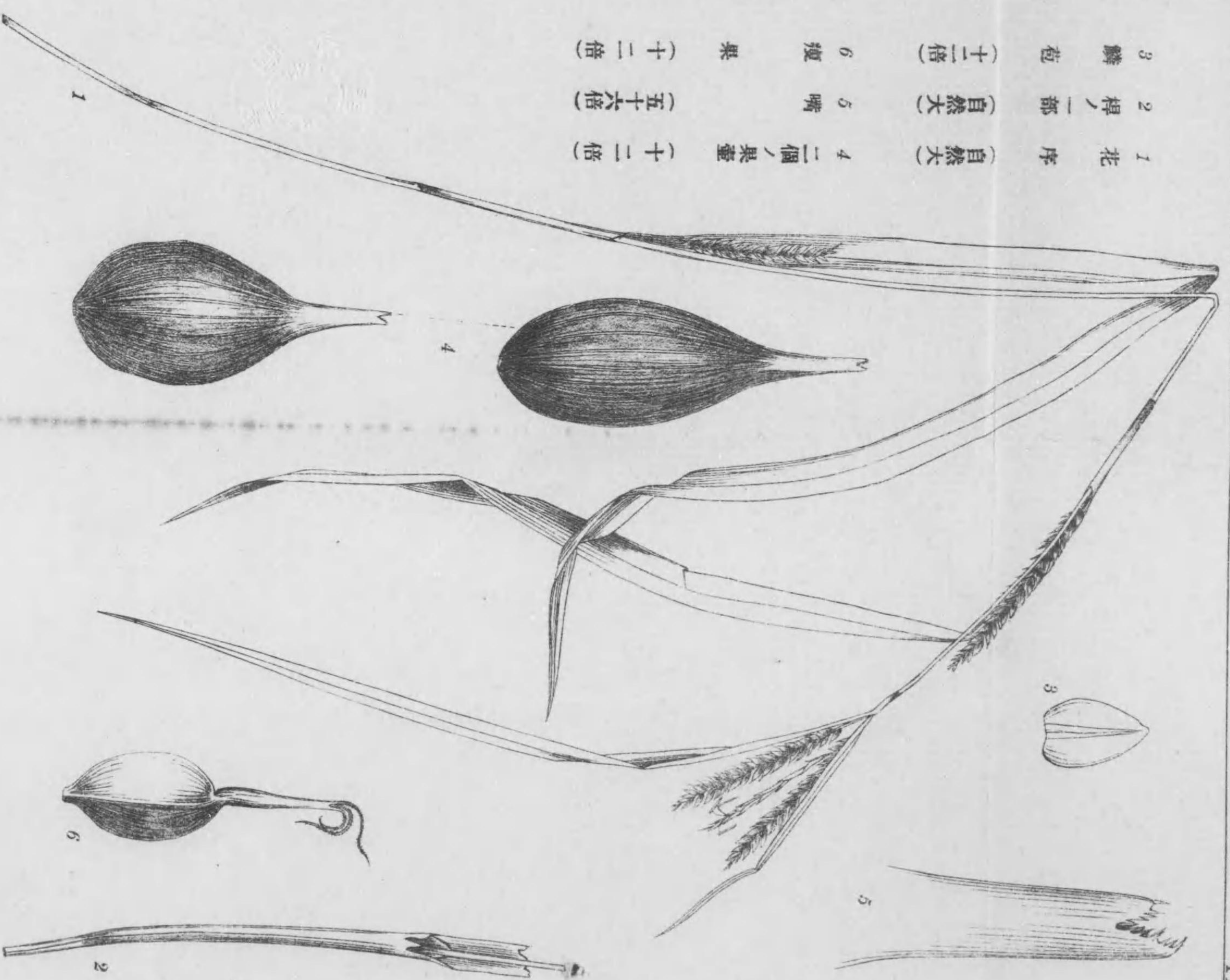
- 1 花序 (自然大)
- 2 鱗苞 (十二倍)
- 3 果壺 (十二倍)
- 4 嘴 (五十六倍)
- 5 瘦果 (十二倍)

G. Nagura del.

Carex Brownii Tuckerm. var. *B. transversa* (Boott) Knekenh.

げすはや

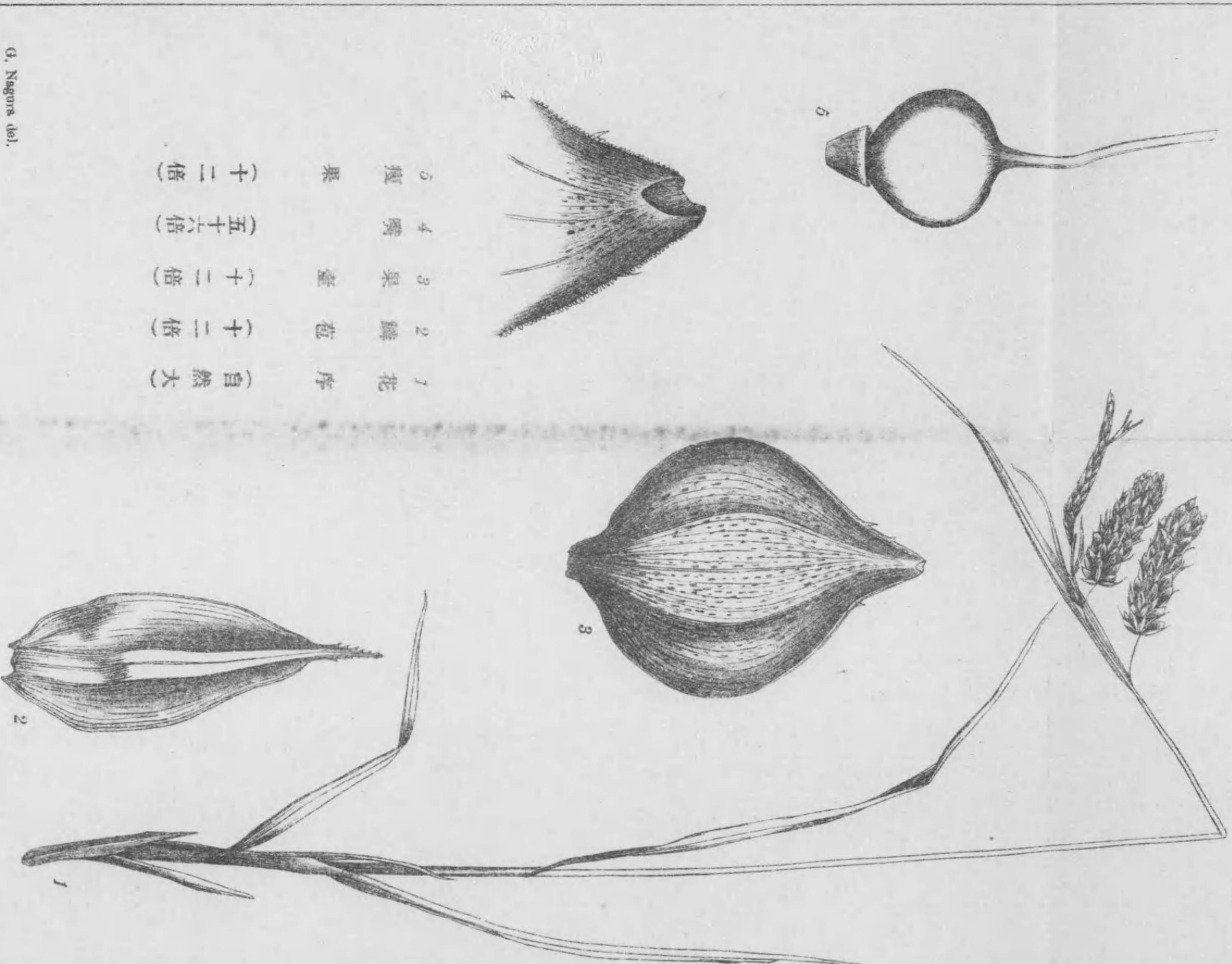
- 1 花序 (自然大)
- 2 桿、一部 (自然大)
- 3 鱗苞 (十二倍)
- 4 二個、果莖 (十二倍)
- 5 嘴 (五十六倍)
- 6 瘦果 (十二倍)



G. Nagura del.

Carex ischnostachya Steud.

げすずゆじ



1 花 (自然大)
 2 花被 (十二倍)
 3 果 (十二倍)
 4 喙 (五十六倍)
 5 果 (十二倍)

G. Nagata del.

Carex pruinosa Boott subsp. *Maximowiczii* Mig.

そ い が

大正四年三月二十八日印刷
大正四年三月三十一日發行

愛 知 縣

印 刷 人 小 池 清
名古屋市東區針屋町三十一番戶

印 刷 所 三 益 社
名古屋市東區針屋町三十一番戶

電話一三二三番

終

